

富山市埋蔵文化財調査報告38

よね だ だいかく  
**富山市米田大覚遺跡**  
**発掘調査報告書**

—米田すずかけ台団地造成工事に伴う埋蔵文化財調査報告—

2009

富山市教育委員会

米田大覚遺跡発掘調査報告書 正誤表

ページ	行	誤	正
P. 16	3行目	S007の記述がない。	S007は縄文時代の叩き石である。長径8.9cm、短径7.4cm、厚さ4.4cmの法量を有す。
P. 23	24行目	梵字を刻むものの風化が激しく字義は不明。	S009・S010には、五輪塔が刻まれている。S012には、梵字を刻むものの、風化が激しく字義は不明。
	25行目	S014は五輪塔の「地」の一部と考えられる。	誤の一文を消す。
P. 25	19行目	()内にS002の記述がない。	(図版 13 082 図版18 347~357 図版24 S002)
P. 25	30行目	S002の記述がない。	S002は縄文時代の打製石斧である。幅8.6cm、長さ17.4cm、厚さ3.8cmの法量を有す。
P. 26	22行目	S006の記述がない。	S006は縄文時代の小型の石棒と思われる。折損部もなく、ほぼ完存する。長さ12.8cm、断面の形状は正円に近く径5.0cmの法量を有す。
P. 27	10行目	S014の記述がない。	S014は五輪塔の地輪の一部と考えられる。
P. 83	下から2行目	SK065 : S005	SK069 : S005



上 米田大覚遺跡調査地遠景（南から）  
下 第2調査区全景（東から）



上 SK066 銅製花瓶出土状況（南から）  
左下 SK066 出土銅製花瓶  
右下 SK066 出土銅製花瓶底面

よね だ だいかく  
**富山市米田大覚遺跡**  
**発掘調査報告書**

—米田すずかけ台団地造成工事に伴う埋蔵文化財調査報告—

2009

富山市教育委員会

# 例 言

- 1 本書は、富山県富山市米田地内に所在する米田大覚遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 調査は、井川不動産株式会社が行う米田すずかけ台団地造成工事に伴う発掘調査である。
- 3 調査は、富山市教育委員会埋蔵文化財センターの指導・監理の下で株式会社アーキジオが担当した。
- 4 調査期間 現地調査 平成20年9月24日～平成20年12月25日  
出土品整理 平成21年1月5日～平成21年12月25日
- 5 調査担当者 監理担当 主査学芸員 堀沢祐一（平成20年度）  
主査学芸員 堀内大介（平成21年度）  
調査担当 森 隆 田所人志  
技術指導 伊藤 潔（財団法人京都市埋蔵文化財研究所）
- 6 調査に際しては、地元米田町内の方々からは多くのご協力を賜った。記して謝意を表したい。
- 7 理化学調査は、パリノ・サーヴェイ株式会社に依頼し、その成果を第4章に掲載した。
- 8 出土品及び原図・写真類は、富山市教育委員会が保管している。
- 9 本書の執筆は、第1章を堀内大介が、第3章第4節と第5章(2)を田邊恵理香が、その他を森隆が行い、それぞれの文責を文末に記した。
- 10 遺構図面に記載される方位は、座標北（世界測地Ⅳ系）を示す。また標高水準は東京湾標準潮位を使用した。
- 11 遺構標記は、以下の通りである。SX:大型土坑 SK:土坑 SP:柱穴 SD:溝 SE:井戸

# 目 次

第1章 調査の経過 .....	1
第2章 遺跡の位置と環境 .....	2
第1節 地理的環境 .....	2
第2節 歴史的環境 .....	2
第3章 調査の概要 .....	4
第1節 調査の方法 .....	4
第2節 自然地形と基本層序 .....	4
第3節 遺構 .....	5
第4節 遺物 .....	15
第4章 理化学的分析 .....	30
第5章 総括 .....	47
(1) 遺構について	
(2) 出土遺物について	
(3) 遺跡について	

## 第1章 調査の経過

米田大覚遺跡は、昭和63年～平成3年に富山市教育委員会が実施した市内分布調査で発見された遺跡である。奈良～平安時代の集落遺跡で、212,000㎡の範囲に広がる。遺跡は、平成5年3月発行『富山市遺跡地図（改訂版）』に登載し、埋蔵文化財包蔵地（市No.201021）として周知した。

平成7・8年度にかけて、遺跡北部において分譲宅地造成工事に伴って発掘調査を実施した。調査の結果、凡そ4群に分けられる掘立柱建物を計32棟検出し、5間×4間（廂付き）建物を核として10間×2間の長舎建物などがL字形に並び、古代郡衙施設の郡庁域と推定される。建物群は3時期以上の変遷が推測され、9世紀中頃の時期を中心にした越中国新川郡衙（郡家）に関連する遺構群と推測した。208点の墨書土器や石帯、緑釉陶器、風字硯など官衙的な遺物も多く出土した（富山市教委2006）。

平成8年、遺跡南西部において分譲宅地造成工事が計画され、15,136㎡を対象に試掘確認調査を実施した。調査の結果、約8,000㎡に奈良時代後半から平安時代前半の遺構・遺物を確認した。この調査結果に基づき開発業者と協議を行ったところ、工事計画は中止されることとなった。

平成20年2月、新たな宅地造成工事が計画され、「埋蔵文化財の情報提供依頼書」が提出された。過去の試掘調査結果を施工者である井川不動産株式会社へ回答し、この調査結果に基づき協議した。宅地部分は盛土造成により保護し、道路部分は道路構造令に基づく工事を行うため、1,869㎡について発掘調査による記録保存を実施することで合意した。発掘調査の実施は、造成工事を元請した島田建設工業株式会社より民間発掘会社である株式会社アーキジオに下請されて行うこととし、市埋蔵文化財センターがアーキジオの調査を監理することとした。

この協議結果措置について、平成20年9月22日付けで施工者である井川不動産・市教委・島田建設工業の三者による協定を締結し、9月24日から発掘調査に着手した。

発掘作業は同年12月25日まで実施し、平安時代の井戸・溝跡、中世の溝跡（河川跡）・土坑などを検出した。市埋蔵文化財センターが現地調査完了を確認後、同日付けで現地を引き渡した。平成20年12月17日に地元住民への現地見学会を開催し、80名が参加した。

その後、引き続き平成21年12月25日まで出土品整理を実施した。 （堀内）



発掘調査風景



現地説明会風景

## 第2章 遺跡の位置と環境

### 第1節 地理的環境

米田大覚遺跡の所在する富山県は、中部地方の日本海側に位置する。ちょうど能登半島の西側の付け根付近にある。県域の北側は富山湾に面して平野部が東西に連なる地勢となる。この平野部は大きくは4つからなり、西から東にかけて氷見平野、砺波・射水平野、富山平野・黒部平野と続く。このうち富山市の旧市域は、ほぼ富山平野を中心としたものであったが、平成の市町村合併によって旧婦中町、八尾町、大沢野町、大山町、細入村、山田村を新たに市域に取り込んだ結果、その市域が大幅に拡大している。これらの市域には西側の呉羽丘陵、南側の大沢野台地などが新たに取り込まれたものの、やはり富山平野が主要な市域の過半を占めている様相に大きな変化はない。

一方、富山平野の北東側に位置する立山連峰は、3,000m級の連山を擁し北アルプスの主峰を成している。

米田大覚遺跡は、現在の神通川の右岸堤防まで約1.5km、遺跡北側の岩瀬海岸部までの距離は約3kmほどである。標高は現況地表面で8m前後を数える。

### 第2節 歴史的環境

米田大覚遺跡の周辺には多数の遺跡が分布している。これらの遺跡は縄文時代から江戸時代までの時期幅があり、多彩な内容の遺跡群が展開している。

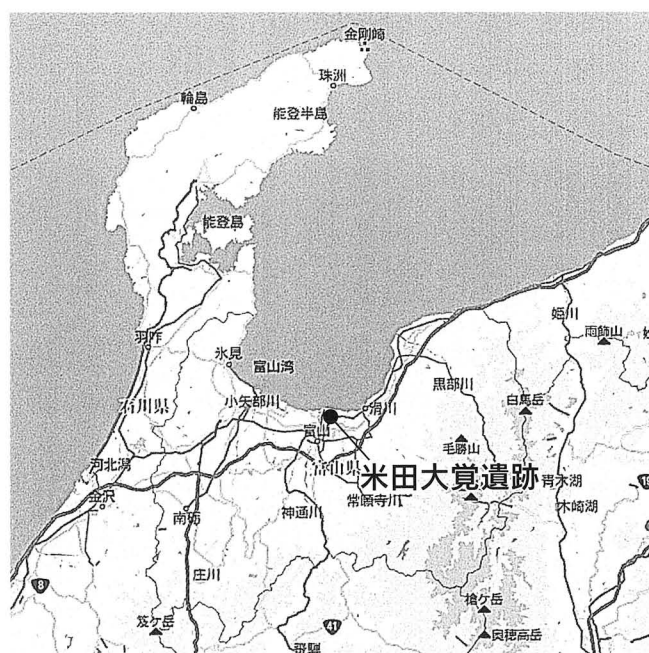
まず縄文時代では、本遺跡北側の岩瀬浜近くに縄文晩期の岩瀬天神遺跡が所在する。この遺跡から出土した縄文土器が岩瀬天神式土器の標識土器となっている。(資料9) 一方、遺跡南側の国道8号線豊田東交差点の西250m付近には、縄文晩期後半の打製石斧や、弥生中期の石包丁型石器(穂摘み具)が出土した縄文晩期～中世の複合遺跡である豊田遺跡が所在する。

弥生時代では南東側に玉作工房を伴う集落遺跡である宮町遺跡や、海岸部の日方江遺跡などがみられる。これらの遺跡は神通川河口部の氾濫原に位置する集落ブロックの一翼を構成している。

古墳時代前期になると本遺跡の南側約1kmに、一辺20m強の規模を有する方墳であるちょうちょう塚が築造される。赤彩土器や底部穿孔土器の出土も報告されており、周辺集落を生産基盤とする地域首長の首長墓と考えることができる。同時に弥生時代後期から古墳時代にかけて存続する豊田大塚・中吉原遺跡などの集落遺跡がその拠点集落となる可能性が高い。

古代になると遺跡至近に古代北陸道が通過していた可能性が指摘されている。とくに本遺跡の南東側約1.5kmに位置する宮町遺跡では、平安時代の道路跡と掘立柱建物群が検出され、「和名抄」にみる古代志麻郷に関連する官衙遺跡とする考えもみられる。

一方、豊田大塚・中吉原遺跡では人面墨書土器や人形(「ひとがた」)など祭祀遺物が多く出土している。米田大覚遺跡については、



第1図 遺跡位置図



これまで数次におよぶ試掘確認調査や発掘調査が実施されており、その結果奈良・平安時代を主体とする官衙・集落遺跡と考えられている。また平成7・8年度に実施された発掘調査では、奈良・平安時代の掘立柱建物32棟、井戸9基、道路遺構などが検出されている。出土遺物には208点の墨書土器の他に石帯や緑釉陶器、風字硯などの出土がみられる。これらの遺構は古代新川郡衙に関連する遺構群と考えられている。

中世になると、室町時代頃に成立した廻船式目にみえる十大港(三津七湊)の一つである「越中岩瀬湊」が成立するが、湊の正確な位置はこれまで不詳である。ただ江戸時代の初期に神通川の流れが変わり東岩瀬(神通川の東)が富山藩の主要湊となり、以後江戸時代を通じて越中平野で穫れた米を積み出す港として栄えた。

このほかでは四方荒屋遺跡や四方北窪遺跡などの中世集落遺跡や、中世後期の東岩瀬城、日方江城などが、本遺跡周辺に分布している。また中世末から近世に神通川右岸河口に形成された千原崎遺跡は神通川にかかる渡し場の宿場的な遺跡として知られる。(森)



第2図 米田大覚遺跡周辺遺跡分布図

## 第3章 調査の概要

### 第1節 調査の方法

今回の調査は平成7・8年度に富山市教育委員会が実施した調査区の南西側に所在する（図版1）。調査は事前に富山市教育委員会の実施した試掘結果に基づいて計画した。今回の調査地は米田大覚遺跡の周知の遺跡の範囲内では南西部に位置する。周辺の調査前現況は水田である。掘削調査の対象となったのは住宅団地造成計画に伴う道路部分で、「E」字状を呈した細長いトレンチ状の調査区からなる。このため本報告書では記述の便宜を図るため、第1～4調査区からなる調査区を設定した（図版1下段）。これらの調査区の配置は、調査対象地の東側境界に沿って大きく東西方向にのびる道路部分（第1調査区）と、これを起点に西側にのびる3本の道路部分（第2調査区～第4調査区）から構成される。またこれとは別に現地調査においては、国土座標軸に同調し全調査区をカバーする10m単位の方角区画を設置した。この方角区画の南西角を任意の起点（A1）とし、東西軸を1、2、3…、南北軸をA、B、C…と呼称し、両者を組み合わせて一辺10m単位の調査区を設定した。例えばA1地区とは、南西角の杭番号がA1となる10m四方の区画のことを指す。この方角区画を基準に、空中写真測量や検出遺構の記載、出土遺物の分類収納などの作業をおこなった。調査はまず機械掘削によって耕作土層の除去作業から開始した。ついで機械掘削が終了した調査区から包含層掘削、遺構検出、遺構掘削の作業を順次実施していった。（森）

### 第2節 自然地形と基本層序

調査地周辺の現況は平坦で、水田として土地利用されている。海岸部からの距離は約3kmで、標高は8m前後を数える。付近は一見低平な地形が広がるようにみえるが、旧地形では蛇行する神通川の旧河道を含む多数の旧河道や河岸段丘、ラグーン（潟湖）の痕跡と考えられる湿地帯、京浜部ではこれに砂丘が加わる複雑な旧地形の展開が復元される。このなかで本調査地の遺構面の深さは、浅いところでは耕作土直下の約0.2m、深くても0.6m内外にあり、低湿地の一角のなかでも周辺よりやや高い微高地の一角にあるものと推定される。このことから遺構面までの堆積土層は薄く、包含層等の残存もあまり見られない状況である。各調査区の基本層序は以下の通りである。第1調査区の南側では、第1層耕作土、第2層床土、第3層暗オリーブ褐色泥砂層の層序がみられ、GLから0.4mの深さで黄灰褐色砂質土層の地山となる。また第1調査区北側ではGLから0.2mの深さで、ほぼ耕作土直下が地山となるところが多い。東西に細長い第2調査区は西側がやや深くなり、第1層耕作土、第2層床土のあと2層ほどの間層がみられ、地山となるにぶい黄橙色砂質土層となる。GLからの深さは概ね0.5～0.6mである。第3調査区西側では第1層耕作土、第2～4層黒褐色泥土層、第5層灰黄褐色砂質土層の層序がみられ、GLから0.6mの深さで黄橙色砂質土層の地山となる。第4調査区西側では第1層耕作土、第2層床土、第3層明褐色砂質土層、第4層黒褐色泥砂層の層序がみられ、GLから0.4～0.5mの深さで黄橙色砂質土層の地山となる。以上から現地表から遺構面までの深さは0.2～0.6mとそれほど深くない。反面現況で遺構掘削途上でも湧水が激しく、地下水位面は高い。すなわち遺構面が浅いにもかかわらず調査地全体が常に低湿な状況であった。ただ遺構面を構成する地山層は黄橙色系の砂質土であり粘性が強くなく、ここに黒褐色系の泥砂土層を主な覆土とする土坑状・ピット状遺構が多数切り込まれた状態で検出された。（森）

### 第3節 遺構

今回の調査では古代・中世の遺構が多く検出されている。このうち古代の遺構については井戸跡や若干の溝などが検出されているものの、遺構のまとまりに欠いている。とくに今回の調査では古代の掘立柱建物はまったく検出されておらず、官衙的な掘立柱建物群が多数検出された平成7・8年度調査地とは対照的な様相を示す。一方、当調査地では中世の遺構が多く検出されている。古代の遺構とは反対に中世の遺構は隣接する平成7・8年度調査地ではあまり検出されておらず、米田大覚遺跡では今回が初めての知見となる。ただし遺構の主体は溝や土坑であり、掘立柱建物などの集落遺構は検出されなかった。以下に検出遺構の概要を記しておく。

#### 井戸 3基

**SE001** (図版4) :第1調査区中央やや北側に位置する。平面形態は隅丸方形で、一辺1.6～1.72m、検出面からの深さ0.84mを数える。井戸枠等は残存していない。井戸内の堆積土層は黒色泥砂土層を基調とする。ほぼ水平堆積に近い状況であり、掘り込み土部分を含めて掘り方全体を浚えて井戸枠を完全に撤去し、その後そのまま放棄されたような様相を示す。井戸内からの出土遺物には須恵器杯蓋(001～003・007)、壺(011～013)、土師器杯A(014・015・017・018)須恵器皿墨書土器(016)、土師器小型甕などが出土している。時期幅はあるが、概ね8世紀後半から9世紀代の様相を示す。

**SE002** (図版4) :第1調査区SE001の北側10mほど離れた位置にある。中世のSD014に上面を大きく切り込まれている。平面形態は隅丸方形に近い不整円形である。一辺2.23～2.7m、検出面からの深さ0.68mを数える。井戸枠等は残存していない。井戸内の堆積土層は黒色泥土層を基調とする。上面を大きく溝が切り込んでいるため0.3mほどの覆土が残存するにすぎないが、残った部分の断面はほぼ水平堆積に近い状況である。覆土の基本的な土色や堆積状況はSE001と共通する。井戸内からは須恵器杯(022～029)、土師器杯(032～045・041は黒色土器)、土師器杯B(030・031)、土師器土錘(046～048)、土師器長胴甕口縁部(049)などが出土している。SE001と同様に、概ね8世紀後半から9世紀代の様相を示す。

**SE003** (図版4) :第2調査区中央やや西寄りの南壁に接して検出されている。上面をSD015によって大きく切り込まれている。井戸の平面形態はきれいな隅丸方形で、一辺1.9～2m程度の規模を有す。検出面からの深さは1.46mを数える。井戸の底面にセイロ組された横木枠の棧が残されている。この棧の外側に上から差し込まれて井戸枠となる縦板はすべて抜かれていて残存しない。断面観察では井戸枠の裏側に充填した掘り込み(黄橙色粘質土層～明青灰色粘土層等)が残存している。井筒内は下層がオリーブ黒色泥土層、上層が黄色系粘質土層のブロック状となる。出土遺物は認められないが、古代末から中世前期にかけての時期のものと推定される。

#### 大型土坑 1基

**SX001** (図版5) :第4調査区東側に位置する大型土坑をSX001とした。平面形態は不整長楕円形を呈する。長径7.76m、短径3.72mの規模を有する。この大型土坑の主軸方位は周辺の中世溝の方向と一致しているが、機能や性格等は不明である。検出面からの最大深0.92mを数える。土坑内の覆土は褐灰色泥砂土層～灰黄褐色泥砂土層を基調とする。出土遺物には大きく古代と中世のものがある。このうち古代の遺物(050～062・075・077)は混入と考えられる。中世の遺物(063～074・076・078～081)には瀬戸美濃鉄釉天目茶椀(063・064)、越前播鉢(065)、瀬戸美濃灰釉陶器皿(072・073)、土師器皿(066～068・070・071)、龍泉窯系青磁(074)、珠洲(076・078～081)などがある。土器・陶磁器以外では下駄(M005)が出土している。

## 土坑 69基

**SK001** (図版7) :第4調査区中央南側に位置する。平面形態は円形である。規模は径0.3m、検出面からの深さは0.35mを数える。土坑内の覆土は第1層褐灰色泥砂土層、第2層にぶい黄橙色泥砂土層、第3層にぶい黄橙色泥砂土層やや粘質である。出土遺物には土師器杯(083)、弓状木製品(M016)がある。

**SK002** (図版7) :第4調査区東側に位置する。平面形態は楕円形である。規模は長径0.6m、短径0.4m、検出面からの深さは0.4mを数える。土坑内の覆土は第1層黒褐色泥砂土層、第2層褐灰色泥砂土層、第3層黒褐色泥砂土層である。出土遺物には土師器皿(084・085)がある。

**SK003** (図版7) :第3調査区西側に位置する。SD028の西側に隣接する。平面形態は隅丸方形である。規模は0.9～1.0m、検出面からの深さは0.7mを数える。土坑内の覆土は第9層褐灰色泥砂土層、第12層褐灰色泥砂土層、第13層黒褐色泥砂土層やや粘質、第14層黒褐色泥土層、第15層黒褐色泥土と黄橙色砂の互層、第16層褐灰色泥土層、第17層褐灰色泥砂土層である。出土遺物には土師器杯A(087)、杯B(086)、陶器皿(088)がある。

**SK004** (図版7) :第1調査区北側に位置する。SD014の西側に隣接する。平面形態は不整形である。規模は1.2～0.9m、検出面からの深さは0.3mを数える。土坑内の覆土は灰黄褐色泥砂土層＋黒色泥砂土ブロック混である。出土遺物には須恵器杯B(089)、土師器杯A(090)、土師器杯(092)、土師器甕(091・093・094・096～099)、須恵器壺(095)、土製品土錘(100)、青磁碗(101)、珠洲播鉢(102)がある。

**SK005** (図版4) :第2調査区中央に位置する。平面形態は隅丸長方形で北側の半分が調査区外である。規模は長辺 $1.8 + \alpha$ ～短辺0.8m、検出面からの深さは1.0mを数える。土坑内の覆土は第1層灰褐色泥砂土層、第2層褐灰色泥砂土層、第3層灰黄褐色泥砂土層、第4層黒褐色泥砂土層である。出土遺物には須恵器杯B(103)がある。

**SK006** (図版4) :第2調査区中央に位置する。平面形態は隅丸長方形である。規模は長辺3.7～短辺2.5m、検出面からの深さは0.6mを数える。土坑内の覆土は第1層灰黄褐色泥砂土層、第2層灰黄褐色泥砂土層＋黄橙色砂粘質土ブロック、第3層灰黄褐色泥砂土層＋黒色泥砂粘質土ブロック、第4層黄灰色泥土層である。出土遺物には土師器杯A(108・109)、須恵器杯B(110)がある。

**SK007** (図版5) :第2調査区中央に位置する。平面形態は隅丸方形で北側半分が調査区外である。規模は一辺2.8m、検出面からの深さは0.2mを数える。土坑内の覆土は第1層にぶい黄褐色泥砂土層、第2層黒褐色泥砂土層粘質である。出土遺物には須恵器壺(111)がある。

**SK008** (図版7) :第1調査区中央に位置する。平面形態は隅丸長方形で南側一部が調査区外である。規模は長辺 $1.0 + \alpha$ ～短辺0.9m、検出面からの深さは0.5mを数える。土坑内の覆土は第1層褐灰色泥砂土層、第2層黒褐色泥砂土層＋黄橙色砂質土層、第3層灰黄褐色泥砂土層、第4層黒褐色泥砂土層である。出土遺物には須恵器蓋(119)、土師器皿(120)がある。

**SK009** (図版7) :第4調査区中央に位置する。平面形態は円形である。規模は直径0.6m、検出面からの深さ0.3mを数える。土坑内の覆土は第1・2層褐灰色泥砂土層、第3層黒褐色泥砂土層である。出土遺物には土師器杯B(121)がある。

**SK010** (図版7) :第1調査区中央に位置する。平面形態は楕円形である。規模は長径0.9～短径0.7m、検出面からの深さは0.75mを数える。土坑内の覆土は第1層黒褐色泥砂土層、第2層黒色泥砂土層である。出土遺物には須恵器杯B(122)がある。

**SK011** (図版7) :第1調査区中央に位置する。平面形態は楕円形である。規模は長径0.9～短径

0.7m、検出面からの深さは0.5mを数える。土坑内の覆土は第1層褐灰色泥砂土層、第2層にぶい黄褐色砂質土層、第3層黒色泥砂土層、第4層黒色泥砂土層+にぶい黄橙色砂質土層である。出土遺物には須恵器杯A (123) がある。

**SK012** (図版5) :第1調査区中央に位置する。平面形態は隅丸長方形である。規模は長辺3.2～短辺2.6m、検出面からの深さは0.8mを数える。土坑内の覆土は第1層灰黄褐色泥砂土層、第2層にぶい黄色泥砂土層、第3層にぶい黄色砂粘質土層+褐灰色泥砂土層、第4層褐灰色泥土層、第5層褐灰色泥砂土層、第6層黒褐色泥土層、第7層褐灰色砂粘質土層+にぶい黄橙色砂質土層、第8層灰黄色細砂土層、黒色泥土層混である。出土遺物には須恵器蓋 (124)、須恵器杯B (125)、木製品漆器椀 (M002) がある。

**SK013** (図版7) :第1調査区南側に位置する。平面形態は不整形である。西側の一部は調査区外である。規模は長辺3.0～短辺1.6m、検出面からの深さは0.3mを数える。土坑内の覆土は第1層黒褐色泥砂土層+黄橙色泥砂土ブロック、第2層褐灰色泥砂土層、第3層黒色泥砂土層である。出土遺物には土師器皿 (126) がある。

**SK014** (図版7) :第2調査区中央に位置する。平面形態は円形である。規模は直径0.5m、検出面からの深さは0.09mを数える。土坑内の覆土は黒褐色泥砂土層である。出土遺物には土師器甕 (127)、須恵器杯B (128) がある。

**SK015** (図版7) :第3調査区東側に位置する。平面形態は隅丸長方形である。規模は長辺0.8～短辺0.6m、検出面からの深さは0.62mを数える。土坑内の覆土は第1層褐灰色泥砂土層、第2層褐灰色砂質土層+にぶい黄橙色砂質土ブロック、第3層にぶい黄橙色砂質土層+褐灰色泥砂土層である。出土遺物には土師器皿 (129) がある。

**SK016** (図版7) :第3調査区東側に位置する。平面形態は円形である。規模は径0.7m、検出面からの深さは0.78mを数える。土坑内の覆土は第1層褐灰色砂粘質土層、第2層黄橙色砂粘質土層+黄橙色砂粘質土ブロック少量である。出土遺物には土師器皿 (130～132)、珠洲播鉢 (133) がある。

**SK017** (図版7) :第3調査区東側に位置する。平面形態は楕円形である。規模は長径1.3～短径0.7m、検出面からの深さは0.6mを数える。土坑内の覆土は第1層褐灰色泥砂土層炭少量、第2層褐灰色泥砂土層、第3層黒褐色泥土層である。出土遺物には土師器皿 (134) がある。

**SK018** (図版7) :第4調査区西側に位置する。平面形態は楕円形である。西側の一部が調査区外である。規模は長径2.5+ $\alpha$ ～短径1.0m、検出面からの深さは0.26mを数える。土坑内の覆土は第1層黒褐色泥砂土層+にぶい黄橙色砂少量、第2層黒褐色砂粘質土層である。出土遺物には土師器皿 (135) がある。

**SK019** (図版7) :第4調査区西側に位置する。平面形態は変形楕円形である。北側の一部が調査区外である。規模は長径2.9～短径1.6m、検出面からの深さは0.21mを数える。土坑内の覆土は第1層褐灰色泥砂土層、第2層褐灰色泥砂土層+黒色泥砂+黄橙色砂ブロック少量、第3層褐灰色砂粘質土層+黄橙色砂粘質土ブロック、第4層黒色泥砂土層+黄橙色泥砂土ブロックである。出土遺物には須恵器蓋 (136) がある。

**SK020** (図版7) :第4調査区西側に位置する。平面形態は円形である。規模は径0.7m、検出面からの深さは0.7mを数える。土坑内の覆土は第1層灰黄褐色泥砂土層+灰黄褐色砂質土層、第2層黒褐色泥砂層である。出土遺物には土師器杯A (137)、土師器皿 (138) がある。

**SK021** (図版7) :第3調査区東側に位置する。平面形態は隅丸方形である。規模は一辺0.8～0.9m、検出面からの深さは0.65mを数える。土坑内の覆土は褐灰色砂粘質土層である。出土遺物は土師器

皿（139）である。

**SK022**（図版7）：第4調査区西側に位置する。平面形態は楕円形である。規模は長径0.8～短径0.6m、検出面からの深さは0.82mを数える。土坑内の覆土は第1層黒褐色泥砂土層、第2層黄橙色砂質土層に褐灰色砂質土層が帯状に入る。出土遺物には土師器皿（140）がある。

**SK023**（図版7）：第4層西側に位置する。平面形態は円形である。規模は径0.7m、検出面からの深さは0.7mを数える。土坑内の覆土は第1層黒褐色泥砂土層、第2層黒色泥砂土層である。出土遺物には土師器甕（141）がある。

**SK024**（図版8）：第4調査区西側に位置する。平面形態は楕円形である。規模は長径1.0～短径0.6m、検出面からの深さは0.72mを数える。土坑内の覆土は第1・2層黒褐色泥砂土層、第3層黒色砂泥土層、第4層黒色泥土層である。出土遺物には珠洲播鉢（142）がある。

**SK025**（図版8）：第3調査区東側に位置する。平面形態は円形である。規模は径0.9m、検出面からの深さは0.3mを数える。土坑内の覆土は第1層黒色泥砂土層、第2層黒色砂粘質土層＋にぶい黄橙色砂粘質土層、第3層黒褐色泥砂土層＋にぶい黄橙色砂質土層である。出土遺物には土師器杯A（143）、須恵器杯B（144）がある。

**SK026**（図版8）：第3調査区中央に位置する。平面形態は隅丸長方形である。北側の一部が調査区外である。規模は長辺1.5～短辺1.2m、検出面からの深さは0.5mを数える。土坑の覆土は第1層灰黄褐色砂質土層、第2層灰黄褐色砂質土層＋にぶい黄橙色砂質土ブロック混、第3層褐灰色泥土層＋黒褐色泥土層である。出土遺物には土師器皿（145）がある。

**SK027**（図版8）：第3調査区東側に位置する。平面形態は不整形である。規模は一辺0.8～0.9m、検出面からの深さは0.75mである。土坑内の覆土は第1層灰黄褐色泥砂土層、第2層褐灰色泥砂土層崩壊、第3層黒色泥土層である。出土遺物には土師器皿（146～148）、陶器碗（149）などがある。

**SK028**（図版8）：第3調査区東側に位置する。平面形態は楕円形である。北側の一部が調査区外である。規模は長径0.7+ $\alpha$ ～短径0.7m、検出面からの深さは0.76mである。土坑内の覆土は第1層褐灰色泥砂土層、第2・3層灰黄褐色泥砂土層、第4層黒色泥砂土ブロック＋にぶい黄橙色砂質混合土とにぶい黄橙色砂質土の互層である。出土遺物には土師器皿（150）がある。

**SK029**（図版8）：第3調査区中央に位置する。平面形態は不整形である。規模は一辺1.3～1.4m、検出面からの深さは0.52mを数える。土坑内の覆土は黒褐色泥砂土層である。出土遺物には土師器皿（151）がある。

**SK030**（図版6）：第3調査区中央に位置する。平面形態は隅丸長方形である。東側の一部が調査区外である。規模は長辺2.8～短辺1.6m、検出面からの深さは0.28mを数える。土坑内の覆土は第1層灰黄褐色泥砂土層、第2層褐灰色泥砂土層、第3層褐灰色泥砂土層＋にぶい黄橙色泥砂土混である。出土遺物には土師器皿（152・153）がある。

**SK031**（図版8）：第1調査区北側に位置する。平面形態は隅丸長方形である。規模は長辺1.1～短辺0.9m、検出面からの深さは0.7mを数える。土坑内の覆土は第1層黒色砂粘質土層＋黄橙色砂粘質土層、第2層黒色砂粘質土層、第3層灰黄褐色砂粘質土層＋黒褐色砂粘質土層＋黄橙色泥土ブロックである。出土遺物には土製品土錘（154）がある。

**SK032**（図版8）：第2調査区西側に位置する。平面形態は円形である。規模は径0.7m、検出面からの深さは0.4mを数える。土坑内の覆土は第1層褐灰色泥砂土層、第2層黒褐色泥土層である。出土遺物には土師器皿（155）がある。

**SK033**（図版8）：第2調査区中央に位置する。平面形態は円形である。規模は径0.8m、検出面からの

深さは0.9mである。土坑内の覆土は黒褐色泥砂土層である。出土遺物には土製品土錘（156）がある。

**SK034**（図版8）：第3調査区東側に位置する。平面形態は楕円形である。西側にSK035が隣接する。規模は長辺 $1.7 + \alpha$ ～短辺0.7m、検出面からの深さは0.19mを数える。土坑内の覆土は灰黄褐色泥砂土層である。出土遺物は須恵器蓋（157）である。

**SK035**（図版8）：第3調査区東側に位置する。平面形態は円形である。東側にSK034が隣接する。規模は径0.6～0.7m、検出面からの深さは0.8mである。土坑内の覆土は第1層灰黄褐色泥砂土層、第2層灰褐色泥砂土層、第3層黒褐色泥砂土層＋にぶい黄橙色砂質土ブロック少量含、第4層黒褐色泥砂土層、第5層黒褐色泥土層＋灰白色砂質土層少量含、第6層黒色泥土層である。出土遺物には青磁碗（158）がある。

**SK036**（図版8）：第3調査区西側に位置する。平面形態は楕円形である。規模は長径1.7～短径1.0m、検出面からの深さは0.5mを数える。土坑内の覆土は第1層灰黄褐色泥砂土層炭少量混、第2層褐灰色泥砂土層である。出土遺物には土師器皿（159～161）がある。

**SK037**（図版6）：第3調査区西側に位置する。平面形態は楕円形である。北側の一部は調査区外である。規模は長径 $1.0 + \alpha$ ～短径0.9m、検出面からの深さは0.4mを数える。土坑内の覆土は第1層灰黄褐色泥砂土層＋黄橙色砂質土ブロックである。第2層黄橙色砂質土層＋黒色泥砂少量含、第3層黒褐色泥砂土層＋黄褐色泥砂土ブロック少量である。出土遺物には土師器皿（162）、土師器杯A（163）、土師器甕（164）がある。

**SK038**（図版8）：第3調査区中央に位置する。平面形態は楕円形である。規模は長径1.2～短径0.8m、検出面からの深さは0.8mを数える。土坑内の覆土はにぶい黄橙色砂質土層＋黄橙色・黒色砂質土ブロック少量含である。出土遺物には土師器皿（165～168）がある。

**SK039**（図版8）：第3調査区中央に位置する。平面形態は楕円形である。西側の一部がSK038に隣接する。規模は長径 $0.5 + \alpha$ ～短径0.5m、検出面からの深さは0.2mを数える。土坑内の覆土は第1層黒色泥砂土層＋黄褐色泥砂土ブロック少量、第2層黒褐色泥砂土層＋黄褐色泥砂ブロック少量である。出土遺物には土師器皿（169・170）がある。

**SK040**（図版8）：第1調査区南側に位置する。平面形態は楕円形である。規模は長径0.9～短径0.7m、検出面からの深さは0.5mを数える。土坑内の覆土は第1・2層黒褐色泥砂土層、第3層黒色泥土層である。出土遺物には須恵器杯B（171）、土師器皿（172）がある。

**SK041**（図版8）：第3調査区西側に位置する。平面形態は隅丸方形である。規模は一辺0.6～0.7m、検出面からの深さは0.4mである。土坑内の覆土は第1層灰黄褐色泥砂土層、第2層褐灰色泥砂土層、第3層明黄褐色砂質土層＋褐灰色砂質土少量、第4層褐灰色砂質土層＋明黄褐色砂質土少量、第5層褐灰色砂質土層＋明黄褐色砂粘質土層である。出土遺物には珠洲甕（173）がある。

**SK042**（図版8）：第3調査区西側に位置する。平面形態は隅丸長方形である。規模は長辺1.5～短辺1.1m、検出面からの深さは0.6mを数える。土坑内の覆土は第1層灰黄褐色泥砂土層、第2層褐灰色泥砂土層、第3層褐灰色砂質土層＋にぶい黄橙色砂質土層、第4層にぶい黄橙色砂質土層＋黒褐色泥砂土層、第5層黒褐色泥土層である。出土遺物には須恵器杯B（174）、土師質土器不明品（175）がある。

**SK043**（図版8）：第3調査区西に位置する。平面形態は円形である。規模は径0.9m、検出面からの深さは0.42mを数える。土坑内の覆土は第1層灰黄褐色泥砂土層、第2層灰黄褐色砂質土層＋灰黄褐色砂質土層＋黒褐色土ブロック少量含、第3層黒褐色泥砂土層＋灰黄褐色砂粘質土層＋明黄褐色砂粘質土ブロック少量含である。出土遺物には土師器皿（176）がある。

**SK044** (図版8) :第3調査区中央に位置する。平面形態は楕円形である。規模は長径1.2～短径1.0m、検出面からの深さは0.74mを数える。土坑内の覆土は灰黄褐色砂質土層＋黄橙色砂質土ブロック少量含である。出土遺物には土師器皿（177～179）がある。

**SK045** (図版9) :第2調査区中央に位置する。平面形態は隅丸方形である。規模は一辺0.8～0.9m、検出面からの深さは0.36mを数える。土坑内の覆土は第1層耕土、第2層灰黄褐色泥砂土層＋黄橙色泥砂土ブロック少量含である。出土遺物には須恵器壺（180）がある。

**SK046** (図版9) :第2調査区東側に位置する。平面形態は円形である。規模は径0.5m、検出面からの深さは0.2mを数える。土坑内の覆土は第1層褐灰色泥砂土層、第2層褐灰色砂粘質土層＋黄橙色砂粘質土ブロックである。出土遺物には須恵器蓋（181）がある。

**SK047** (図版6) :第2調査区西側に位置する。平面形態は不整形である。西側の一部が隣接している溝に切られている。規模は長辺 $3.0 + \alpha$ ～短辺1.5mを数える。検出面からの深さは0.42mを数える。土坑内の覆土は第1層灰黄褐色泥砂土層＋黒色・灰白色泥砂土ブロック、第2層灰黄褐色泥砂土層、第3層にぶい黄橙色泥土層、第4層褐灰色砂粘質土層＋黒色砂粘質土ブロック、第5層灰黄褐色砂粘質土層＋灰白色砂粘質土層である。出土遺物は土製品土錘（182）、珠洲播鉢（183）、珠洲甕（184）である。

**SK048** (図版6) :第2調査区東側に位置する。平面形態は楕円形である。規模は長径1.5～短径1.4m、検出面からの深さは0.6mを数える。土坑内の覆土は第1層灰黄褐色土層＋灰黄色砂ブロック、第2層黒褐色泥砂土層、第3層黒色泥土層である。出土遺物には土師器皿（185）がある。

**SK049** (図版9) :第2調査区東側に位置する。平面形態は隅丸方形である。南側の一部がSK048に隣接し切られている。規模は一辺1.1～0.8m、検出面からの深さは0.5mを数える。土坑内の覆土は第1層灰黄褐色泥砂土層、第2層灰黄褐色砂粘質土層＋黄橙色砂ブロック、第3層黄橙色砂粘質土層＋黒褐色泥土ブロックである。出土遺物には土師器皿（186～189）、木製品箸（M003）がある。

**SK050** (図版9) :第2調査区西側に位置する。平面形態は楕円形である。規模は長径1.7～短径0.7m、検出面からの深さは0.24mを数える。土坑内の覆土は第1層灰黄褐色泥砂土層、第2層灰白色砂質土層、第3層褐灰色泥砂土層、第4層灰白色砂質土層＋褐灰色泥砂土層である。出土遺物には須恵器杯A（190）、珠洲播鉢（191）、青磁碗（192）、石斧（S004）がある。

**SK051** (図版9) :第2調査区東側に位置する。平面形態は不整形である。規模は長辺1.4～短辺1.0m、検出面からの深さは0.12mを数える。土坑内の覆土は黒褐色泥砂層土層＋明黄褐色砂質土層である。出土遺物には須恵器杯B（193）がある。

**SK052** (図版9) :第2調査区中央に位置する。平面形態は隅丸長方形である。規模は長辺1.1～短辺0.4m、検出面からの深さは0.66mを数える。土坑内の覆土は第1層黒色泥砂土層、第2層黒色泥砂土層＋明黄褐色砂泥土ブロック、第3層黒褐色砂泥土層である。出土遺物では須恵器杯A（194）、珠洲鉢（195）がある。

**SK053** (図版9) :第2調査区東側に位置する。平面形態は不整形である。北側の半分は調査区外である。規模は長辺3.0～短辺1.7m、検出面からの深さは0.49mを数える。土坑内の覆土は第1層耕土、第2層褐灰色泥砂土層、第3層黒褐色砂粘質土層＋黄橙色砂粘質土ブロック、第4層黄橙色砂粘質土層＋黒褐色砂粘質土少量含、第5層黒褐色砂粘質土層＋灰白色砂粘質土ブロック混、第6層黒褐色泥土層＋褐灰色泥土層少量含、第7層黒褐色泥砂土層である。出土遺物には須恵器蓋（196）、須恵器壺（197）、青磁碗（198）がある。



**SK054** (図版6) :第3調査区西側に位置する。平面形態は不整形である。規模は一辺2.8～3.5m、検出面からの深さは0.46mを数える。土坑内の覆土は第1層灰黄褐色泥砂土層+黄橙色混泥砂土層、第2層褐灰色泥土層、第3層黒褐色泥土層、第4層黒褐色泥土層+黄橙色泥土層少量含、第5層黒褐色泥土層、第6層黒色泥土層である。出土遺物には土師器杯A (199) がある。

**SK055** (図版9) :第3調査区西側に位置する。平面形態は不整形である。南側の半分が調査区外である。規模は長辺 $1.8 + \alpha$ ～短辺1.6m、検出面からの深さは0.36mを数える。土坑内の覆土は褐灰色泥砂土層である。出土遺物には珠洲挿鉢 (200) がある。

**SK056** (図版9) :第1調査区南側に位置する。平面形態は楕円形である。南側一部が切られている。規模は長径 $0.7 + \alpha$ ～0.6m、検出面からの深さは0.11mである。土坑内の覆土は第1層灰黄褐色泥砂土層、第2層灰黄褐色泥砂土層+にぶい黄橙色砂混である。出土遺物には土師器皿 (201・202) がある。

**SK057** (図版9) :第1調査区南側に位置する。平面形態は楕円形である。規模は長径2.0～短径0.7m、検出面からの深さは0.3mを数える。土坑内の覆土は第1層耕土、第2層灰黄褐色泥砂土層、第3層褐灰色泥砂土層、第4層灰白色砂質土層、第5層褐灰色泥砂土層、第6層褐灰色泥土層、第7層灰黄褐色泥土層である。出土遺物には珠洲挿鉢 (203) がある。

**SK058** (図版9) :第1調査区中央に位置する。平面形態は不整形である。規模は長辺1.8～短辺1.0m、検出面からの深さは0.19mを数える。土坑内の覆土は第1層褐灰色泥砂土層、第2層黒褐色泥砂土層、第3層黒褐色泥砂土層+明黄褐色砂少量含である。出土遺物には土師器皿 (204・205) がある。

**SK059** (図版9) :第1調査区中央に位置する。平面形態は楕円形である。規模は長径1.0～短径0.7m、検出面からの深さは0.58mを数える。土坑内の覆土は第1層黒褐色泥土層、第2層黒色泥土層、第3層暗褐色泥土層である。出土遺物には土師器皿 (206) がある。

**SK060** (図版9) :第1調査区中央に位置する。平面形態は楕円形である。規模は長径1.2～短径0.7m、検出面からの深さは0.26mである。土坑内の覆土は第1層黒褐色泥砂土層、第2層黒色泥土層である。出土遺物には土師器皿 (207) がある。

**SK061** (図版9) :第4調査区中央に位置する。平面形態は隅丸方形である。規模は一辺0.7～0.8m、検出面からの深さは0.46mである。土坑内の覆土は第1層にぶい黄褐色混砂土層、第2層暗褐色混砂土層、第3層黒褐色砂粘質土層、第4層暗褐色混砂土層である。出土遺物には土製品土錘 (208)、土師器皿 (209) がある。

**SK062** (図版9) :第3調査区西側に位置する。平面形態は隅丸長方形である。北側の一部が調査区外となる。また東側の一部がSK037に隣接し切られている。規模は長辺2.0～短辺1.0m、検出面からの深さは0.48mを数える。土坑内の覆土は灰褐色泥砂土層である。出土遺物には土師器皿 (210～213) がある。

**SK063** (図版9) :第3調査区東側に位置する。平面形態は円形である。北側の一部が調査区外となる。規模は径0.96m、検出面からの深さは0.12mを数える。土坑内の覆土は灰黄褐色泥砂土層である。出土遺物には土師器皿 (214) がある。

**SK064** (図版9) :第4調査区東側に位置する。平面形態は隅丸長方形である。東側の一部がSX001に隣接し切られる。規模は長辺 $1.5 + \alpha$ ～短辺1.1m、検出面からの深さは0.1mである。土坑内の覆土は褐色泥砂土層である。出土遺物には須恵器杯B (551) がある。

**SK065** (図版9) :第1調査区北側に位置する。平面形態は隅丸長方形である。規模は長辺1.4～短

辺1.1m、検出面からの深さは0.3mを数える。土坑内の覆土は褐灰色泥砂土層である。出土遺物には土師器杯A（552）がある。

**SK066**（図版6）：第2調査区東側に位置する。北側一部は調査区外である。平面形態は隅丸長方形である。規模は長辺1.8+ $\alpha$ ～短辺2.5m、検出面からの深さは2.2mを数える。土坑内の覆土は第1層耕土、第2層褐灰色泥土層+灰黄色泥土斑点状に混じる、第3層褐灰色泥砂土層、第4層褐灰色砂粘質土層細砂混、第5層褐灰色+暗灰黄色砂粘質土ブロック少量含である。出土遺物には金属製品花瓶（K001）がある。この花瓶は土坑検出面の最上層から出土した。

**SK067**（図版6）：第4調査区西側に位置する。平面形態は楕円形である。規模は長径2.1～短径1.2m、検出面からの深さは2.1mを数える。土坑内の覆土は第1層灰黄褐色泥砂土層、第2層灰黄褐色泥砂土層+黄橙色砂粘質土層、第3層黄橙色砂質土層+灰黄褐色土層少量含、第4層にぶい黄橙色砂質土層+灰黄褐色砂質土層少量含である。出土遺物には打製石斧（S001）がある。

**SK068**（図版9）：第3調査区東側に位置する。平面形態は円形である。北側の一部が切られる。規模は径0.9m、検出面からの深さは0.8mを数える。土坑内の覆土は第1層にぶい黄橙色砂質土層+黒褐色砂質土少量含、第2層黒褐色泥砂土層+にぶい黄橙色・灰黄色砂混である。出土遺物には石製品（S013）がある。

**SK069**（図版9）：第1調査区南側に位置する。平面形態は不整形である。東側の一部が調査区外である。規模は長辺2.7～短辺1.8m、検出面からの深さは0.44mを数える。土坑内の覆土は第1層灰黄褐色泥砂土層、第2層灰黄褐色泥土層、第3層黒色砂泥土層+にぶい黄橙色砂ブロック少量含である。出土遺物は石斧（S005）である。

#### ピット状遺構 5基

**SP001**（図版10）：第4調査区東側、SX001とSK064に隣接する。平面形態は楕円形である。長径0.54m、検出面からの深さは0.25mを数える。出土遺物は土師器皿（215）がある。

**SP002**（図版10）：第1調査区と第3調査区の交点に位置する。平面形態は円形である。径0.83m、検出面からの深さは0.35mを数える。出土遺物は土師器甕（216）がある。

**SP003**（図版10）：第1調査区と第3調査区の交点近く、SD016の中に位置する。平面形態は円形である。径0.56m、検出面からの深さは0.55mを数える。出土遺物は須恵器甕と折敷の底板（217・M013）がある。

**SP004**（図版10）：第4調査区東側の北壁近くに位置する。平面形態は円形である。径0.64m、検出面からの深さは0.22mを数える。出土遺物は土師器皿（218）がある。

**SP005**（図版10）：第4調査区東端の北壁付近に位置する。平面形態は円形である。径0.43m、検出面からの深さは0.64mを数える。出土遺物は柱材と考えられる部材（M014）がある。

#### 溝 29本

**SD001**（図版10）：第1調査区東壁沿いを南北に伸びる。断面付近での規模は幅1.74m、深さ0.43mである。堆積土層は褐灰色泥土層を基調とする。出土遺物は須恵器蓋・杯、土師器杯、珠洲・播鉢、唐津甕、土師器皿、越中瀬戸の灰釉小皿、青磁碗など（219～241）がある。

**SD002**（図版10）：第4調査区西側の南壁沿いに伸びる。断面付近での規模は幅1.35m、深さ0.68mである。堆積土層は上層は黒褐色泥砂土層、下層は灰黄褐色細砂質土層を主体とする。出土遺物、珠洲播鉢（243・244）がある。

**SD003**（図版10）：第4調査区西側の北壁沿いにSD002と平行に伸びる。東隣のSD006に切り込まれる。堆積土層は上層は褐灰色泥砂土層、下層は黒褐色泥砂土層を主体とする。断面付近での規

模は幅2.91m以上、深さ0.83mである。出土遺物は須恵器蓋・杯・壺、土師器皿、土錘、越前播鉢（245～255）がある。

**SD004**（図版10）：第1調査区北側に位置し、東西に伸びる。西隣のSE002と東隣のSD001に切り込まれる。断面付近での規模は幅0.63m、深さ0.23mである。堆積土層は灰黄褐色泥砂土層を主体とする。出土遺物は土師器杯Aと須恵器杯B（256・257）がある。

**SD005**（図版10）：第2調査区西端に位置し、南北に伸びる。南端でSD007と交わる。断面付近での規模は幅3.36m以上、深さ0.66mである。堆積土層は上層は灰黄褐色泥砂土層、下層は同色の砂質土層である。出土遺物は土師器皿、青磁碗、板碑、五輪塔など（258～263・S008～S012）がある。

**SD006**（図版10）：第4調査区の中央に位置し、南北に伸びる。SD011を切り込む。断面付近での規模は幅4.45m以上、深さ0.85mである。堆積土層は褐灰色泥砂土層を主体とし、下層に黒褐色泥砂土層が入る。出土遺物は土師器皿、越前播鉢、瀬戸美濃天目茶碗（264・265・550）がある。

**SD007**（図版10）：第2調査区西側に位置し、東西に伸びる。東隣のSE003に切り込まれ、西隣のSD005と交わる。断面付近での規模は幅2.28m、深さ0.60mである。堆積土層は黄灰色と黄褐色泥砂土層を主体とする。出土遺物は須恵器蓋・杯・横瓶、土師器皿・高坏脚部、瓦質土器風炉、珠洲播鉢・甕、割りもの（266～300・M015）などがある。

**SD008**（図版10）：第2調査区東側に位置し、南北に伸びる。断面付近での規模は幅2.48m、深さ0.67mである。堆積土層は上層は褐灰色泥砂土層で下層は黄灰色砂質土層を主体とする。出土遺物は須恵器蓋・杯、土師器杯・皿（301～312）などがある。

**SD009**（図版10）：第3調査区西側を東西に伸びる。西隣のSD010に切り込まれる。断面付近での規模は幅3.23m、深さ0.85mである。堆積土層は上層は暗灰黄色泥砂土層、下層は灰黄褐色泥土層を主体とする。出土遺物は須恵器蓋・杯・甕、土師器皿（313～324）などがある。

**SD010**（図版10）：第3調査区中央付近でSD012が西に隣接する。SD009を切り込む。断面付近での規模は幅3.10m、深さ0.74mである。堆積土層は灰黄褐色泥砂土層を主体とし、これに黒色泥土層が混入する。出土遺物は須恵器杯・壺、土師器皿、珠洲甕（325～335）がある。

**SD011**（図版10）：第4調査区西側に位置し、東西に「L」字状に伸びる。断面付近での規模は幅1.07m、深さ0.12mである。堆積土層は灰黄褐色泥砂土層を主体とする。出土遺物は珠洲播鉢、須恵器壺（336・337）がある。

**SD012**（図版11）：第3調査区中央に位置し、南北に伸びる。SD010の西に位置する。西隣のSD024、SD027を切り込む。断面付近での規模は幅4.70m、深さ0.66mである。堆積土層は灰黄褐色砂質土層を主体とする。出土遺物は土師器甕・皿、美濃天目茶碗、割りもの、打製石斧（338～346・M001・M004・S003）がある。

**SD013**（図版11）：第3調査区と第1調査区の交点に位置し、南北に「L」字状に伸びる。断面付近での規模は幅2.69m、深さ0.26mである。堆積土層は褐灰色泥砂土層を主体とする。出土遺物は須恵器蓋・杯、土師器皿・甕、珠洲陶製加工円盤、割りもの、石棒、（347～357・M001・M004・S003）などがある。

**SD014**（図版11）：第1調査区北側に位置し、南北に伸びる。SD023を切り込み、SE002に切り込まれる。断面付近での規模は幅1.45m、深さ0.49mである。堆積土層は褐灰色泥砂土層を主体とする。出土遺物は須恵器杯、土師器皿、土錘、珠洲播鉢（358～364）などがある。

**SD015**（図版11）：第2調査区中央に位置し、南北に伸びる。SE003に切り込まれる。断面付近

での規模は幅1.58m、深さ0.52mである。堆積土層は灰黄褐色泥砂土層を主体とする。出土遺物は須恵器・杯、土師器・甕、珠洲播鉢（365～368）などがある。

**SD016**（図版11）：第1調査区と第4調査区の交点から北へ延びる。断面付近での規模は幅1.05m、深さ0.24mである。堆積土層は灰黄褐色泥砂土層である。出土遺物は土師器皿（369・370）がある。

**SD017**（図版11）：第1調査区南側を東西に伸び、SD001と交わる。断面付近での規模は幅4.41m、深さ0.42mである。堆積土層は黒褐色泥砂土層を主体とし、これに浅黄色細砂が混入する。出土遺物は須恵器杯・甕、土師器甕・皿、土錘、石棒（371～393・553・S006）などがある。

**SD018**（図版11）：第2調査区中央に位置し、南北に伸びる。断面付近での規模は幅2.31m、深さ0.48mである。褐灰色砂粘質土層を主体とする。出土遺物は須恵器杯（395・396）などがある。

**SD019**（図版11）：第2調査区中央に位置し、南北に伸びる。断面付近での規模は幅0.50m、深さ0.15mである。堆積土層は、黒褐色泥砂土層である。出土遺物は須恵器杯（397）がある。

**SD020**（図版11）：第3調査区西側を南北に伸びる。堆積土層は黒褐色砂質土層を主体とする。断面付近での規模は幅1.26m、深さ0.36mである。出土遺物は土師器杯（398）がある。

**SD021**（図版11）：第4調査区と第1調査区の交点南側に位置し、東西に伸びる。断面付近での規模は幅1.08m、深さ0.46mである。上層は灰黄褐色泥砂土層、下層は褐灰色泥砂土層である。出土遺物は須恵器壺（399）がある。

**SD022**（図版11）：第2調査区東側に位置し、南北に伸びる。断面付近での規模は幅2.35m以上、深さ0.59mである。堆積土層は上層は褐灰色泥砂土層、下層は黄橙色砂質土層を主体とする。出土遺物は須恵器蓋・杯・壺、土師器皿、珠洲播鉢、土錘、青磁皿（400～410）がある。

**SD023**（図版11）：第1調査区北側に位置し、東西に伸びる。SD014に切り込まれ、調査区東端でSD001と交わる。断面付近での規模は幅1.23m以上、深さ0.46mである。堆積土層は黒褐色泥砂土層を主体とし、これに灰黄褐色細砂質土層が混じる。出土遺物は須恵器壺、青磁碗（411～413）がある。

**SD024**（図版11）：第4調査区中央を東西に伸び、東隣のSD012に切り込まれる。断面付近での規模は幅0.60m、深さ0.13mである。堆積土層は黒褐色砂質土層である。出土遺物は土師器皿（414）がある。

**SD025**（図版11）：第2調査区東側に位置し、南北に伸びる。断面付近での規模は幅0.18m、深さ0.14mである。堆積土層は褐灰色泥砂土層である。出土遺物は瀬戸卸皿（415）がある。

**SD026**（図版11）：第1調査区南端を東西へ伸びる。断面付近での規模は幅0.68m、深さ0.14mである。堆積土層は灰黄褐色泥砂土層と灰黄褐色泥土層である。出土遺物は須恵器杯、土師器皿、土錘（416～423・S014）がある。

**SD027**（図版11）：第4調査区中央を東西に伸び、東隣のSD012に切り込まれる。断面付近での規模は幅0.74m、深さ0.12mである。堆積土層は黒褐色泥砂土層である。出土遺物は土師器皿（424）がある。

**SD028**（図版11）：第3調査区西側を南北に伸びる。断面付近での規模は幅4.96m、深さ0.82mである。堆積土層は上層は黄褐色泥砂土層、下層は黄灰色泥土層を主体とし、これに粗砂が混じる。出土遺物は須恵器壺、土師器皿、瀬戸美濃天目茶碗（425～428）などがある。

**SD029**（図版11）：第1調査区と第3調査区の交点北側から、南東に伸びる。断面付近での規模は幅0.26m、深さ0.08mである。堆積土層は黒褐色泥砂土層である。出土遺物は須恵器杯（429）がある。

（森）

## 第4節 遺物

米田大覚遺跡からは、主に古代と中世を中心とした時期の遺物が多数出土している。出土遺物の主体を占めるのは土器類である。土器類は遺物収納用コンテナで約10箱分の数量がある。土器の種類としては古代では土師器と須恵器が過半を占め、これに少量の黒色土器が認められる。中世以降では土師器皿、珠洲が過半を占め、近世の越中瀬戸も少量認められる。木製品では井戸から出土した棧のほか下駄、漆器、柱材、割りもの、押しものなどがある。石製品では縄文時代の打製石斧、石棒、叩き石、中世以降の板碑、五輪塔などがみられる。金属製品では鉄滓、花瓶が出土した。以下に遺構出土の遺物から順次記述していく。なお古代の土器類のうち出土量の多い須恵器の杯類については、記述の便宜をはかるため、底部が平底で高台のつかないものを杯A、貼り付けの高台を有するものを杯Bと呼称する。土師器の杯についても須恵器の杯と同様の分類を適用する。中世の遺物では、最も出土量の多い中世土師器皿については森隆の分類・編年案（資料10・11・12）を準用した。また珠洲については、吉岡康暢の分類・編年案（資料13）を参考とした。中国陶磁については、山本信夫の研究（資料14）を参照した。

### 井戸出土遺物

**SE001**（図版12 001～021）:001～003・007は須恵器蓋である。001～003は口縁端部を短く下方に屈曲、007は丸く肥厚させる。002は天井部に回転ヘラ削りを施す。004～006・008・009は須恵器杯Bである。004・006は底端部内側に扁平な角高台を貼り付ける。体部は外傾し、口縁端部は丸くおさめる。004は口径14.0cm、器高3.3cm、006は口径12.2cm、器高5.1cmの法量を有す。006は体部中位外面に2条の、底端部内面に1条の沈線を施す。005・009は底端部内側のやや外方に踏ん張る高台を、008は底端部に扁平な台断面形の高台を貼り付ける。010は須恵器横瓶である。口縁部は「く」字状に屈曲して開き、端面は水平な面を有す。体部外面には平行なタタキを施し、内面には一定方向のカキ目状の工具ナデを施す。011～013は須恵器壺である。011は「ハ」字状に外方へ踏ん張る足高高台である。11.3cmの高台径を有す。012は底端部に「ハ」字状に外方へ踏ん張る足高高台を貼り付ける。体部外面にカキ目を施し、内面底部に灰被りがみられる。013は口縁部が強く外反し端面を有す。016は須恵器破片で器種は皿か。外面に墨書があるが字義は不明である。014・015・017・018は土師器杯Aである。014・015には回転糸切り痕が残る。体部が内湾気味に開き、口縁端部を丸くおさめる。014は口径11.6cm、器高3.8cm、015は口径12.0cm、器高4.1cmの法量を有す。015は底部から体部下位の内面に赤彩を施す。017～019は平坦な底部から外反気味に開く。020・021は土師器甕で球状ないしそれに近い体部が想定される。020の口縁部は受け口状に立ち上げ、端部は内側に肥厚させる。021の口縁部は逆「ハ」字状に開き端部は外側に肥厚させて丸くおさめる。

**SE002**（図版12 022～049 図版24 S007）:022・023は須恵器杯Aである。2点とも体部が外傾し口縁端部を丸くおさめる。022は口径12.3cm、器高3.5cm、023は口径13.0cm、器高3.7cmの法量を有す。024・025も須恵器杯で口縁端部は丸くおさめる。024は緩やかな「S」字状に屈曲する。025は口縁部外面に沈線を施す。026～029は須恵器杯Bである。026・029は角高台を、027・028は扁平な高台を貼り付ける。027は体部を内湾気味に立ち上げ、028は体部は直線的に立ち上げて口縁端部は丸くおさめる。028は口径11.5cm、器高3.6cmの法量を有す。030・031は土師器杯Bで、断面が逆三角形の高台を有す。032～035は土師器杯で、体部が大きく外傾し口縁端部を丸くおさめるものが多い。036～040は杯Aで、底部外面に回転糸切り痕が残る。036は口径13.4cm、器高4.1cm、037は口径14.4cm、器高4.2cm、038は口径15.8cm、器高4.7cmの

法量を有す。049は土師器甕である。口縁部は逆「ハ」字状に開き、端部は内側に折り返す。外面に指圧痕が残る。046～048はいずれも樽形の土師質土錘である。046は長さ5.0cm、047は長さ5.8cm、最大径3.0cm、最大孔径1.9cm、重さ72.0gの法量を有す。また体部には穿孔がある。

**SE003** (図版22 M006～009 図版23 M010～012):M006～009は、井戸枠に使用された横棧の部材である。井戸の底部に接して「井」字状に組まれた状態で残存していた。棧に使われた板は、長さ65～67cm、断面は一辺3.2cm前後の角状を呈するもの(M006・007)と、5cm×3cmの長方形を呈するもの(M008・009)がある。前者は両側の端が浅く削り込まれ凸状を呈する。後者は両側の端面に凹状の挟り込みを入れ凸部をここに差し込み固定する。井戸内からはこの他にも板状部材(M010・012)が出土している。いずれも井戸枠の棧に用いられた部材と考えられる。

### 大型土坑出土遺物

**SX001** (図版13 050～081 図版21 M005):050～054は須恵器蓋である。050～053はいずれも天井部に回転ヘラ削りを施す。050・051は口縁端部を短く下方に屈曲させる。052・053は口縁端部を丸く内側に折り込む。054は扁平な宝珠状のつまみを有す。055～057は須恵器杯Aである。いずれも平坦な底部から体部が外傾する。060は須恵器の器種不明破片で、漆による接合痕を有す。061は弥生土器高杯の破片である。口縁部が外反気味に開き、端部を細く仕上げる。077は須恵器壺である。肩部から「く」字状に頸部が立ち上がる。外面には平行のタタキ目が、内面には当具痕が残る。外面と頸部内面に灰被りがみられる。058・062・075は土師器甕の口縁部破片である。058は口縁部から外方に角張った後に外反し、端部は丸くおさめる。内面には横方向のヘラ磨きを施している。062は口縁端部を外側に折り返し肥厚させる。075は口縁端部を外側に屈曲させ、沈線<sup>①</sup>を施す。059・069は土師器杯である。体部が内湾気味に開き、口縁端部を丸くおさめる。内外面に赤彩を施す。066～071は土師器小皿である。066・067は森分類のB1類に該当する。066は後II期、067は後I～II期に比定される(以下土師器皿の分類と時期は全て森論文に準拠する)。丸底ないしは丸底気味の底部から体部が屈曲して開くが、底部と体部の境界は明確でない。口縁部は短く内湾した後、端部を鋭く仕上げる。068はC5類後I～II期に該当する。口縁端部は鋭くつまみあげるように仕上げる。069～071はZ4類でIX期に該当する。体部と底部の境界は不明瞭で口縁部は外反し、端部を鋭く仕上げる。071は口径9.4cm、1.8cmの法量を有す。063・064は瀬戸美濃天目茶碗の破片である。065は越前播鉢である。口縁部は直線的に外傾し、端面はほぼ水平である。072・073は瀬戸美濃灰釉皿である。2点とも薄緑色に発色している。断面が逆三角形の高台を有す。074は青磁の碗である。底端部で打ち欠いており、二次使用したと考えられる。076は珠洲壺である。肩部のみであるが、一応吉岡編年Ⅲ～Ⅳ期に比定しておく。078・079・081は珠洲播鉢である。078・079は底部付近のみなので型式的特徴を把握し難いが、Ⅲ～Ⅳ期に比定しておく。スリ目は078が7条一単位、079が8条一単位である。081は口縁部の外端は張り出さず、内端側が突き出る形態で、端面は内傾する。端面に波状文を施す。スリ目は6条一単位である。080は珠洲甕の体部破片を二次転用して、円盤状の形態に細かく周囲を打ち欠いたものである。長径は6.4cmである。082は陶製加工円盤である。今回の調査では、同様のものが5点見つまっている。用途は不明だが子供の遊技具の一種とも考えられる。重さは18.8g。M005は下駄である。いわゆる連歯下駄で、台の平面形は小判型を呈する。台に残る使用痕跡から右足用と考えられる。幅11.2cm、長さ20.1cm、歯を含む高さ5.1cmの法量を有す。前壺は前歯の前方に、横緒穴は後歯の前方両脇に穿孔する。歯の残りは比較的良好、使用に伴うすり減りもあまりみられない。

## 土坑出土遺物

**SK001** (図版13 083) :083は土師器杯である。回転糸切り痕が残る底部から体部が大きく外傾する。

**SK002** (図版13 084・085) :084・085は土師器皿で、B1類で後I～II期に該当する。丸底の底部から体部が屈曲して開くが、底部と体部の境界は明確でない。口縁部は短く内湾した後、端部を鋭く仕上げる。084は口径7.2cm、器高1.8cm、085は口径9.5cm、器高2.0cmの法量を有す。

**SK003** (図版13 086～088):086は須恵器杯Bである。底端部内側に「ハ」字状に開く高台を貼り付ける。087は土師器杯Aである。平坦な底部から体部が外傾する。回転糸切り痕は摩滅して確認しにくい。088は灰釉皿である。浅く開き端部は丸くおさめる。

**SK004** (図版13 089～102) :089は須恵器杯Bである。底端部内側に断面台形の扁平な高台を貼り付ける。090は土師器杯Aの底部破片である。いずれも回転糸切り痕が残る。092は土師器杯である。体部は内湾気味に立ち上げ、口縁端部は丸くおさめる。091・093・094は土師器甕の底部である。094は外面に手持ちヘラ削りを施す。095は須恵器壺である。口縁部が大きく外湾し端面を有する。096～099は土師器甕である。096は口縁端部が下方にやや垂下し、097は口縁部が「く」字状に開き、端面を有す。098は口縁端部を肥厚させ、099は口縁端部を上方に短く屈曲させる。100は樽型の土師質土錘である。長さ5.5cm、最大径3.2cm、孔径1.2cm、重さ48.0gの法量を有す。101は青磁碗である。口縁部が外反する。102は珠洲播鉢である。V期に比定される。鋭く外端が突き出る口縁部で、端面はわずかに内傾する。端面には波状文を施す。スリ目は7条一単位である。

**SK005** (図版13 103) :103は須恵器杯Bである。底端部内側に断面が台形の高台を貼り付け、体部は直線的に外傾する。外面には灰を被る。

**SK006** (図版13 108～115) :108・109は土師器杯Aである。平坦な底部から体部を内湾気味に立ち上げ、口縁端部を丸くおさめる。口径10.0cm、器高2.9cmの法量を有す。110は須恵器杯Bである。底端部内側に断面台形の高台を貼り付け、体部を直線的に立ち上げ、口縁端部は丸くおさめる。111は須恵器壺である。口縁部を外反させながら立ち上げ、内傾する端面を有す。112～115は土師器皿である。いずれもB1類に該当する。112は後II期、113は前IX～後I期、114は前VII～VIII期、115は後III期に比定する。114は口径9.0cm、器高2.1cmの法量を有す。

**SK007** (図版13 116～118) :116は須恵器甕の口縁部破片である。外反して開き、端部は嘴状を呈す。外面には三角文ないし粗雑な波状文が施されている。117は須恵器杯Aである。平坦な底部から体部が外傾し、口縁端部は丸くおさめる。口径12.5cm、器高3.6cmの法量を有す。118は須恵器杯Bである。底端部内側に外方に踏ん張る扁平な高台を貼り付け、体部は直線的に立ち上げ、口縁端部は丸くおさめる。口径11.4cm、器高3.2cmの法量を有す。

**SK008** (図版14 119・120) :119は須恵器蓋である。高さのある天井部が緩やかに開き、口縁端部を下方に屈曲させる。天井部の2/3に回転ヘラ削りを施す。120は土師器皿である。K類で前VIII期に該当する。回転糸切り痕から分かるように回転台成形している。平坦な底部から外反気味に体部が開き、口縁部は丸くおさめる。口径7.2cm、器高1.8cmの法量を有す。

**SK009** (図版14 121):121は土師器杯Bである。回転糸切り痕が残る底部に外方に踏ん張る逆三角形の高台を貼り付ける。内面に赤彩を施す。

**SK010** (図版14 122) :122は須恵器杯Bである。底端部に外方に踏ん張る扁平な高台を貼り付け、体部は直線的に立ち上げる。

**SK011** (図版14 123) :123は須恵器杯Aである。平坦な底部から体部が直線的に立ち上がり、

端部は丸くおさめる。外面には重ね焼きによる色むらがある。口径13.6cm、器高3.8cmの法量を有す。

**SK012** (図版14 124・125 図版23 M016) :124は須恵器蓋である。回転ヘラ削りが施された扁平な天井部から緩やかに開き、口縁端部は下方に屈曲させる。125は須恵器杯Bである。底端部内側に外方に踏ん張る高台を貼り付ける。M016は弓状木製品である。木の棒を半裁して弓状に折り曲げ半円状を呈する。両端は角状に削り出しておさめる。開口部の幅55cm、半円部の径32.2cm、半裁した断面の厚みは6.5cm前後を有す。箕やタモなどの軸木に使われた部材と考えられる。

**SK013** (図版14 126) :126は土師器皿である。B1類で後Ⅱ期に該当する。丸底の底部から体部が屈曲して開くが、底部と体部の境界は明確でない。口縁部は短く内湾した後、端部を鋭く仕上げる。口径8.8cm、器高2.3cmの法量を有す。

**SK014** (図版14 127・128) :127は土師器甕である。口縁部は緩やかな「く」字状に屈曲して開き、端面は内側に屈曲させるように肥厚させる。128は須恵器杯Bで、底端部に扁平な高台を貼り付ける。

**SK015** (図版14 129) :129は土師器皿である。B1類で後Ⅲ期に該当する。丸底気味の底部から体部が屈曲して開くが、底部と体部の境界は明確でない。口縁部は短く内湾した後端部を鋭く仕上げる。

**SK016** (図版14 130～133) :130～132は土師器皿である。いずれもB1類である。丸底の底部から体部が屈曲して開くが、底部と体部の境界は明確でない。口縁部は短く内湾した後、鋭く仕上げる。130は前Ⅷ～Ⅴ期、131・132は後Ⅰ～Ⅱ期に該当する。130は口径8.8cm、器高1.5cmの法量を有す。133は珠洲播鉢である。Ⅵ期に比定される。粘土紐の単位が強く残っており、外面には指頭痕が残っている。スリ目は6条一単位である。

**SK017** (図版14 134) :134は土師器皿である。B1類で前Ⅸ～後Ⅰ期に該当する。丸底の底部から体部が屈曲して開くが、底部と体部の境界は明確でない。口縁端部を鋭く仕上げる。口径7.4cm、器高1.8cmの法量を有す。

**SK018** (図版14 135) :135は土師器皿である。Z5類で後Ⅰ～Ⅱ期に該当する。底部はやや扁平な丸底で、体部との境界は明確でない。体部は緩やかに内湾して開き、口縁部は短く強く外反させる。口縁端部は丸くおさめる。口径10.4cm、器高2.2cmの法量を有す。

**SK019** (図版14 136) :136は須恵器蓋である。扁平な天井部から緩やかな「S」字状に開き、口縁端部を短く内側に折り込む。

**SK020** (図版14 137・138) :137は土師器杯Aである。回転糸切り痕が残る。平坦な底部から、底端部で屈曲しながら体部が開く。

138は土師器皿である。B1類で前Ⅷ期に該当する。底部と体部の境界は不明確で、口縁端部を鋭く仕上げる。口径9.6cm、器高1.8cmの法量を有す。

**SK021** (図版14 139) :139は土師器皿である。B1類前Ⅸ期に該当する。丸底の底部から体部が屈曲して開くが、底部と体部の境界は不明確で、口縁端部を鋭く仕上げる。

**SK022** (図版14 140) :140は土師器皿である。B1類で後Ⅲ期に該当する。丸底気味の底部から体部が屈曲して開くが、底部と体部の境界は不明確で、口縁端部を鋭く仕上げる。口径9.5cm、器高2.2cmの法量を有す。

**SK023** (図版14 141) :141は土師器甕である。口縁部が「S」字状に開き、口縁端部は短く内側に折り込む。

**SK024** (図版14 142) :142は珠洲播鉢である。Ⅴ期に比定される。口縁端部直下で折り曲げる



ように屈曲させ、「く」の字状に短く外反させるようにして三角頭を作り出すもので、口縁の端面は内傾する。内面は摩滅しており、スリ目単位は不明である。

**SK025** (図版14 143・144) :143は土師器杯Aである。回転糸切り痕が残る平坦な高台から底端部で屈曲し、体部が内湾気味に開く。144は須恵器杯Bである。底端部内側に角状の高台を貼り付ける。

**SK026** (図版14 145) :145は土師器皿である。平底気味の底部から体部がゆるやかに開くが、底部と体部の境界は明確でない。口縁部は短く強く外反させ、端部は鋭く仕上げる。口径10.0cm、器高1.5cmの法量を有す。

**SK027** (図版14 146～149・549) :146～148は土師器皿、149は陶器椀である。146・148はB1類で後Ⅱ期に該当する。丸底の底部から体部が屈曲して開くが、底部と体部の境界は明確でない。端部を鋭く仕上げる。146は口径8.0cm、器高2.0cm、148は口径8.6cm、器高2.9cmの法量を有す。147はZ8類で後Ⅰ～Ⅱ期に該当する。口縁部は外反し、端部を鋭く仕上げる。549は碗形のつぼ状土製品である。内面に固形化したタール状の付着物がみられる。

**SK028** (図版14 150) :150は土師器皿である。C6類で後Ⅰ期に該当する。体部から口縁部にかけて「S」字状に屈曲する。口縁端部は軽くつまみあげ鋭く仕上げる。いわゆる「へそ皿」の模倣と考えられる器形。但し、成形手法は手捏ねではなく、回転台成形である点が大きな特徴である。

**SK029** (図版14 151) :151は土師器皿である。C5類で後Ⅰ～Ⅱ期に該当する。器高は低く扁平で、丸底気味の底部から体部が大きく開く。口縁端部は鋭くつまみあげるように仕上げる。口径9.7cm、器高2.2cmの法量を有す。

**SK030** (図版14 152・153) :152・153は土師器皿である。152はC3類で後Ⅰ期に該当し、体部が斜外方へ大きく開き、口縁部は端部に向かい鋭く仕上げる。153はD1類で後Ⅱ～Ⅲ期に該当する。底端で強く折り曲げ体部から口縁部にかけて「S」字状に屈曲する。端部は丸くつまみあげる。

**SK031** (図版14 154) :154は樽型の土師質土錘である。長さ5.5cm以外の法量は不明である。

**SK032** (図版14 155) :155は土師器皿である。Z4類で後Ⅰ期に該当する。口縁部を強く外反させ端部は細く仕上げる。

**SK033** (図版14 156) :156は樽型の土師質土錘である。長さ5.7cm、最大径4.6cm、孔径1.4cm、重さ116.3gの法量を有す。

**SK034** (図版14 157) :157は須恵器蓋である。天井部は平坦で口縁端部は短く下方に屈曲させる。

**SK035** (図版14 158) :龍泉窯系青磁碗(山本分類Ⅱb類)である。外面に蓮弁文を有す。

**SK036** (図版14 159～161) :159～161は土師器皿である。いずれもB1類で後Ⅰ～Ⅱ期に該当する。体部が屈曲して開くが、底部と体部の境界は不明確で口縁端部を鋭く仕上げる。

**SK037** (図版14 162～164) :162は土師器皿である。Z4類で後Ⅰ～Ⅱ期に該当する。口縁部を外反させ端部は細く仕上げる。163は回転糸切り痕が残る土師器杯Aである。底部外面以外に赤彩を施している。164は土師器甕である。口縁部は「S」字状に開き、口縁端部は短く内側に内湾させる。

**SK038** (図版14 165～168) :165～168は土師器皿である。165はB1類で後Ⅲ～Ⅳ期に該当する。口縁端部を鋭く仕上げる。166はZ4類で前Ⅸ期に該当する。口縁部を強く外反させ端部は細く仕上げる。167・168はZ8類で後Ⅱ期に該当する。体部と底部の境界は不明確で、口縁部は外反し端部を鋭く仕上げる。

**SK039** (図版14 169・170) :169・170は土師器皿である。2点ともB1類で後Ⅲ期に該当する。

丸底気味の底部から体部が屈曲して開くが、底部と体部の境界は明確でない。口縁部は短く内湾した後、端部を鋭く仕上げる。169は口径9.0cm、器高2.0cmの法量を有す。

**SK040** (図版14 171・172) :171は須恵器杯Bである。底端部内側に断面が台形の高台を貼り付け、体部は直線的に立ち上がる。172は土師器皿である。B1類で後I期に該当する。丸底の底部から体部が屈曲して開き、口縁端部を鋭く仕上げる。口径7.6cm、器高2.1cmの法量を有す。

**SK041** (図版14 173) :173は珠洲播鉢である。内面は摩滅してスリ目は確認できない。底部のみで判断しにくいだが、吉岡康暢編年のⅢ～Ⅳ期に比定したい。

**SK042** (図版14 174・175) :174は須恵器杯Bである。底端部内側に角状の高台を貼り付け、体部は直線的に外傾する。175は土師質の用途不明土製品で、内面には板状ヘラ削りを施す。本調査地では同様のものがもう1点見つかっている。

**SK043** (図版14 176) :176は土師器皿である。B1類で後I期に該当する。丸底の底部から体部が屈曲して開くが、底部と体部の境界は明確でない。端部を鋭く仕上げる。

**SK044** (図版14 177～179) :177～179は土師器皿である。177はZ4類で後I期に該当する大皿である。口縁部は外反気味に開き、端部を細く仕上げる。外面に1条の沈線のようなものを巡らす。178・179はC5類後I期に該当する。丸底の底部から体部・口縁部にかけて「S」字状に屈曲し、口縁端部は鋭くつまみあげるように仕上げる。

**SK045** (図版14 180) :180は須恵器壺である。底端部に嘴状の高台を貼り付ける。内面には斜め方向の手持ちヘラ削りを施す。

**SK046** (図版14 181) :181は須恵器蓋である。口縁端部を短く内側に折り込む。天井部外面に墨書があるが、字義は不明である。

**SK047** (図版14 182 図版15 183・184) :182は樽型の土師質土鍾である。長さ5.1cm、最大径4.7cm、重さ107.6gの法量を有す。183は珠洲播鉢である。Ⅵ期に比定される。口縁部の端面は内傾し、波状文を施す。184は珠洲甕である。外面にはタタキを施し、内面には当具痕が残る。

**SK048** (図版15 185) :185は土師器皿である。B1類で後I期～Ⅱ期に該当する。体部が屈曲して開くが、底部と体部の境界は明確でない。口縁端部を鋭く仕上げる。

**SK049** (図版15 186～189 図版21 M003) :186～189は土師器皿である。186はB1類で前Ⅸ期に該当する。底部と体部の境界は不明確で、端部を鋭く仕上げる。口径7.2cm、器高1.7cmの法量を有す。187～189はいずれもC5類で後I～Ⅲ期に該当する。器高は低く扁平で、丸底気味の底部から体部・口縁部にかけて「S」字状に屈曲し、口縁端部は鋭くつまみあげるように仕上げる。187は口径7.6cm、器高2.7cm、188は口径7.6cm、器高1.7cmの法量を有す。M003は箸状木製品で一端が折損している。

**SK050** (図版15 190～192 図版24 S004) :190は須恵器杯Aである。平坦な底部から体部が外傾し、口縁端部は丸くおさめる。口径12.0cm、器高4.7cmの法量を有す。191は珠洲播鉢である。内面は摩滅してスリ目が消えかけている。底部のみで判断しにくいだが、Ⅵ～Ⅶ期に比定しておく。192は青磁碗である。底部内面に線刻文様を有す。S004は縄文時代の石棒の破片である。

**SK051** (図版15 193) :193は須恵器杯Bである。底端部内側に角状の高台を貼り付ける。

**SK052** (図版15 194・195) :194は須恵器杯Aである。体部は直線的に外斜し、口縁端部は丸くおさめる。195は珠洲鉢である。平坦な底部から底端部で屈曲して、体部が内湾気味に立ち上がる。Ⅲ～Ⅳ期に比定される。

**SK053** (図版15 196～198) :196は須恵器蓋である。高さのある天井部から、緩やかに開き

口縁端部は短く内側に折り込む。低位上部には回転ヘラ削りを施す。197は須恵器壺の口縁部破片である。口縁端部外面に1条の突帯を付し、下に1条の沈線を施し、その間に波状文を巡らす。198は龍泉窯系青磁碗の体部破片である。器壁が下では厚みがあるが、口縁部に向かうにつれ薄くなっている。

**SK054** (図版15 199) :199は土師器杯Aである。Z4類で後I期に該当する。底部と体部の境界が不明確で、口縁部は外反し端部は鋭く仕上げる。

**SK055** (図版15 200) :200は珠洲播鉢である。V期に比定される。口縁部の外端は張り出さず、逆に内端側が突き出る形態で、幅の広い端面は内傾する。

**SK056** (図版15 201・202) :201は土師器皿である。B1類で前IX期に該当する。丸底の底部から体部が屈曲して開くが、底部と体部の境界は不明確で端部を鋭く仕上げる。202は土師器皿である。Z8類で後I～II期に該当する。体部と底部の境界は不明確で口縁部は外反し、端部を鋭く仕上げる。

**SK057** (図版15 203) :203は珠洲播鉢である。IV期に比定される。単純方頭の口縁部を有する。

**SK058** (図版15 204・205) :204・205は土師器皿である。204はC3類で後I期に該当する。狭い丸底基調の底部と体部を有するが、器高が低く扁平である。口縁部も浅く斜外方へ開き端部に向かい鋭く仕上げる。205はB1類で前IX～後I期に該当する。底部と体部の境界は不明確で端部を細く仕上げる。

**SK059** (図版15 206) :206は土師器皿である。C3類で後I期に該当する。口縁部は端部に向かい鋭く仕上げる。

**SK060** (図版15 207) :207は土師器皿である。C6類で後I期に該当する。体部・口縁部にかけて「S」字状に屈曲する。口縁端部は軽くつまみあげ鋭く仕上げる。

**SK061** (図版15 208・209) :208は樽型の土師質土鍾である。長さ7.3cm、最大径4.4cm、孔径1.2cm、重さ93.5gの法量を有す。209は土師器皿である。B1類で後I期に該当する。丸底の底部から体部が屈曲して開くが、底部と体部の境界は明確でない。口縁部は短く内湾した後、端部を鋭く仕上げる。口径8.0cm、器高1.7cmの法量を有す。

**SK062** (図版15 210～213) :210～213は土師器皿である。210はB3類で前VII～VIII期に該当する。丸底気味の扁平な底部から口縁部が外傾気味に短く直線的に開く。端部は鋭く仕上げる。口径8.0cm、器高1.7cmの法量を有す。211はB1類で前VIII～IX期に該当する。底部と体部の境界は不明確で口縁部は短く内湾した後、端部を鋭く仕上げる。212はS8類で後I期に該当する。回転系切り痕から回転台成形であることが分かる。体部が大きく外傾して開き、口縁部は外反させる。口径7.4cm、器高1.7cmの法量を有す。213はS9類で後I期に該当する皿である。口縁部が外反して開き、端部は細く仕上げる。

**SK063** (図版15 214) :214は土師器皿である。B1類で後I期に該当する。丸底の底部から体部が屈曲して開くが、底部と体部の境界は明確でない。口縁部は短く内湾した後、端部を鋭く仕上げる。

**SK064** (図版15 551) :551は須恵器杯Bである。底端部内側に断面が台形の高台を貼り付け、体部を直線的に立ち上げる。

**SK065** (図版15 552) :552は赤彩土師器杯Aの底部破片で、回転系切り痕が残る。

**SK066** (図版21 K001) :K001は青銅製花瓶である。俵型の胴部にラッパ型に口縁部が開く頸部と、二条の凸線を頭頂に巡らした釣り鐘型の脚部が付く。実測図上では完存するものの、胴部と脚部との境界付近で折損しており二つに分かれた状態で出土している。口径12.8cm、器高21.7cm、

底部径8.8cmの法量を有す。中央の小振りな胴部は上下に凸線で区画されるが、雷文などの装飾文様は施されていない。脚部内面の上方に厚さ約1mmの板の仕切りがある。この板の底部側に仏像の一部と考えられる線刻がみられ、なんらかの木製装飾物の転用と考えられる。またこの部分に墨書による文字とおぼしき滲みがみられる。梵字の可能性もあるが、よく判読できない状態である。

**SK067** (図版24 S001) :S001は縄文時代の打製石斧である。折損部もなく、ほぼ完存する。短冊形を呈し、背面側に大きく自然面が残る。幅7.2cm、長さ11.8cm、厚さ2.1cmの法量を有す。

**SK068** (図版24 S013) :S013は五輪塔の一番下の「地」の部分と考えられる加工石製品である。

**SK069** (図版24 S005) :S005は縄文時代の石棒と思われるが、一端が折損している。断面の形状は楕円形で、長径5.0cm、短径3.8cmの法量を有す。

#### 柱穴出土遺物

**SP001** (図版15 215) :215は土師器皿である。Z9類で後II期に該当する。器壁はやや厚めで、幅広の口縁部が強く外反し、口縁端部は鋭く仕上げる。形態は、いわゆる「へそ皿」の二次的模倣と考えられるが、口縁端部の「S」字状屈曲はみられない。

**SP002** (図版15 216) :216は土師器甕の口縁部破片である。口縁部は「S」字状に開き、端面を有する。内面にカキ目を施す。

**SP003** (図版15 217 図版23 M013) :217は須恵器甕である。口縁部は「く」字状に屈曲し外方に立ち上がり、口縁端部は内側に少し肥厚し端面を有す。M013は折敷の底板破片である。

**SP004** (図版15 218) :218は土師器皿である。B1類で後II期に該当する。底部と体部の境界は不明確で口縁部は短く内湾した後、端部を細く仕上げる。

**SP005** (図版23 M014) :M014は柱材と考えられる部材で、残存径7cm前後を数える。

#### 溝出土遺物

**SD001** (図版15 219～234 図版16 235～241) :219・220は須恵器蓋の破片である。219は扁平な宝珠状のつまみを有す。220は天井部に回転ヘラ削りを施し、口縁端部は内側に肥厚させる。221・224～226は須恵器杯Bである。221は底端部内側に角高台を貼り付け、体部は内湾気味に立ち上げる。224・225は底端部に扁平な角高台を、226は底端部内側に高さのある高台を貼り付ける。222は須恵器杯である。体部が外傾し、口縁端部は丸くおさめる。223は須恵器の取っ手である。穿孔を開け、外面には指圧痕が残る。227～229・239は土師器杯Aである。228・229は回転糸切り痕が残る。229には体部外面に赤彩が施されている。230・233・234は珠洲播鉢である。230はVI期に比定される。口縁部の端面は内傾し、波状文を施す。233・234はV期に比定される。鋭く外端が突き出る口縁部で端面は内傾し、波状文を施す。スリ目は、233は10条一単位で、234は8条一単位である。231は珠洲片口鉢でII期に比定される。口縁部は内湾し単純方頭である。232は唐津播鉢である。口縁端部を玉縁状に外方に折り返す。235～238・242は土師器皿である。235～238はB1類に該当する。丸底ないし丸底気味の底部から体部が屈曲して開くが、底部と体部の境界は不明確で口縁部は短く内湾した後、端部を鋭く仕上げる。235は前VII期、236は前IX期、237は前IX～後I期、238は後II期に比定される。235は口径7.5cm、器高1.1cm、236は口径8.0cm、器高1.5cm、237は口径8.4cm、器高1.7cmの法量を有す。239はS8類で後I期に該当する。平坦な底部から体部が外反して開き、口縁部は内湾させる。口径9.2cm、器高2.4cmの法量を有す。240は龍泉窯系青磁碗の体部破片である。241は越中瀬戸灰釉皿である。オリーブ黄色から茶褐色に発色している。切り出し高台から体部が大きく外傾している。底部外面に墨書があるが字義は不明である。

**SD002** (図版16 242～244) :242は土師器皿である。Z8類で後II期に該当する。扁平で端部を外反させ鋭く仕上げる。243・244は珠洲播鉢の破片である。243はIV～VI期と比定される。5条一単位である。244はV期と比定される。口縁部の外端は張り出さず、内端側が突き出る形態で、幅の広い端面は内傾する。端面には波状文を施す。

**SD003** (図版16 245～255) :245は須恵器蓋である。口縁端部は短く下方に屈曲させる。246は土師器皿で、247は杯である。2点ともB1類で後I～II期に該当する。246は端部を鋭く仕上げ、247は丸くおさめる。248は須恵器杯である。口縁端部を丸くおさめる。249は須恵器壺である。底部は平坦で、外面には横方向の手持ちへら削りを施す。250は土師器杯Aである。Z4類で前VII～VIII期に該当する。平底の底部から体部が屈曲して開くが、体部と底部の境界は不明確で口縁部は外反する。口径14.4cm、器高2.5cmの法量を有す。251は樽型の土師質土錘である。長さ5.7cm、最大径4.5cm、孔径1.6cm、重さ105.8gの法量を有す。252は青磁皿である。253は青磁瓶である。底端部に高台を有す。254・255は越前播鉢である。体部から口縁部が直線的に開き、254は端部をつまむように、255は方頭にする。255はスリ目が12条一単位である。

**SD004** (図版16 256・257) :256は回転糸切り痕が残る土師器杯Aである。257は須恵器杯Bである。底端部内側に高さのある高台を貼り付け、体部は外傾し、口縁端部は丸くおさめる。

**SD005** (図版16 258～263 図版24 S008～S012) :258・259は土師器皿である。2点ともB1類で前IX～後I期に該当する。丸底の底部から体部が屈曲して開くが、底部と体部の境界は不明確で、口縁部は短く内湾した後、端部を鋭く仕上げる。258は口径7.4cm、器高1.2cm、259は口径8.2cm、器高1.6cmの法量を有す。260は土師器皿である。Z4類で後I～II期に該当する。体部と底部の境界は不明確で口縁部は外反し、端部を鋭く仕上げる。口径13.8cm、器高2.1cmの法量を有す。261・262は青磁の碗である。261は外面に線刻文様を有す。262は龍泉窯系青磁IIb類碗である。外面に蓮弁文を底部内面中央にはスタンプによる花文を有す。263は珠洲甕である。肥厚させた円頭口縁部の下端がやや垂れ下がる。IV期に比定される。S008は小型で携帯用の鎌砥石の類であろう。S009～012は板碑の破片である。梵字を刻むものの風化が激しく字義は不明。S014は五輪塔の「地」の一部と推定される。

**SD006** (図版16 264・265・550) :264は土師器皿である。Z4類で前VII～VIII期に該当する。平底の底部から体部が屈曲して開くが、体部と底部の境界は不明確で口縁部は外反する。口径13.8cm、器高2.5cmの法量を有す。265は越前播鉢である。スリ目は9条一単位である。550は瀬戸美濃鉄釉天目茶碗である。削りだし高台を有す。

**SD007** (図版17 266～300 図版23 M015) :267・268は須恵器蓋でいずれも天井部に回転へら削りを施す。267は口縁端部を肥厚させ、268は口縁端部を下方に屈曲させる。276・277は須恵器杯Aである。277は体部が直線的に外傾し、口縁端部は細く仕上げる。284～286は須恵器杯Bである。いずれも底端部に扁平な角状の高台を貼り付ける。286は体部が直線的に立ち上がり口縁端部を丸くおさめる。293は須恵器横瓶の口縁部破片である。口縁部は「く」字状に屈曲して立ち上がり、口縁端部は嘴状を呈し、沈線を施す。294は土師器甕の口縁部破片である。内側に肥厚させ端面を有す。また内面にカキ目を施す。266・269～275・278～283・289は土師器皿である。266・279・280・282・289はZ4類に該当する。体部と底部の境界は不明確で口縁部は外反し、端部を細く仕上げる。266・282・289は前VII～VIII期、279・280は前VII期に比定される。266は口径13.6cm、器高2.5cm、の法量を有す。269・270はZ3類前6期に該当する。体部が斜外方へ開き、口縁部は短く「S」字状に屈曲させる。この「S」字状口縁がZ3類の大きな特徴であ

る。271はB4類で前Ⅵ期に該当する。扁平な底部から、口縁部を短くつまむように内側に屈曲させ、口縁端部は丸くおさめる。口径7.6cm、器高1.2cmの法量を有す。272～275はB1類に該当する。底部と体部は不明確で、口縁部は短く内湾した後、端部を鋭く仕上げる。272・273は後Ⅰ～Ⅱ期、274は前Ⅶ期、275は前Ⅶ～Ⅷ期に比定される。278・279はZ3類に該当する。278は前Ⅵ期、279は前Ⅶ期に比定される。283はA1類で前Ⅶ期に該当する。平底気味の底部から、体部が外傾気味に深く立ち上がり、口縁部は軽く内湾する。281は鉄釉皿である。体部下位には回転ヘラ削りを施す。287は越中瀬戸鉄釉皿である。底部内面に2条の沈線を有す。288は瓦質土器風炉の脚部である。290は珠洲甕である。291・292は土師器高坏の脚部破片である。295は龍泉窯系青磁の破片で、外面には型抜きした文様を貼り付けしている。296は用途不明の土師質土製品である。形状から硯の可能性もある。297は珠洲壺の体部下位である。外面には綾杉文状のタタキ目が、内面には当具痕と縦方向のなでが残る。Ⅲ～Ⅳ期に比定される。298は珠洲挿鉢で、Ⅵ期に比定される。スリ目は9条一単位である。299・300は珠洲甕である。肥厚させた円頭口縁部の下端がやや垂れ下がる。外面には横方向のタタキ目が、内面には当具痕が残る。Ⅳ期に比定される。

**SD008** (図版17 301～312) :301は須恵器蓋である。回転ヘラ削りを施した扁平な天井部から緩やかに開き、口縁端部はわずかに内側に折り込む。302・303は須恵器杯Bである。302は底端部内側に外方に踏ん張る高台を貼り付ける。303は底端部内側に角状の高台を貼り付け、体部には回転ヘラ削りを施す。304は須恵器杯Aである。体部は直線的に外傾し、口縁端部は丸くおさめる。体部下位に回転ヘラ削りを施す。305は回転系切り痕が残る土師器杯Aである。306は断面が逆三角形の高台を貼り付けた土師器杯Bである。外面には赤彩が施されている。307は土師器皿である。体部は内湾気味に開き、口縁端部は丸くおさめる。308～312は土師器皿である。308・312はZ4類で前Ⅶ期に該当する。体部と底部の境界は不明確で口縁部は外反し、端部を細く仕上げる。309・310はB1類前Ⅵ～Ⅶ期に該当する。丸底の底部から体部が屈曲して開くが、底部と体部の境界は明確でない。口縁部は短く内湾した後、端部を鋭く仕上げる。310は口径8.4cm、器高1.7cmの法量を有す。311はB3類前Ⅶ期に該当する。体部が明確でなく、口縁部が外反気味に開く。

**SD009** (図版17 313～324) :313は須恵器蓋である。天井部には回転ヘラ削りを施し、口縁端部は短く下方に屈曲させる。314は須恵器杯Aである。体部は外傾し、口縁端部は丸くおさめる。内面は灰を被っている。口径13.4cm、器高3.2cmの法量を有す。315は須恵器甕の口縁部破片である。端面を有し、内外面にカエリを有す。外面に波状文を施す。316は回転系切り痕が残る土師器杯Aである。体部は内湾気味に開き口縁端部は丸くおさめる。口径11.8cm、器高4.2cmの法量を有す。317～320・323は土師器皿である。317～319はB1類に該当する。丸底ないし丸底気味の底部から体部が屈曲して開くが、底部と体部の境界は明確でない。口縁部は短く内湾した後、端部を鋭く仕上げる。317・318は前Ⅶ期、319は前Ⅸ～後Ⅰ期に該当する。318は口径8.0cm、器高1.6cmの法量を有す。320はB2類前Ⅶ期に該当する。扁平だが、丸底の底部から体部が内湾気味に開く。口縁部との境界はあまり明確でない。口縁部は短く外傾し、端部は鋭く仕上げる。口径9.2cm、器高2.5cmの法量を有す。321は白磁の皿である。口縁部が内湾気味に開き端部は細く仕上げる。322は龍泉窯系青磁碗の底部で、高台外面に指頭痕が残る。324は土師器杯Bである。断面が逆三角形の高台を貼り付ける。

**SD010** (図版17 325～335) :325は須恵器杯Bである。底端部付近に高台を貼り付ける。330は須恵器壺の口縁端部破片である。端部に平坦面を有す。326～328・331～333は土師器皿である。いずれもB1類で前Ⅵ～Ⅶ期に該当する。丸底ないし丸底気味の底部から体部が屈曲して開

くが、底部と体部の境界は明確でない。口縁部は短く内湾した後、端部を鋭く仕上げる。327は口径8.2cm、器高1.3cm、328は口径6.8cm、器高1.8cm、329は口径7.8cm、器高1.9cm、333は口径9.0cm、器高1.9cmの法量を有す。334は珠洲甕である。平坦な底部から体部が大きく開く。外面にはタタキ目が残る。335は珠洲壺である。平坦な底部から体部が外傾しながら立ち上がる。底部には布目痕が、体部外面にはタタキ目が残る。

**SD011** (図版17 336・337) :336は珠洲播鉢である。口縁部の端面が大きく幅広に内傾する。波状文を施す。Ⅵ期に比定される。337は須恵器壺で、体部が外傾し外面には回転ヘラ削りを施す。

**SD012** (図版18 338～346 図版21 M001・M004 図版24 S003) :338・339は土師器甕の口縁部破片である。338は緩やかな「く」字状に開き、端部は丸くおさめる。339は端部を内側に短く巻き込み、外面にはカキ目を施す。341は珠洲壺と考えられる。342・344は土師器皿である。342・344はB1類で後Ⅰ～Ⅱ期に該当する。丸底ないし丸底気味の底部から体部が屈曲して開くが、底部と体部の境界は明確でない。口縁部は短く内湾した後、端部を鋭く仕上げる。342は口径7.4cm、器高1.6cmの法量を有す。343は土師器の杯である。Z8類で後Ⅰ～Ⅱ期に該当する。口縁部は外反し、端部を鋭く仕上げる。345は須恵器壺である。底部は平坦で体部は直線的に立ち上げる。346は瀬戸美濃鉄釉天目茶碗である。外傾した体部を口縁部で上方に屈曲させ、端部は細く仕上げる。M001・M002は漆器椀の破片である。M001は小振りで高台も低い。黒漆塗りの内面に赤漆の文様を描く。M002は大振りで底部の高台も高い形態である。黒漆仕上げで内面に赤漆で扇を描く。外面にも文様が見られるものの、その痕跡のみが残る。S003は縄文時代の石棒で、両端を折損している。

**SD013** (図版13 082 図版18 347～357) :082は陶製加工円盤である。長径3.4cm、重さ18.8gの法量を有す。347は須恵器蓋である。天井部には回転ヘラ削りを施し、口縁端部は丸く仕上げる。348は須恵器杯Aである。体部は内湾気味に外傾し、口縁端部は細く仕上げる。349・350は須恵器杯Bである。349は底端部付近に断面台形の高台を貼り付ける。350は底端部内側に「ハ」字状に開き気味の高台を貼り付け、底部内面に2条の沈線を施す。351は土師器高坏の脚部である。外面には縦方向のヘラ磨きを施す。352は土師器甕である。口縁部は「く」字状に外方に開き、端面を有する。353・354は土師器皿である。353はZ8類で後Ⅰ～Ⅱ期に該当する。口縁部は外反する。354はB1類で後Ⅰ～Ⅱ期に該当する。丸底の底部から体部が屈曲して開くが、底部と体部の境界は不明確で、口縁端部を細く仕上げる。口径8.0cm、器高1.9cmの法量を有す。355は青磁碗である。外傾した体部を口縁部で上方に屈曲させ、端部は細く仕上げる。356は龍泉窯系青磁碗Ⅱb類である。底部内面中央に花文を、外面に蓮弁を有す。357は珠洲播鉢で、9条一単位のスリ目が丁寧に施されている。

**SD014** (図版18 358～364) :358・359は須恵器杯Bである。358は断面が長方形の高台を貼り付ける。359は断面が台形の高台を貼り付け、体部は内湾気味に立ち上がる。360は土師器皿である。外面には赤彩が施されている。361は土師器皿である。Z8類で後Ⅰ～Ⅱ期に該当する。口縁部は外斜し、端部を鋭く仕上げる。362は珠洲壺である。頸部から口縁部が大きく外反する形態で、端部は外方に肥厚して丸味を帯びる。Ⅲ～Ⅳ期に比定される。363は樽型の土師質土錘である。長さ6.0cm、最大径3.9cm、孔径1.3cm、重さ83.0gの法量を有す。364は珠洲播鉢である。Ⅱ期に比定される。口縁部は内湾し、方頭である。

**SD015** (図版13 104～108 図版18 365～368) :104は須恵器蓋である。高さのある宝珠状のつまみを有し、天井部には回転ヘラ削りを施す。口縁部で緩やかに屈曲し、端部は内側に巻き込み気味に仕上げる。105・365・366は須恵器杯Bである。105は底端部付近に断面が台形の高台を、

365・366は角高台を貼り付ける。366は体部下位に回転ヘラ削りを施す。106は珠洲播鉢である。Ⅱ期に比定される。107・108は回転糸切り痕が残る土師器杯Aである。108は体部外面に赤彩を施す。367は珠洲播鉢である。Ⅲ期に比定される。スリ目は9条一単位である。368は土師器甕の口縁部破片である。外傾する端面を有す。

**SD016** (図版18 369・370) :369・370は土師器皿である。2点ともB1類で前Ⅵ～Ⅶ期に該当する。丸底の底部から体部が屈曲して開くが、底部と体部の境界は不明確で口縁端部を鋭く仕上げる。

**SD017** (図版18 371～393・553 図版24 S006) :371～377は須恵器杯である。371・375・376は底端部内側に、372・373・374・377は底端部付近に高台を貼り付ける。375・376は体部が外傾しながら立ち上がり、口縁端部は丸くおさめる。375は口径11.3cm、器高4.4cm、376は口径13.0cm、器高4.0cmの法量を有す。374・377は体部が内湾気味に開く。377は回転糸切り痕が残っている。378は須恵器蓋である。379は須恵器杯Aである。平坦な底部から体部が直線的に外傾し、口縁端部は丸くおさめる。口径12.8cm、器高3.6cmの法量を有す。380～382は土師器杯Aである。いずれも回転糸切り痕が残る。383・388・389・392は土師器甕である。383・389は平底で、外面に手持ちヘラ削りを施す。388は口縁端部を内側に短く屈曲させ、丸く仕上げる。392は口縁部が外反気味に開き、端部は丸くおさめる。384は近江系緑釉陶器皿の体部小破片である。385は大法量の須恵器杯の破片である。体部は直線的に立ち上げ、口縁端部は細く仕上げる。386は樽型の土師質土錘である。最大径3.3cm、孔径1.3cmの法量を有す。387は須恵器甕の口縁部破片である。端部を内側に屈曲させ、端面を有する。390は須恵器の取っ手である。手捏ね成形で内面にはハケ目を施す。391は土師器皿の破片である。A1類前Ⅵ期に該当する。平底気味の底部から、体部が外傾気味に深く立ち上がり、口縁部は外傾する。393は須恵器甕である。底部は平坦で体部は外反気味に立ち上がる。外面に指頭痕が残る。553は白磁碗である。

**SD018** (図版18 394～396) :394は樽型の土師質土錘である。長さ6.8cm以外の法量は不明である。395・396は須恵器杯Bである。いずれも底端部付近に断面台形の高台を貼り付ける。

**SD019** (図版18 397) :397は須恵器杯Aである。底端部で屈曲して、体部は外傾して大きく開き、口縁端部は丸くおさめる。口径12.4cm、器高3.2cmの法量を有す。

**SD020** (図版18 398) :398は土師器杯Aである。回転糸切り痕が残り、体部は内湾気味に開く。

**SD021** (図版18 399) :399は須恵器壺である。「ハ」字状に開く足高高台を有し、内面は灰を被る。

**SD022** (図版19 400～410) :400・401は須恵器蓋である。2点とも天井部に高さがあり、口縁端部は内側に肥厚する。401は天井部に回転ヘラ削りを施す。402は須恵器杯Bの底部破片である。底端部内側に「ハ」字状に開く高台を貼り付ける。403は須恵器杯Aである。404は樽型の土錘である。405は土師器皿である。Z4類前Ⅶ期に該当する。体部と底部の境界は不明確で口縁部は外反し、端部を鋭く仕上げる。口径7.8cm、器高2.0cmの法量を有す。406・408・409は珠洲播鉢である。406は口縁部は破片でわずかに内湾しており、端部は丸みを帯びている。408はⅢ～Ⅳ期に比定される。スリ目は10条一単位である。409はⅤ～Ⅵ期に比定され、スリ目は18条一単位である。407は龍泉窯系青磁皿の破片である。口縁端部を外方へ屈曲させる。410は須恵器壺の底部である。底部内外面に指頭痕が残る。

**SD023** (図版19 411～413) :411は龍泉窯系青磁碗のⅡb類である。外面に蓮弁文を有す。412・413は須恵器壺である。412は底端部に「ハ」字状に外方に踏ん張る高台を貼り付ける。内面には指頭痕が残る。413は無高台で、体部が直線的に立ち上がる。



**SD024** (図版19 414):414は土師器皿である。Z9類で後I～II期に該当する。器壁はやや厚めで、丸底の底部から幅広の口縁部が大きく外反し、口縁端部は鋭く仕上げる。

**SD025** (図版19 415):415は瀬戸卸皿である。回転糸切り痕が残る。

**SD026** (図版19 416～423 図版24 S014):416～421は土師器皿である。416～418はZ9類で後I～II期に該当する。器壁は厚めで、丸底の底部から幅広の口縁部が大きく外反し、端部は鋭く仕上げる。419はC3類で後I期に該当する。浅く斜外方へ大きく開き、口縁部は端部に向かい鋭く仕上げる。421はC6類で後I期に該当する。体部内外面に回転ナデが確認できることから回転台成形であることが分かる。422は須恵器杯Bである。底端部付近に扁平な高台を貼り付け、体部は外傾する。423は樽型の土師質土錘である。長さ5.5cm、最大径4.5cm、孔径1.8cm、重さ120.0gの法量を有す。

**SD027** (図版19 424):424は土師器皿である。C2類で前IX～後I期に該当する。丸底の底部から深みのある体部が強く内湾して立ち上がる。口縁部は直立気味につまみあげ、端部は鋭く仕上げる。口径7.0cm、器高2.2cmの法量を有す。

**SD028** (図版19 425～428):425は須恵器壺である。「ハ」字状に外方へ踏ん張る足高高台を有する。426は瀬戸美濃鉄釉天目茶碗である。体部が内湾気味に立ち上がる。427・428は土師器皿である。427はC2類で前IX～後I期に該当する。丸底の底部から深みのある体部を強く内湾して立ち上げ、端部は鋭く仕上げる。口径8.8cm、器高2.7cmの法量を有す。428はZ10類で後III期に該当する。体部は浅く開き口縁部は外傾し、端部を鋭く仕上げる。

**SD029** (図版19 429):429は須恵器杯Bである。底端部付近に断面台形の高台を貼り付ける。

#### 包含層出土遺物

**第1調査区出土遺物** (図版19 430～449):430・431・437・438は須恵器蓋である。430・431は扁平な宝珠状のつまみを有す。431は天井部に回転ヘラ削りを施し、なだらかに開く。437は扁平で、口縁端部は下方に短く屈曲させる。438は口縁端部をわずかに内側に巻き込むように仕上げる。432は須恵器杯Aである。体部は外傾し、口縁端部は細く仕上げる。433～435は須恵器杯Bである。433・435は底端部付近に断面が台形の高台を、434は底端部内側に扁平な高台を貼り付ける。435は口径12.2cm、器高3.7cmの法量を有す。436は須恵器壺の口縁部破片である。外湾し、外面にカエリと端面を有す。また波状文を施す。439は回転糸切り痕が残る土師器杯Aである。底部には焼成後に外面からの穿孔を有す。440は黒色土器杯Aである。内黒焼成で内面にランダムなヘラ磨きを施す。441・442は灰釉陶器である。441は皿である。口縁部はわずかに外反し、端部は丸くおさめる。底部は三日月高台を有すると想定して図上復元した。漬け掛け施釉の可能性が高く、O53でも古い時期に比定できる。442も同様に灰釉陶器皿の口縁部小破片で口縁端部を強く外反させる。こちらはハケ塗り施釉と考えられ、441よりもやや古い時期に比定できる。尾北S4段階か。443は瀬戸美濃施釉陶器皿の底部破片である。口縁端部は外反気味に開く。444・445は土師器皿である。444はB1類で前VI～VII期に該当する。丸底気味の底部から体部が屈曲して開くが、底部と体部の境界は不明確で、端部を鋭く仕上げる。445はC3類で後I～II期に該当する。口縁部は斜外方へ大きく開く。口縁部は端部に向かい鋭く仕上げる。446は珠洲播鉢である。VI～VII期に比定される。447～449は珠洲陶製加工円盤である。447は長径3.6cm、重さ19.4g、448は長径3.9cm、重さ19.2g、449は長径3.2cm、重さ17.2gの法量を有す。

**第2調査区出土遺物** (図版19 450～457 図版20 458・474):450は須恵器蓋である。回転ヘラ削りが施された高さのある天井部から緩やかに開き、口縁端部は内側に肥厚させる。451～

453は須恵器杯Bである。451・452は底端部付近に扁平な高台を、453は底端部内側に外方に踏ん張る高台を貼り付ける。454・455は内黒焼成の黒色土器である。454は体部が外傾し、口縁端部を丸くおさめる。体部下位外面には下方向の手持ちヘラ削りを、内面には横方向の細かいヘラ磨きを施す。455は平坦な底部から体部が緩やかに立ち上がる。内面には荒いヘラ磨きを施す。456は須恵器杯Aである。体部が直線的に外傾し、口縁端部は丸くおさめる。457は385と同じく大法量の須恵器杯である。体部を直線的に立ち上げ、口縁端部は細く仕上げる。458は土師器甕の底部である。体部外面に手持ちヘラ削りを施す。459は回転糸切り痕が残る土師器杯Aの底部である。460は土師器甕である。口縁部は緩やかに開き、端部は軽く内側に巻き込むように仕上げる。461は土師器皿である。Z8類で後II期に該当する。口縁部は外傾し、端部を鋭く仕上げる。462～467は土師器皿である。462・463はZ4類で前IX～後I期に該当する。口縁部は強く外反し、端部を鋭く仕上げる。462は口径7.8cm、器高1.5cmの法量を有す。464・465はC3類後I期に該当する。狭い丸底基調の底部と体部を有するが、器高が低く扁平である。口縁部も斜外方へ大きく開く。口縁部は端部に向かい鋭く仕上げる。465は口径9.0cm、器高2.2cmの法量を有し、外面に指頭痕が残っている。466はB1類で後I期に該当する。底部と体部の境界は不明確で、口縁部は短く内湾した後端部を鋭く仕上げる。467はC5類で後I期に該当する。扁平で、体部～口縁部にかけて「S」字状に屈曲し、口縁端部は鋭くつまみあげるように仕上げる。468は青磁火入れである。体部が内斜気味に立ち上がる。469・470は瀬戸美濃灰釉皿である。断面が逆三角形の高台を有す。471は須恵器甕の口縁部破片である。外傾する端面を有す。472はあげ玉である。長さ0.9cm、径1.3cm、孔径0.2cmの法量を有す。本調査ではこの1点のみ見つかっている。473・474は珠洲挿鉢である。473はV期に比定される。口縁部の外端は張り出さず、逆に内端側が突き出る形態で端面は内傾し波状文を施す。平坦な底部から体部が外反気味に立ち上がる。V～VI期に比定される。スリ目は8条一単位である。

**第3調査区出土遺物** (図版20 475～501) :475・476は須恵器蓋である。475は口縁端部を内側に折り込む。476は天井部が扁平で口縁部が屈曲して開き、端部は内側に巻き込むように仕上げる。478は須恵器杯Aである。体部が外傾して開き、口縁端部は細く仕上げる。477・479は須恵器杯Bである。底端部付近に高台を貼り付け、体部は直線的に立ち上げ口縁端部は細く仕上げる。480～491・494・495は土師器皿である。480～487はC5類前IX～後I期に該当する。丸底の底部から体部・口縁部にかけて「S」字状に屈曲し、口縁端部は鋭くつまみあげるように仕上げる。480は口径6.4cm、器高1.8cm、482は口径7.8cm、器高2.2cm、483は口径8.6cm、器高2.1cm、の法量を有す。488はZ9類後I～II期に該当する。底部から幅広の口縁部が大きく外反し、口縁端部は鋭く仕上げる。489・490はZ6類前VIII～IX期に該当する。丸底気味で体部は緩やかに内湾した後、口縁部は直線的に外傾する。体部と口縁部の境界付近が最も肥厚し、端部に向かって鋭く仕上げる。490は口径10.0cm、器高2.2cmの法量を有す。491はC3類後I期に該当する。丸底基調の底部と体部を有するが、器高が低く扁平である。口縁部も斜外方へ大きく開き、端部に向かい鋭く仕上げる。492は須恵器壺である。上向きの端面を有す。493は土師器鉢である。直線的に立ち上がり口縁端部には端面を有す。外面に沈線を施している。494はS8類後I期に該当する。底部に残る回転糸切り痕から分かるように回転台成形である。平坦な底部から体部が開き、口縁部は外傾し端部はつまみあげ鋭く仕上げる。口径7.0cm、器高1.9cmの法量を有す。495はZ6類前VIII～IX期に該当する。体部は緩やかに内湾した後、口縁部は直線的に外傾し端部に向かって鋭く仕上げる。496は土師器杯である。C6類後I期に該当する。底部から体部・口縁部にかけて「S」字状に屈曲し、端部は鋭

く仕上げる。497は瀬戸美濃鉄釉天目茶碗である。498は越中瀬戸鉄釉天目茶碗である。499は白磁碗である。口縁端部を外反させる。500は越中瀬戸鉄釉皿である。底部内面中央にはスタンプによる菊花文を有す。501は珠洲鉢である。II期に比定される。口縁部を外反させ端部は方頭である。**第4調査区出土遺物** (図版20 502～510) :502は須恵器蓋である。口縁端部は短く内側に折り込む。天井部には回転ヘラ削りを施す。503は鉄釉鉢である。504は須恵器杯Bである。口縁端部は細く仕上げる。505は土師器皿である。D1類で後II～III期に該当する。体部から口縁部にかけて「S」字状に屈曲し、端部は上方に丸くつまみあげる。506は越中瀬戸鉄釉皿である。回転糸切り痕が残る。507は樽型の土師質土鍾である。最大径3.6cm以外の法量は不明である。508は青磁碗の破片である。外面にヘラ彫りの文様を有す。509は越中瀬戸香炉である。削りだし高台を有す。510は珠洲播鉢である。IV期に比定される。スリ目は15条一単位である。

**排土・側溝・攪乱等出土遺物** (図版20 511～519 図版21 520～548) 511・513は内黒焼成の黒色土器杯Aである。511は体部が緩やかに「S」字状に屈曲し、口縁端部は丸くおさめる。内面には横方向の細かいヘラ磨きを施す。512は須恵器杯Bである。底端部内側に外方へ踏ん張る高台を貼り付ける。514は平底の土師器甕である。515は弥生土器甕である。516～519は樽型の土師質土鍾である。516は長さ5.2cm、最大径3.5cm、孔径1.4cm、重さ81.6g、517は長さ5.8cm、最大径4.4cm、孔径2.2cm、重さ80.2g、518は長さ5.2cm、最大径4.0cm、重さ88.0g、孔径1.6cm、519は長さ7.2cm、最大径4.3cm、孔径1.4cm、重さ113.2gの法量を有す。520～533は土師器皿である。520～524はB1類に該当する。底部と体部の境界は不明確で、端部を鋭く仕上げる。520・521は前VIII～IX期に比定される。520は口径5.6cm、器高1.1cm、521は口径7.8cm、器高1.4cmの法量を有す。522～524は前IX～後I期に比定される。524は口径7.5cm、器高1.9cmの法量を有す。525～527はZ9類で後I～II期に該当する。口縁部が大きく外反し、口縁端部は鋭く仕上げる。528・529はC5類で前IX～後I期に該当する。口縁端部は鋭くつまみあげるように仕上げる。530・531・533はZ4類に該当する。口縁部は外反し、端部を鋭く仕上げる。530は前VIII～IX期、531は前IX期、533は前VIII期に比定される。532はZ6類で前VIII期に該当する。体部は緩やかに内湾し、口縁部は外傾する。体部と口縁部の境界付近が最も肥厚し、端部に向かって鋭く仕上げる。534は瀬戸美濃灰釉皿である。口縁部が外反し、端部は丸くおさめる。535～537は瀬戸美濃天目茶碗である。538は瀬戸美濃鉄釉筒香炉である。底端部で屈曲し、体部が直線的に立ち上がる。539・540は珠洲播鉢である。539はV～VI期に比定される。内傾する端面に波状文を施す。540はVI～VII期に比定される。口縁内端の内傾する面と体部の境界が不明確である。541は青磁壺である。口縁部が外反し、端部を鋭く仕上げる。542・545は珠洲甕である。542はV期に比定される。方頭の口縁部が斜外方へ短く直線的にのびる。545はIV期に比定しておく。口縁部短く屈曲し、肥厚した円頭とする。543は灰釉播鉢である。口縁部には端面を有す。544は青磁碗である。546～548は珠洲播鉢である。外面に文様を刻む。546・547はIII～IV期、548はV～VII期に比定される。

(田邊)

## 第4章 理化学的分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

### I.古環境および植物利用

#### 1.試料

試料は、中世の溝3条（SD003,SD006,SD012）より採取した土壌試料と、SK037およびSK049から出土した炭化材2試料である。これらの試料を対象に、放射性炭素年代測定、珪藻分析、花粉分析、植物珪酸体分析、微細物分析、昆虫同定、樹種（炭化材）同定を行い、溝の年代や機能時および埋没過程における古環境を検討する。なお、各分析方法は、紙幅の関係から割愛している。そのため、詳細は既存の報告書（例 富山市教育委員会 2006など）を参照されたい。

#### (1) 土壌試料

##### 1) SD003

SD003試料は、調査区北面に観察された溝埋積物下部より採取した土壌である。SD003底部～下部は、溝基底（地山）は細～中粒砂であり、上位にイネの穎とみられる植物遺体が多量混じる黒色の細～極細粒砂混じりの黒色シルトが堆積し、上方は黒色シルト～粘土と細粒化する。この黒色シルト～粘土上位には不整合で黒色の細～極細粒砂混じりの黒色シルトおよび黒～暗茶褐色シルトが堆積する。さらに上位には、中～粗粒砂が不整合に堆積し、上部は灰色シルト（3地点試料番号1）と細粒化する。

分析試料は、上記した基底（地山）上位の植物遺体が多量混じる黒色の細～極細粒砂混じりの黒色シルトおよび黒色シルト～粘土（SD003試料 番号3 下部）と、その上位の黒色の細～極細粒砂混じりの黒色シルトおよび黒～暗茶褐色シルト（SD003 試料番号3 上部）とに分け採取し、さらに、SD003 試料番号3 下部の黒色シルト～粘土（SD003 試料番号3-2）、SD003 試料番号3上部の黒～暗茶褐色シルト（SD003 試料番号3-1）を採取している。

##### 2) SD006

SD006試料は、調査区北面に観察された溝基底（地山）上位に堆積した暗灰色シルト（2地点試料番号1）である。

##### 3) SD012

SD012試料は、調査区南壁に観察された溝基底（地山）の灰色中～粗粒砂上位に堆積した溝埋積物に相当する灰色シルト～粘土（1地点 試料番号10）と、その上位に不整合に堆積する黒色シルト～粘土（1地点試料番号9）の2点である。

これらの試料のうち、SD003（試料番号1および3-1）とSD006（試料番号1）、SD012（試料番号9・10）を対象に珪藻分析、SD003（試料番号1,3-1,3-2）とSD025（試料番号9,10）を対象に花粉分析、SD003（試料番号1,3-1）とSD012（試料番号9,10）を対象に植物珪酸体分析を行う。また、遺構の年代を反映すると考えられる堆積物（SD003 試料番号3 下部）より検出された植物遺体を対象に放射性炭素年代測定を行う。

#### (2) 炭化材

SK037試料は複数の炭化材片、SK049試料は炭化材1点からなる。本分析では、各試料1点を対象に炭化材同定を行う。

第3図 放射性炭素年代測定および暦年較正結果

試料名	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	補正年代 (暦年較正用) yrBP	暦年較正年代 (cal)				相対比	測定機関 Code.
			$\sigma$	cal AD 1,455 - cal AD 1,516 cal AD 1,596 - cal AD 1,618	cal BP 495 - 434 cal BP 354 - 332	0.732 0.268		
SD003 3-2(試料No.3下部) 植物遺体(イネ類)	-28.23±0.59	370±30 (371±28)	$2\sigma$	cal AD 1,448 - cal AD 1,526 cal AD 1,556 - cal AD 1,632	cal BP 502 - 424 cal BP 394 - 318	0.594 0.406	IAAA-90390	

## 2. 分析結果

### (1) 放射性炭素年代測定

結果を第3図に示す。SD003試料番号3下部の植物遺体（イネ類）の同位体効果による補正を行った測定結果（補正年代）は、370±30yrBPを示す。また、暦年較正結果（測定誤差 $\sigma$ ）は、calAD1,455-calAD1,618である。

### (2) 珪藻分析

結果を第4図に示す。いずれの試料も珪藻化石が多く産出する。完形殻の出現率は約70%前後、産出分類群数は合計で42属144分類群である。以下に、遺構（地点）毎の産出状況を示す。

#### 1) SD012（1地点）

試料番号10は、淡水域に生育する水生珪藻（以下、水生珪藻）が全体の約70%を占める。これに次いで、陸上のコケや土壌表面など多少の湿り気を保持した好氣的環境に耐性のある陸生珪藻が約20%、淡水～汽水生種が約15%産出する。淡水性種の生態性（塩分濃度、水素イオン濃度、流水に対する適応性）の特徴は、貧塩不定性種、好+真酸性種と好+真アルカリ性種、流水不定性種が多産する。淡水～汽水生で付着性の*Rhopalodia gibberula*、好流水性で付着性の*Placoneis elginensis* var. *neglecta*、好止水性で高層湿原指標種または沼沢湿地付着生種の*Frustulia saxonica*、流水不定性で付着性の*Lemnicola hungarica*、*Pinnularia subcapitata* var. *paucistriata*、*Sellaphora pupula*、陸生珪藻A群の*Neidium alpinum*等が産出するが際だって多い種類は認められない。

試料番号9は、陸生珪藻は約60%と増加する。陸生珪藻A群の*Hantzschia amphioxys*が約20%と多く、同じく陸生珪藻A群の*Luticola mutica*、*Neidium alpinum*、水域にも陸域にも生育する陸生珪藻B群の*Pinnularia subcapitata*、*Pinnularia schoenfelderi*等が産出する。水生珪藻は、流水不定性で付着性の*Pinnularia subcapitata* var. *paucistriata*、*Gomphonema angustatum*、流水不定性で沼沢湿地付着生種の*Placoneis elginensis*等が産出する。

#### 2) SD006（2地点）

試料番号1は、ほぼ全てが水生珪藻である。淡水生種の生態性の特徴は、貧塩不定性種と貧塩嫌塩性種、好+真酸性種、好+真止水性種が優占する。止水性で腐植栄養の酸性水域に主に出現する*Tabellaria flocculosa*が約30%検出され、沼沢湿地付着生種の*Gomphonema acuminatum*、*Actinella brasiliensis*、*Eunotia flexuosa*、*Eunotia incisa*、*Pinnularia gibba*等を伴う。

#### 3) SD003（3地点）

試料番号3-1は、水生珪藻が75%と多産する。淡水生種の生態性の特徴は、貧塩不定性種、好+真アルカリ性種、流水不定性種が多産する。流水不定性で付着性の*Lemnicola hungarica*、*Gomphonema parvulum*、*Sellaphora pupula*、*Sellaphora seminulum*、止水性の*Tabellaria flocculosa*、陸生珪藻A群の*Diadesmis biceps*、陸生珪藻B群の*Diadesmis confervacea*がみ



の割合は高く約40%である。その他の栽培植物はソバ属が含まれる。木本花粉は全体の10%程度である。マツ属が多く、コナラ亜属やブナ属がこれに次いで多い。SD012の分析残渣は、花粉化石を除けばほとんどが微粒炭である。ほとんどが由来不明であるが、試料番号10には波状の細胞壁を持つ微粒炭が散見され、これはイネ科等に由来すると考えられている（小椋 2007など）。

## 2) SD003 (3地点)

いずれもシダ類胞子の割合が高く、全体に占める割合は試料番号1が約60%、試料番号3-1、3-2で約70%である。草本類は、試料番号1が約30%、試料番号3-1、3-2が約20%である。いずれもイネ科の割合が高く、次いでヨモギ属が多い。また、ミズアオイ属、サンショウモ、イボクサ属等の水生植物や、植物プランクトンであるクンショウモ属もみられる。栽培植物はイネ属、ソバ属がみられる。なお、イネ科花粉中には大型の花粉が少量含まれる。イネ属は、イネ科花粉中では大型で約45 $\mu$ m程度であるが、今回検出されたイネ科は約65 $\mu$ m程度の大きさをもち、表面模様が緻密で細かい。中村（1980a）等によれば、このような特徴をもつ種類はジュズダマ属やトウモロコシ属（いずれも渡来種）があげられる。この他に、少量ではあるが、鞭虫卵、回虫卵といった寄生虫卵も認められる。木本花粉は、全体の10%以下である。SD012と同様にマツ属が多く、コナラ亜属、ブナ属、ハンノキ属等を含む。分析残渣には、SD012と異なり微粒炭も含まれるが、未炭化の植物遺体も多く認められる。

## (4) 植物珪酸体分析

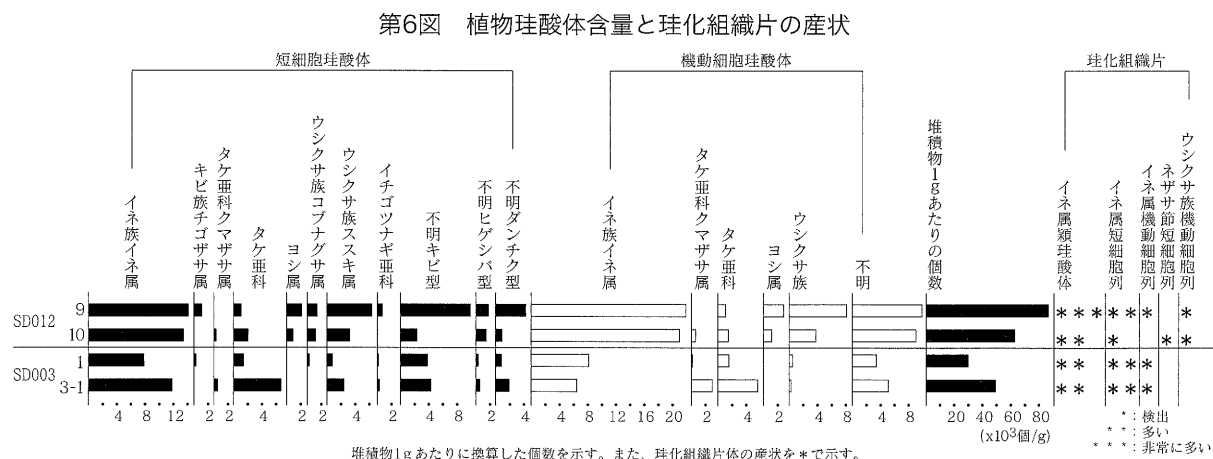
結果を第6図に示す。各試料からは植物珪酸体が検出されるが、保存状態が悪く、表面に多数の小孔（溶食痕）が認められる。以下に、遺構（地点）毎の産状を示す。

### 1) SD012 (1地点)

植物珪酸体含量は、試料番号9が約8.6万個/g、試料番号10が約6.3万個/gである。検出された分類群では、栽培植物のイネ属の含量が高く、葉部に形成される短細胞珪酸体と機動細胞珪酸体のほか、珪化組織片も多く認められ、糊（穎）に形成される穎珪酸体も産出する。栽培種を除く分類群では、タケ亜科、ヨシ属、コブナグサ属やススキ属を含むウシクサ族、イチゴツナギ亜科などが検出され、これらの分類群ではウシクサ属の含量がやや高い。

### 2) SD003 (3地点)

植物珪酸体含量は、試料番号1が約2.9万個/g、試料番号3-1が約4.9万個/gである。SD012と同様にイネ属の含量が高いが、その値は1地点よりも概して低い。また、珪化組織片も多く認められ、穎



第7図 微細物分析結果

分類群	部位	状態	SD003 試料番号3		備考
			上部	下部	
栽培種					
イネ	穎	完形	-	6	200個 放射性炭素年代測定[1cc]
		破片 径2mm以上	-	5cc	
		破片 径2-1mm	-	20cc	
		破片 径1-0.5mm	-	20cc	
		破片 基部	12	-	
		破片 基部	8	-	
		破片 炭化	-	8	
		破片 炭化	-	23	
		破片 炭化	-	1	
ソバ	胚乳	完形	-	1	
シソ属	果実	破片	-	8	
	果実	完形	-	1	
	果実	破片	-	2	
メロン類	種子	完形	-	1	モモルディカメロン型
木本					
ケヤマウコギ近似種	核	完形	-	1	
タニウツギ属	種子	完形	-	1	
草本					
ヒルムシロ属	果実	完形	3	-	
		破片	2	-	
ミズアオイ属?	種子	完形	1	-	
イボクサ	種子	完形	24	4	
ホシクサ属	種子	完形	124	1	
エノコログサ属	果実	完形	-	4	
		破片	-	1	
イネ科	果実	完形	46	34	
		破片	25	4	
テンツキ属	果実	完形	4	4	
ホタルイ属	果実	完形	-	7	
カヤツリグサ科	果実	完形	26	16	
		破片	2	-	
ギシギシ属	花被	完形	35	7	
	果実	完形	8	5	
ポントクタデ近似種	果実	完形	-	1	
ミソソバ近似種	果実	完形	10	-	
		破片	7	-	
タデ属	果実	完形	9	-	
		破片	5	-	
スベリヒユ科	種子	完形	2	1	
ナデシコ科	種子	完形	11	36	
アカザ科	種子	完形	2	-	
ヒユ科	種子	完形	-	16	
アブラナ科	種子	完形	1	-	
キジムシロ類*	核	完形	-	1	
スマレ属	種子	完形	1	-	
		破片	1	-	
アリノトウグサ	核	完形	3	6	
		破片	1	1	
チドメグサ属	果実	完形	1	3	
		破片	1	-	
セリ科	果実	完形	3	-	
イヌコウジュ属	果実	完形	-	2	
		破片	-	2	
タカサブロウ	果実	完形	-	1	
キク科	果実	完形	8	-	
		破片	6	-	
不明種実			1	-	
木材		[個]	15	-	最大3.2cm
炭化材		乾燥重量[g]	<0.01	0.02	最大8.5mm(下部)
藓苔類			+	+	
昆虫			+	+	一部同定対象(下部)
不明		[個]	2	2	
分析量		容量[cc]	150	100	
		湿重量[g]	188.98	131.78	

\*キジムシロ類：キジムシロ属-ヘビイチゴ属-オランダイチゴ属  
検出状況 「+」：検出、「-」：非検出

珪酸体や短細胞列などが産出する。栽培種を除く分類群では、タケ亜科、コブナグサ属やススキ属を含むウシクサ族、イチゴツナギ亜科などが検出され、これらの分類群ではタケ亜科の含量がやや高い。

### (5) 微細物分析

結果を第7図に示す。SD003試料番号3下部は、栽培種のイネの穎が最も多く（282個+40cc、うち31個炭化）、その他の栽培種では、炭化したイネの胚乳1個、ソバの果実破片8個、シソ属の果実33個、メロン類（モモルディカメロン型）の種子1個が確認された。栽培種を除く分類群は、落葉低木のケヤマウコギ近似種、タニウツギ属各1個と、イボクサ、ホシクサ属、エノコログサ属、イネ科、テンツキ属、ホタルイ属、カヤツリグサ科、ギシギシ属、ポントクタデ近似種、スベリヒユ科、ナデシコ科、ヒユ科、キジムシロ属-ヘビイチゴ属-オランダイチゴ属（以下、キジムシロ類）、アリノトウグサ、チドメグサ属、イヌコウジュ属、タカサブロウなどの草本157個、計159個が検出された。木本は、伐採地や崩壊地、林縁等の明るく開けた場所に先駆的に侵入する低木類が確認され、草本は、明るく開けた場所に生育する、いわゆる人里植物に属する分類群が多く、イボクサ



やホシクサ属、ホタルイ属、ポントクタデ近似種、タカサブロウなどの水湿地生植物を含む。種実以外では、炭化材0.02g（最大8.5mm）、蘚苔類、昆虫が検出された。

一方、SD003試料番号3上部は、栽培種のイネの穎20個、ヒルムシロ属、ミズアオイ属?、イボクサ、ホシクサ属、イネ科、テンツキ属、カヤツリグサ科、ギシギシ属、ミゾソバ近似種、タデ属、スベリヒユ科、ナデシコ科、アカザ科、アブラナ科、スマレ属、アリノトウグサ、チドメグサ属、セリ科、キク科などの草本372個、不明1個、計373個が検出された。全て草本類から成り、人里植物に属する分類群が多い。最も多く検出されたホシクサ属（124個）をはじめ、ヒルムシロ属、ミズアオイ属?、イボクサ、ミゾソバ近似種、セリ科などの水湿地生植物が確認された。種実以外では、木材15個（最大3.2cm）、炭化材0.01g未満、蘚苔類、昆虫が検出された。

### (6) 昆虫同定

結果を第8図に示す。SD003試料番号3上部から検出された昆虫遺体群は、コウチュウ目オサムシ科では、ゴモクムシ属、スジアオゴミムシ、ヒメヒラタゴミムシ属の3分類群、コウチュウ目コガネムシ科では、スジコガネ属、セマダラコガネ、ヒメコガネ、マグソコガネ属の4分類群、コウチュウ目ハネカクシ科ではツツハネカクシ属の1分類群に同定された。この他に、属レベルまで同定が至らなかったものに、コウチュウ目ハムシ科、ハチ目がある。

これらの昆虫遺体群のうち、コガネムシ類は草原・荒れ地・林縁部などのイネ科、キク科などの草本植物の繁茂した場所に生息する。オサムシ科（スジアオゴミムシ、ゴモクムシ属）も草地、荒れ地に生息する。ツツハネカクシ属は林縁部などに多く発見され、朽木の樹皮下などに生育し、キクイムシの幼虫を捕食する。ハムシ科の一種は草地の各種草本を幼虫・成虫共に摂食する。

### (7) 炭化材同定

結果を第9図に示す。各遺構から出土した炭化材は、針葉樹1分類群（スギ）と広葉樹2分類群（ハンノキ属ハンノキ亜属・カエデ属）に同定された。以下に、各分類群の解剖学的特徴等を記す。

#### ・スギ (*Cryptomeria japonica* (L.f.) D. Don) スギ科スギ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、

第8図 昆虫同定結果（検出分類群）

分類群	部位	数量
コウチュウ目(Coleoptera)		
オサムシ科(Carabidae)		
ゴモクムシ属( <i>Harpalus</i> )の一種	前胸背板	1
スジアオゴミムシ( <i>Macrochlaenites costiger</i> )	右前翅	1
ヒメヒラタゴミムシ属( <i>Agonum</i> )の一種	左前翅	2
ハネカクシ科(Staphylinidae)		
ツツハネカクシ属( <i>Osorius</i> )の一種	頭部	1
コガネムシ科(Scarabaeidae)		
マグソコガネ属( <i>Aphodius</i> )の一種	左右前翅	2
スジコガネ属( <i>Anomala</i> )の一種	頭部・脚	6
ヒメコガネ( <i>Anomala daimiana</i> )	頭部・左右前翅・前胸背板	8
セマダラコガネ( <i>Anomala orientalis</i> )	頭部	1
ハムシ科(Chrysomelidae)の一種	右前翅	1
ハチ目(Hymenoptera)の一種	頭楯	1

第9図 樹種（炭化材）同定結果

試料No.	試料			形状/器種	樹種	
	地区	遺構	位置			
—	G4区	SK037		X60,Y30	炭化材（分割材状）	スギ
—					炭化材（破片）	ハンノキ属ハンノキ亜属
—	K8区	SK049		X100,Y70	炭化材（破片）	カエデ属
1	K3区	SD007		X100,Y20	円盤状木製品	ケヤキ
2	E9区	SK012		X80,Y80	弓状木製品	マキ属
3	E9区	SX001		X40,Y80	下駄（連歯）	タカノツメ

晩材部の幅は比較的広い。樹脂細胞はほぼ晩材部に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はスギ型で、1分野に2-4個。放射組織は単列、1-10細胞高。

・ハンノキ属ハンノキ亜属 (*Alnus subgen. Alnus*) カバノキ科

散孔材で、管孔は単独または2-4個が放射方向に複合して散在する。道管は階段穿孔を有し、壁孔は対列状に配列する。放射組織は同性、単列、1-20細胞高のものと集合放射組織とがある。

・カエデ属 (*Acer*) カエデ科

散孔材で、管壁は薄く、横断面では角張った楕円形、単独および2～3個が複合して散在し、年輪界に向かって管径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は対列～交互状に配列、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、1-5細胞幅、1-30細胞高。木繊維が木口面において不規則な紋様をなす。

## 4. 考察

### (1) 溝の堆積環境

SD012の灰色泥質土（1地点 試料番号10）の珪藻化石群集は、浮遊性種や流水性種が少なく、沼沢湿地付着生種群とされるものが多かった。このような状況から、浅い沼沢域で、流れの影響も少ない水域環境が推定される。また、中程度に汚濁した水域に多く認められる広域適応性種が多く、有機汚濁の進んだ腐水域に耐性のある好汚濁性種を伴うことから、比較的富栄養な状態であったと考えられる。この他の花粉・植物珪酸体などの微化石の産状に着目すると、花粉化石ではホシクサ属、ミズアオイ属、サンショウモ、植物珪酸体ではコブナグサ属、ヨシ属など浅い沼沢域に生育する水生植物が検出された。これらの分類群の検出状況は、珪藻化石群集の示す水域環境と一致する。

灰色泥質土上位の黒色泥質土（1地点 試料番号9）では、陸生珪藻が多産した一方、水生珪藻も30%近く検出された。下位試料と比較して陸生珪藻が多産したことから、好氣的環境へと変化した可能性がある。なお、デンジソウ属、ヨシ属やコブナグサ属のといった水生植物の微化石が検出されていることを考慮すると、常時乾燥した状態ではなく、滞水していた状態もあったと推定される。

SD006の暗灰褐色シルト（2地点 試料番号1）は、SD012やSD003と珪藻化石群集は異なり、好+真止水性種が多産した。とくに、優占種の*Tabellaria flocculosa*は、浮遊性又は付着性で、弱汚濁耐性種で貧栄養～中栄養、腐植栄養の水域にしばしば出現する種である。このほか、沼沢湿地付着生種群を比較的多く伴うという特徴から、止水域で、貧栄養あるいは腐植栄養な水域環境が推定される。腐植栄養の水域では、周囲から流れ込んだ腐植酸の働きによって酸性に傾く。ジュンサイやアサザなどこのような水域を好む植物も存在するが、本試料では花粉分析を行っていないため、植生と水域環境との関連については不明である。

SD003の珪藻化石群集は、SD012と同様な傾向が認められたことから、浅く、富栄養であり流れの影響が少ない水域環境が推定される。また、灰色シルト（3地点 試料番号1）では陸生珪藻が多く産出したことから、しばしば乾燥した状態にあったと考えられる。また、本試料からは、ミズアオイ属、サンショウモ、イボクサ属等の花粉や、植物プランクトンの一種であるクンショウモ属等が検出された。これらは、水田などを含む浅い沼沢域に生育する分類群であり、珪藻化石群集から推定される水域環境を支持する結果と言える。

### (2) 古植生

SD003埋積物下部（3地点 試料番号3 下部）より検出されたイネの穎は、 $370 \pm 30$ yrBP

(calAD1,455-calAD1,618) という値を示した。この結果を参考とすると、SD003および遺構下部の堆積物の年代は15世紀中葉～17世紀前半頃と推定される。

SD003埋積物下部より検出された種実遺体群は、試料番号3下部試料では、イネの穎が多量検出されたほか、ソバ、シソ属、メロン類などの栽培植物が確認された。また、同上部試料では、草本類を主体とし、ヒルムシロ属、イボクサ属、ホシクサ属、テンツキ属、ポントクタデ、ミゾソバ、タカサブロウなどの浅い沼沢域や湿った場所に生育する種類が多く検出された。また、イネ科やカヤツリグサ科、ギシギシ属、ナデシコ科、ヒユ科などの明るく開けた場所に生育する人里植物を含む分類群は、上・下部試料より比較的多く検出された。これらの産状から、中世～近世初頭頃の溝周辺には、イネ科、カヤツリグサ科、ギシギシ属、ナデシコ科、ヒユ科、ヨモギ属などの人里植物からなる草地が分布し、タニウツギ属やイボタノキ属、クロウメモドキ科などの低木類も生育していたと推定される。SD003埋積物下部（3地点 試料番号3 上部）から検出された昆虫遺体は、草地や林縁に生育する種類が多く、上記した推定される周辺植生と調和的である。

一方、木本類は、溝周辺は上記した花粉や種実の産状から草地的環境と推定されたことから、周囲の河畔・低地林や後背の丘陵や山地の森林植生を反映していると推定される。花粉化石群集をみると、マツ属の割合が高い。マツ属は、瘦地でも生育可能であることから、砂丘などの海岸沿いに生育する。この他、代替植生としての二次林や成長が早く有用材としても利用可能であることから植林される種類である。本遺跡周辺における中世の花粉化石の産出傾向（田中・千葉 2007）などを参考とすると、マツ属の多産は二次林や植林などを反映している可能性がある。次いで多く検出された、コナラ亜属やブナ属は落葉広葉樹林の主要な種類であることから、周辺の山地・丘陵を中心とした土地条件が安定した場所に森林を構成していたと考えられる。コナラ亜属には雑木林を構成するコナラや、低地に生育可能なクヌギなども含まれるため、二次林に由来するものも含まれると考えられる。この他に、河畔・湿地林（低地林）を構成する種類としてハンノキ属やニレ属—ケヤキ属など産出したが、その産出状況は低率であった。後述する栽培種に由来する微化石や大型植物遺体の産状、炭化材の同定結果を考慮すると、周囲の低湿地部の開発などによりこれらの林分が減少していた可能性や、これらの林分より樹木を伐採・利用していたことが想定される。

### (3) 植物利用

SD003試料からは、栽培種のイネ属およびソバ属、栽培種を含むアズキ属やアブラナ科の花粉、植物珪酸体ではイネ属の葉部や穎に由来する珪酸体や珪化組織片、さらに、多量のイネの穎のほか、ソバ、シソ属、メロン類などの種実が検出された。

SD003試料については、稲粃が試料番号3下部より多量検出されたことや、イネ属の花粉は花の構造上穎の中に相当数残存する（中村 1980b）ことから、検出されたイネ属花粉化石の多くは、穎の中に残存していたものに由来する可能性がある。また、イネ属の葉部に形成される珪酸体含量は、試料番号1の機動細胞珪酸体が約8,100個/g、試料番号3-1が約6,400個/gと、水田跡で安定した稲作が行われたとする目安である機動細胞珪酸体5,000個/g（杉山 2000）を上回ることや、イネの穎や葉部に由来する珪酸体や組織片が多く検出される状況から、埋積物中には粃殻のほかイネの植物体（稲藁など）が混入していたと推定される。なお、多量検出されたイネの穎には、炭化した状態のものと未炭化の状態のものが確認された。

また、SD012試料（1地点 試料番号9・10）においても、イネ属花粉およびイネの穎や葉部に由来する珪酸体や組織片、ソバ属、アブラナ科の花粉が検出された。イネ属機動細胞珪酸体含量は、

黒色シルト～粘土（試料番号9）が約2.2万個/g、灰色シルト～粘土（試料番号10）が約2.1万個/gと、SD003のそれよりも高い。また、花粉分析の残渣中に多く認められた微粒炭にはイネ科等に由来するものも含まれていたことから、植物体の混入の程度や保存状況はSD003と異なっていたと考えられる。

SD003およびSD012試料におけるイネ属の産状を考慮すると、イネの植物体（稲藁、籾殻など）の資材としての利用や廃棄などが推定される。また、イネ属をはじめとして、ソバやシソ属、メロン類などの種実が検出されたことから、これらの栽培種の利用や周辺域における栽培の可能性が窺われる。なお、アズキ属やアブラナ科については、栽培種に由来する可能性もあるが、花粉化石の形態から野生種と栽培種との区別は困難である。

## Ⅱ.木製品

### 1.試料

試料は、SD007から出土した円盤状を呈する木製品（試料番号1）と、SK012から出土した弓状を呈する木製品（試料番号2）、SX001から出土した連歯下駄（試料番号3）の3点である。

### 2.分析結果

結果を第9図に示す。木製品は針葉樹1分類群（マキ属）と広葉樹2分類群（ケヤキ・タカノツメ）に同定された。以下に、各分類群の解剖学的特徴等を記す。

#### ・マキ属 (*Podocarpus*) マキ科

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。樹脂細胞が早材部から晩材部にかけて認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔は保存が悪く観察できない。放射組織は単列、1-5細胞高。

#### ・ケヤキ (*Zelkova serrata* (Thunb.) Makino) ニレ科ケヤキ属

環孔材で、孔圏部はほぼ1列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、塊状に複合して接線・斜方向に紋様状あるいは帯状に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1-6細胞幅、1-50細胞高。放射組織の上下縁辺部を中心に結晶細胞が認められる。

#### ・タカノツメ (*Evodiopanax innovans* (Sieb. et Zucc.) Nakai) ウコギ科タカノツメ属

環孔材で、孔圏部は接線方向に疎な1列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、2～4個が放射方向、斜方向等に複合して配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、1-3細胞幅、1-20細胞高。

### 4.考察

円盤状木製品（試料番号1）は、いわゆる刳物であり、広葉樹のケヤキであった。ケヤキは、重硬で強度・耐朽性が高い材質を有する。富山県内の刳物の調査事例は、縄文～弥生時代の資料が中心であり古代以降の資料はほとんどなく、木材利用状況は不明である。今回の結果から少なくともケヤキが利用されていたことが推定される。

弓状木製品（試料番号2）は、弧状を呈する芯持丸木であり、針葉樹のマキ属が利用されている。マキ属は、強靱で強度・耐水性が高い材質を有する。富山県内では、水橋金広・中馬場遺跡（富山

市) から出土した古代～中世の弓状木製品がイヌマキ (マキ属) に同定された事例 (株式会社吉田生物研究所 2006) がある。

下駄 (試料番号3) は、台と歯を一木で作る連歯下駄であり、落葉広葉樹のタカノツメが利用されている。タカノツメは、軽軟な部類に入り、加工は容易であるが、割裂しやすい。富山県内では、中世を中心に多くの下駄について樹種同定が行われている (長谷川・塚本 1996a, 1996b・元興寺文化財研究所 1998・2002・バリノ・サーヴェイ株式会社 2004・株式会社吉田生物研究所 2006など)。これらの下駄には、針葉樹の複雑管束亜属 (アカマツ・クロマツ)、モミ属、スギ、ヒノキ、広葉樹のサワグルミ、ケヤキ、カツラ、サイカチ、カエデ属、キリ等の様々な材質の木材が利用されている。タカノツメについては、過去の調査事例では確認できなかったが、今回の結果から利用が指摘される。

### Ⅲ. 金属遺物

#### 1. 試料および分析方法

試料は、仏具とされる花瓶 (SK066 X=11 Y=70 金属製品 H20.10.31) 1点である。本試料は、非破壊を前提とした材質調査を目的としたことから、試料はクリーニング処理や錆 (腐食生成物) の除去を行わず調査に供する。材質調査に用いた装置は、セイコーインスツルメンツ (株) 製エネルギー分散型蛍光X線分析装置 (SEA2120L) である。

得られた特性X線スペクトルは元素定性を実施した後、FP法 (ファンダメンタルパラメーター法、以下、FP法) を用いたスタンダードレス分析により定量演算を行い、相対含有率 (質量%) を求める。なお、算出された結果は半定量的なものであるため、結果の評価には注意する必要がある。本調査における測定条件を以下に示す。

測定装置 :SEA2120L	雰囲気:大気	管球ターゲット元素:Rh
励起電圧 (kV) :50	コリメータ:φ10.0mm	管電流 (μA) :自動設定
フィルター :なし	測定時間 (秒) :300	マイラー :OFF

#### 2. 分析結果および考察

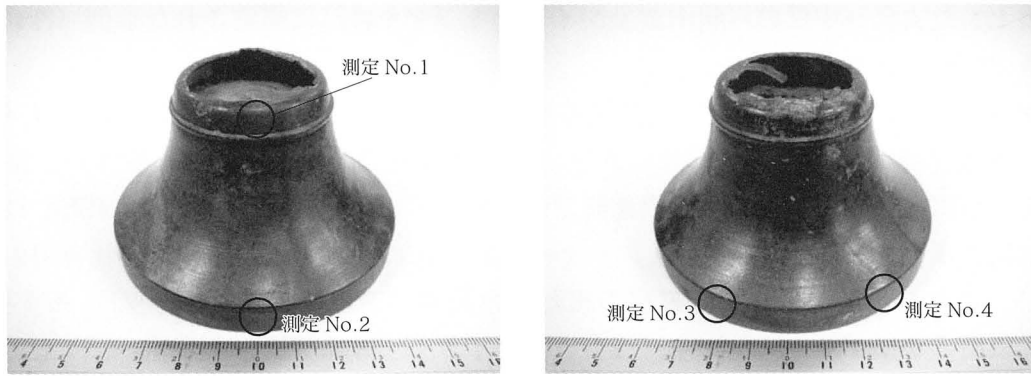
FPにより求めた元素分析結果を第10図、測定箇所を第11図、蛍光X線スペクトルを第12図示す。金属製品の元素分析によって得られた主要元素はCu (銅)、Sn (錫)、Pb (鉛) であり、他にFe (鉄)、As (ヒ素)、Sb (アンチモン)、Ag (銀)、Bi (ビスマス) が検出されている。これら検出元素の相対含有率によれば、測定箇所により多少のばらつきがあるが、およそ銅が41%、錫が41%、鉛が6%程度の平均組成を示すことから、鉛入り青銅製 (Cu-Sn-Pb合金) と判断される。

第10図 元素分析結果

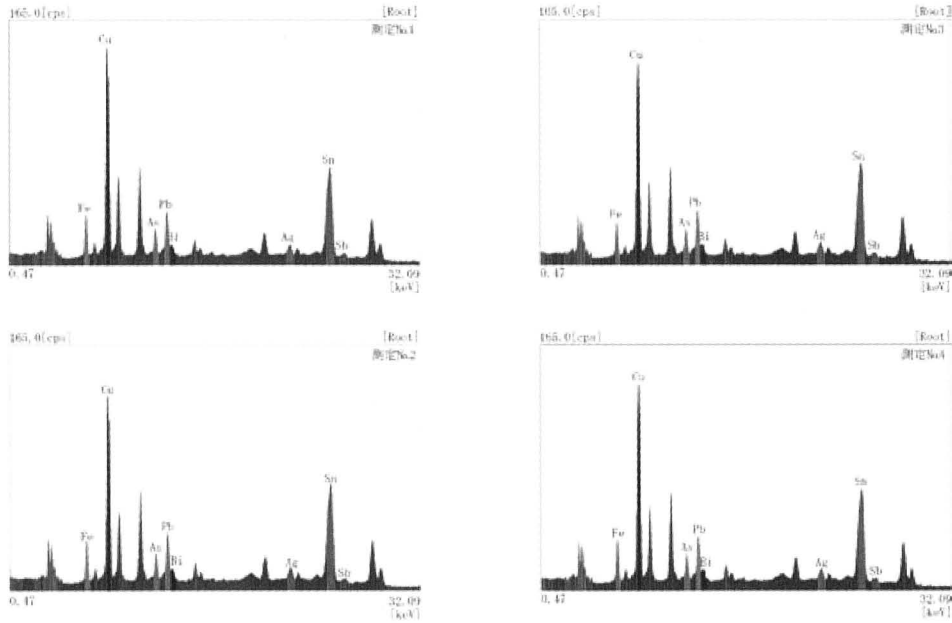
測定No.	Cu	Sn	Pb	Fe	As	Sb	Ag	Bi
1	45.30	37.38	6.24	2.88	6.61	0.23	0.57	0.79
2	37.39	44.61	6.60	3.05	6.50	0.23	0.74	0.89
3	41.70	40.73	6.18	2.96	6.60	0.34	0.65	0.84
4	40.91	42.26	6.24	2.10	6.63	0.36	0.72	0.79
平均値	41.33	41.25	6.32	2.75	6.59	0.29	0.67	0.83

(単位:wt%)

第11図 測定箇所



第12図 蛍光X線スペクトル



引用文献

元興寺文化財研究所,1998,樹種鑑定報告書.「五社遺跡発掘調査報告書 -能越自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘 報告I-(第2分冊)」,富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告第9集,富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所,39-64.

元興寺文化財研究所,2002,樹種鑑定報告書.「石名田木舟遺跡発掘調査報告書 -能越自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘報告III-(第三分冊)」,富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告第14集,富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所,78-120.

長谷川益夫・塚本英子,1996a,木製品の樹種識別.「富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所 梅原胡摩堂遺跡発掘調査報告(遺物編) 東海北陸自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告II 第二分冊」,富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告第7集,49-86.

長谷川益夫・塚本英子,1996b,木製品の樹種識別.「梅原加賀坊遺跡・久戸遺跡・梅原安丸遺跡・田尻遺跡発掘調査報告 東海北陸自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘報告III」,富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告第8集,富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所,9-23.

株式会社吉田生物研究所,2006,水橋金広・中馬場遺跡出土木製品・炭化物の樹種調査結果-平成14～16年度調査区の試料から①.「富山市水橋金広・中馬場遺跡発掘調査報告書II」,富山市教育委員会,151-152.

中村 純,1980a,日本産花粉の標徴I・II.大阪市立自然史博物館収蔵資料目録第12集・第13集.

中村 純,1980b,花粉分析による稲作史の研究.考古学・美術史の自然科学的研究,古文化財編集委員会編,日本学術振興会,185-204.

小椋純一,2007,微粒炭の母材植物特定に関する研究.植生史研究,15,85-96.

パリノ・サーヴェイ株式会社,2004,自然科学分析.「間尽遺跡調査報告II -平成13年度、能越自動車道土砂採取関連事業に伴う調査(A地区)」,高岡市埋蔵文化財調査報告書第11冊,高岡市教育委員会,35-57.

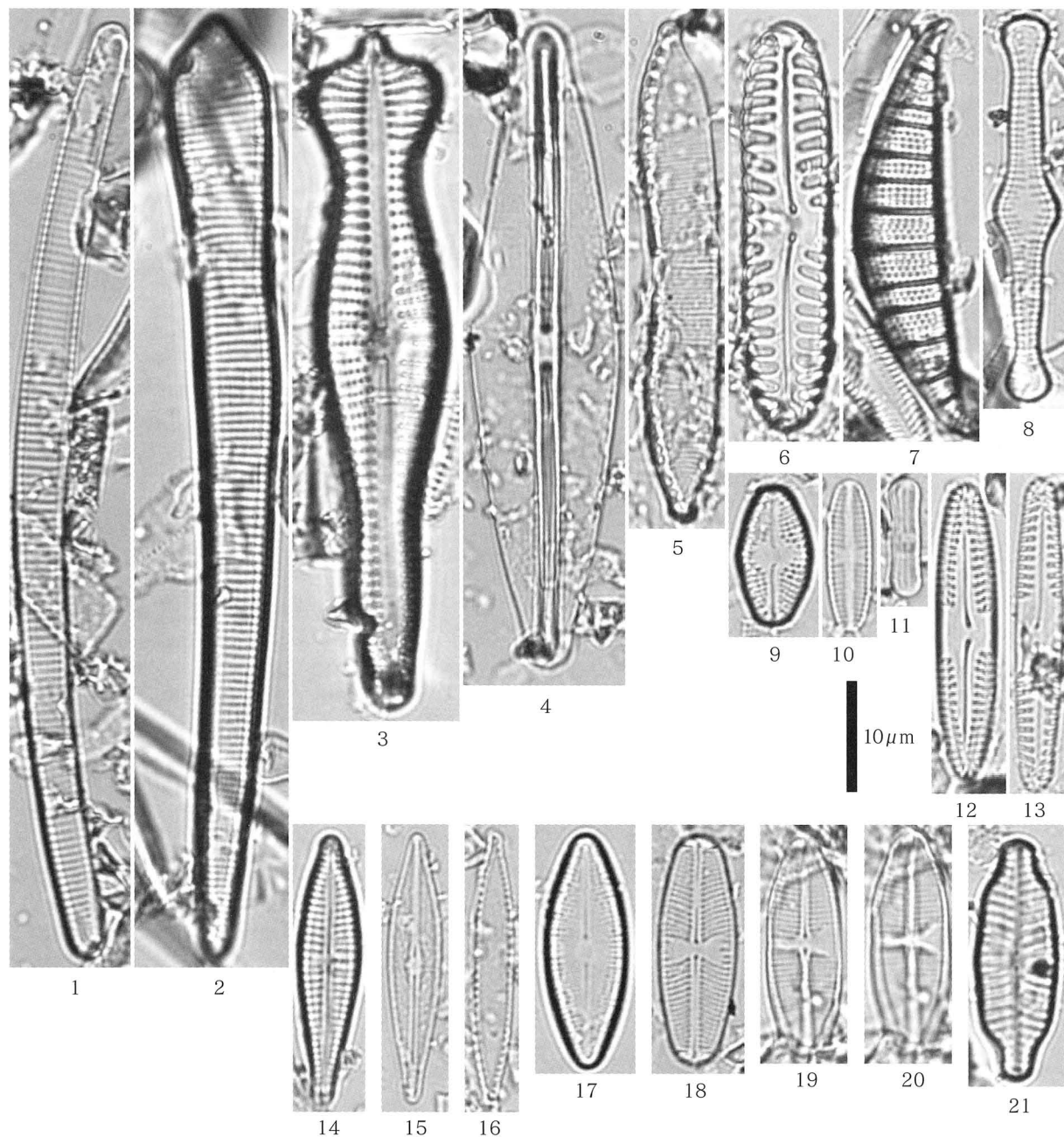
パリノ・サーヴェイ株式会社,2006,打出遺跡の自然科学分析.「富山市埋蔵文化財調査報告7 富山市打出遺跡発掘調査報告書 一般県道四方新中茶屋線住宅基盤整備事業に伴う発掘調査報告」,富山市教育委員会,89-147.

杉山真二,2000,植物珪酸体(プラント・オパール).辻 誠一郎編著 考古学と自然科学3 考古学と植物学,同成社,189-213.

田中義文・千葉博俊,2007,射水平野周辺の古環境変遷.PALYNO,5,34-47.

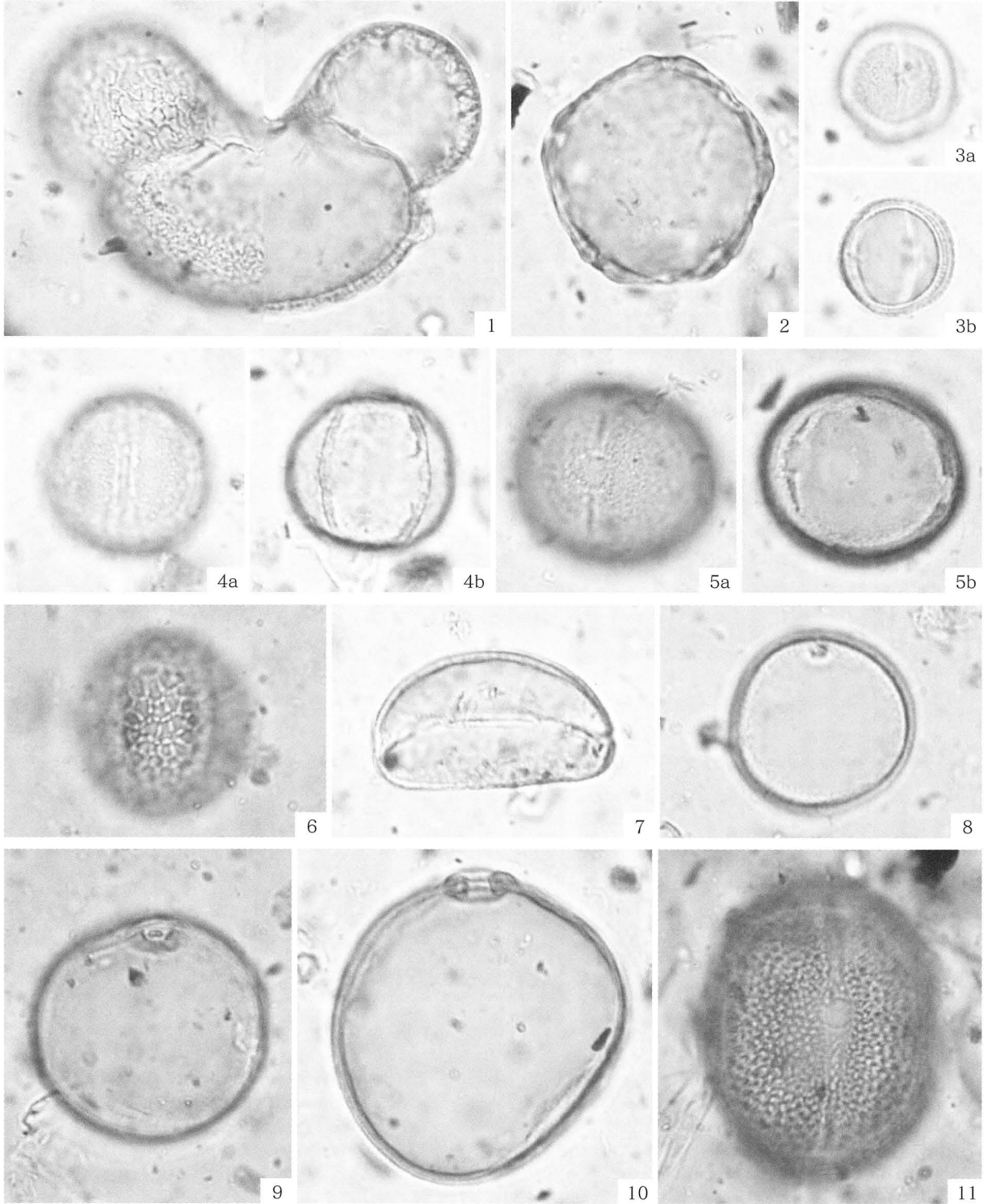
富山市教育委員会,2006,「富山市打出遺跡発掘調査報告書」.富山市埋蔵文化財調査報告7.

第13图 珪藻化石



- |  |  |
|--|--|
| 1. <i>Eunotia bilunaris</i> (Ehr.)Mills(SD003;1)                                   | 2. <i>Actinella brasiliensis</i> Grunow(SD006;1)           |
| 3. <i>Gomphonema acuminatum</i> Ehrenberg(SD006;1)                                 | 4. <i>Frustulia saxonica</i> Rabenhorst(SD012;10)          |
| 5. <i>Hantzschia amphioxys</i> (Ehr.)Grunow(SD012;9)                               | 6. <i>Pinnularia borealis</i> Ehrenberg(SD012;9)           |
| 7. <i>Rhopalodia gibberula</i> (Ehr.)O.Muller(SD012;10)                            | 8. <i>Tabellaria flocculosa</i> (Roth)Kuetzing(SD006;1)    |
| 9. <i>Luticola mutica</i> (Kuetz.)D.G.Mann(SD012;9)                                | 10. <i>Sellaphora seminulum</i> (Grun.)D.G.Mann(SD003;3-1) |
| 11. <i>Diadesmis biceps</i> Arnott ex Grunow in Van Heurck(SD012;9)                |  |
| 12. <i>Pinnularia subcapitata</i> var. <i>paucistriata</i> (Grun.)Cleve(SD012;9)   |  |
| 13. <i>Pinnularia subcapitata</i> Gregory(SD012;9)                                 |  |
| 14. <i>Gomphonema parvulum</i> (Kuetz.)Kuetzing(SD006;1)                           |  |
| 15. <i>Brachysira irawanae</i> (Podzorski & Hakan.)Lange-B. & Podzorski(SD006;1)   |  |
| 16. <i>Nitzschia palea</i> (Kuetz.)W.Smith(SD012;10)                               |  |
| 17. <i>Diadesmis confervacea</i> Kuetzing(SD003;1)                                 |  |
| 18. <i>Sellaphora pupula</i> (Kuetz.)Mereschkowsky(SD012;10)                       |  |
| 19. <i>Lemnicola hungarica</i> (Grunow)Round & Basson(SD012;10)                    |  |
| 20. <i>Lemnicola hungarica</i> (Grunow)Round & Basson(SD012;10)                    |  |
| 21. <i>Placoneis elginensis</i> var. <i>neglecta</i> (Krasske)H.Kobayasi(SD012;10) |  |

第14図 花粉化石

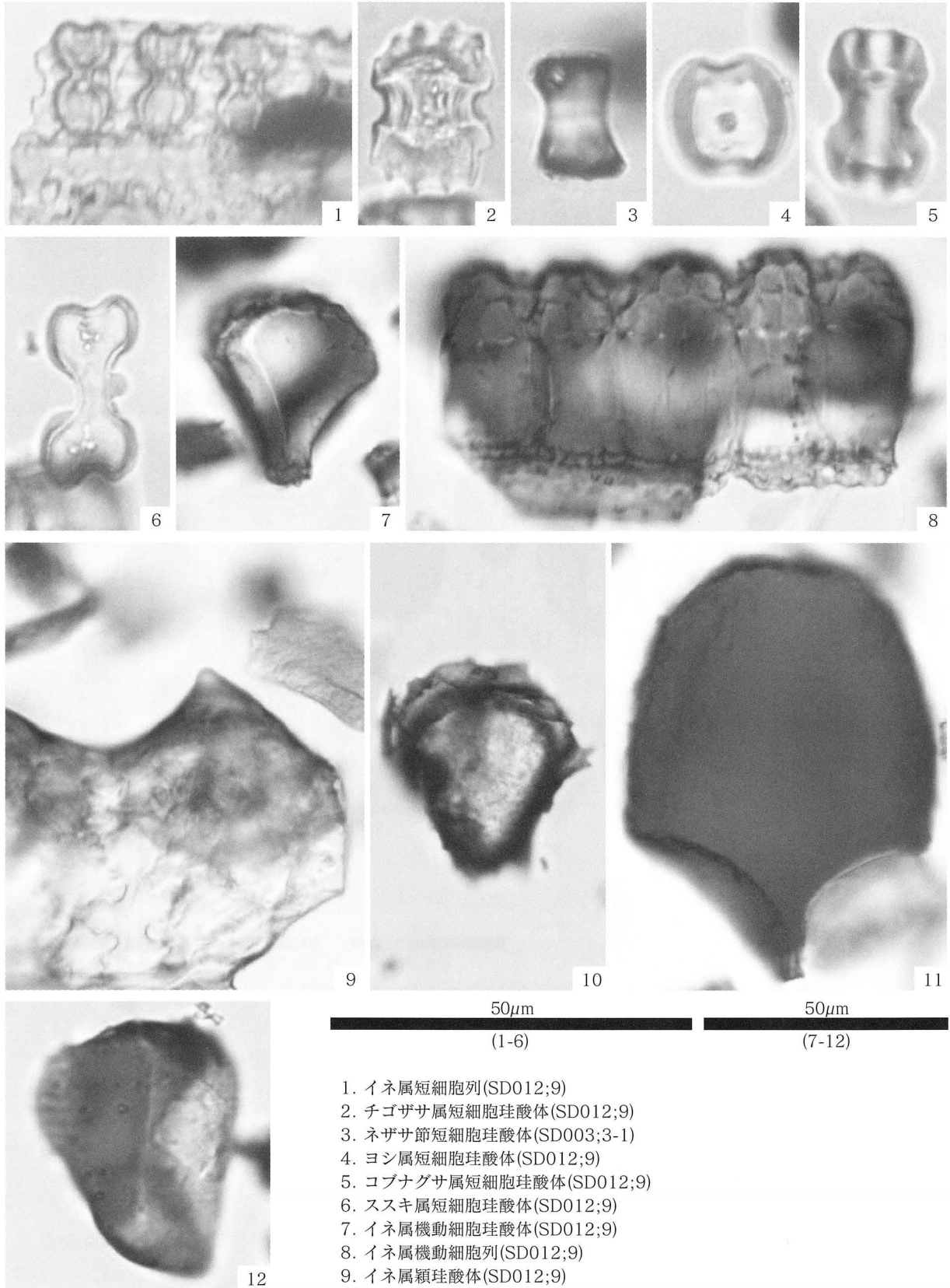


50µm

- |                      |                        |
|----------------------|------------------------|
| 1. マツ属(SD012;10)     | 2. ニレ属—ケヤキ属(SD003;3-1) |
| 3. ヨモギ属(SD003;3-1)   | 4. ヨナラ亜属(SD003;3-1)    |
| 5. ブナ属(SD012;10)     | 6. イボタノキ属(SD003;3-1)   |
| 7. ミズアオイ属(SD003;3-1) | 8. 他のイネ科(SD003;3-1)    |
| 9. イネ属(SD012;10)     | 10. 他のイネ科(SD003;3-1)   |
| 11. ソバ属(SD012;10)    |                        |

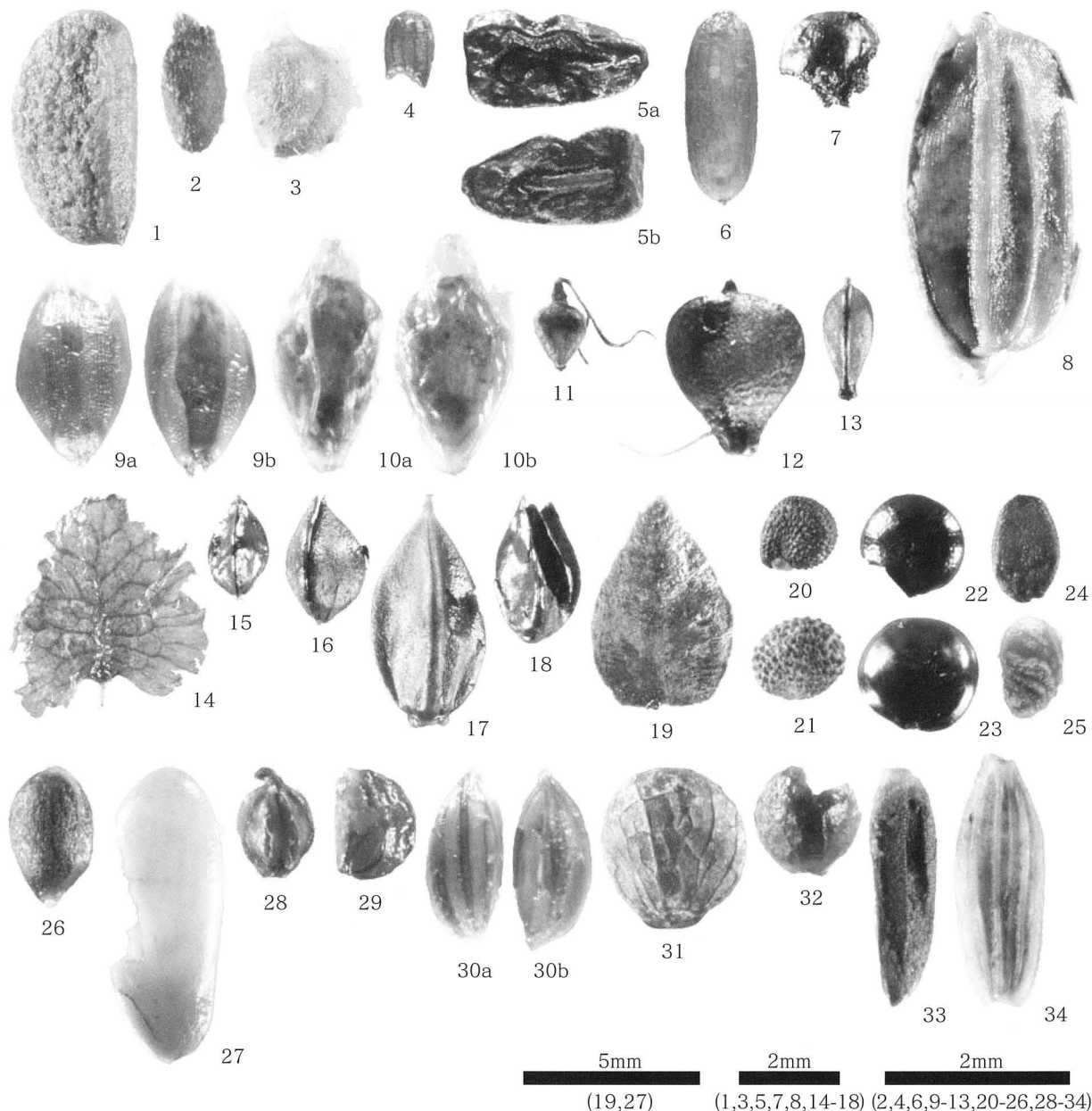


第15図 植物珪酸体



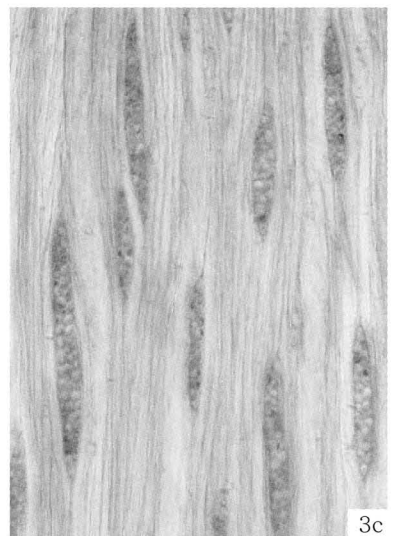
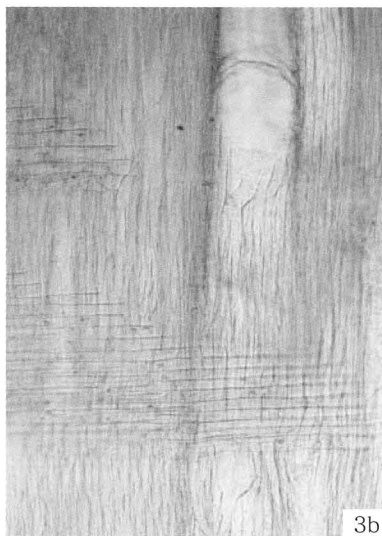
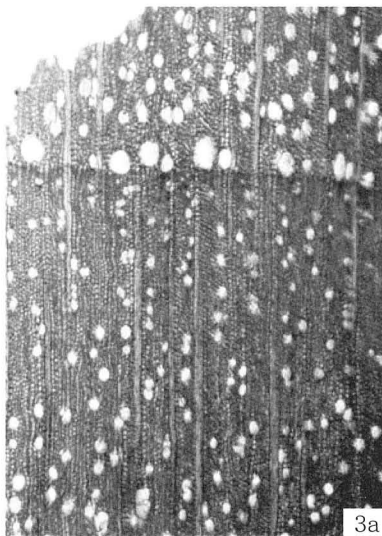
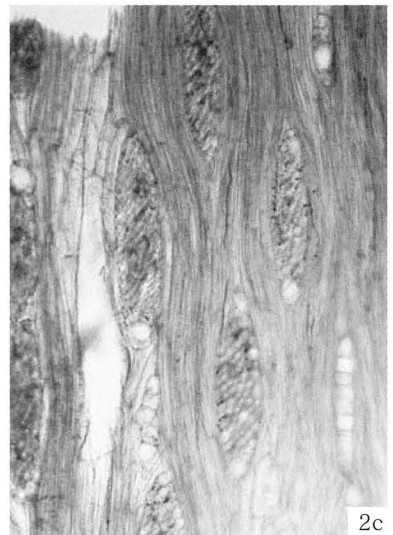
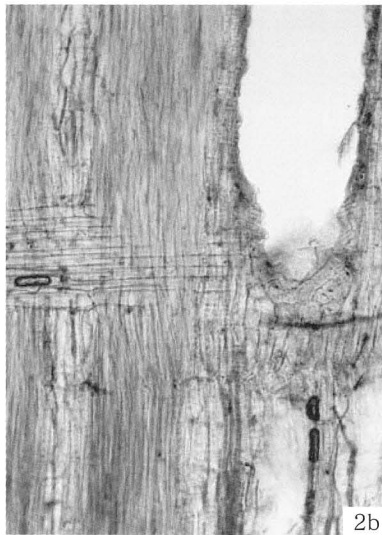
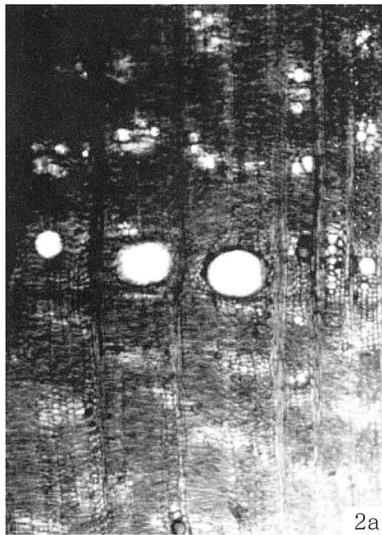
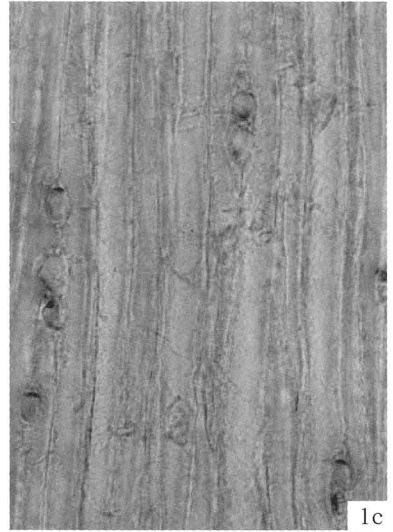
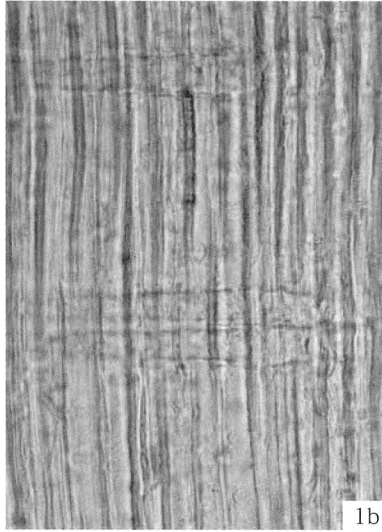
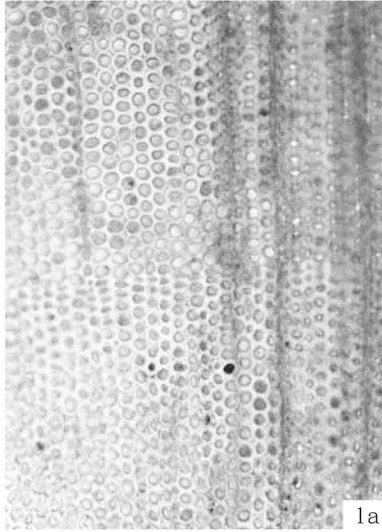
1. イネ属短細胞列(SD012;9)
2. チゴザサ属短細胞珪酸体(SD012;9)
3. ネザサ節短細胞珪酸体(SD003;3-1)
4. ヨシ属短細胞珪酸体(SD012;9)
5. コブナグサ属短細胞珪酸体(SD012;9)
6. ススキ属短細胞珪酸体(SD012;9)
7. イネ属機動細胞珪酸体(SD012;9)
8. イネ属機動細胞列(SD012;9)
9. イネ属穎珪酸体(SD012;9)
10. ネザサ節機動細胞珪酸体(SD003;3-1)
11. ヨシ属機動細胞珪酸体(SD012;9)
12. ウシクサ属機動細胞珪酸体(SD012;9)

第16図 種実遺体



- |  |                                     |
|--|-------------------------------------|
| 1. ケヤマウコギ近似種 核(SD003;3 下部)               | 2. タニウツギ属 種子(SD003;3 下部)            |
| 3. ヒルムシロ属 果実(SD300;3 上部)                 | 4. ミズアオイ属? 種子(SD003;3 上部)           |
| 5. イボクサ 種子(SD003;3 上部)                   | 6. ホシクサ属 種子(SD003;3 上部)             |
| 7. イネ 胚乳(SD003;3 下部)                     | 8. イネ 穎(SD003;3 下部)                 |
| 9. エノコログサ属 果実(SD003;3 下部)                | 10. イネ科 果実(SD003;3 上部)              |
| 11. テンツキ属 果実(SD003;3 下部)                 | 12. ホタルイ属 果実(SD003;3 下部)            |
| 13. カヤツリグサ科 果実(SD003;3 上部)               | 14. ギンギン属 花被(SD003;3 上部)            |
| 15. ギンギン属 果実(SD003;3 上部)                 | 16. ポントクタテ近似種 果実(SD003;3 下部)        |
| 17. ミゾソバ近似種 果実(SD003;3 上部)               | 18. タデ属 果実(SD003;3 上部)              |
| 19. ソバ 果実(SD003;3 下部)                    | 20. スベリヒユ科 種子(SD003;3 上部)           |
| 21. ナデシコ科 種子(SD003;3 下部)                 | 22. アカザ科 種子(SD003;3 上部)             |
| 23. ヒユ科 種子(SD003;3 下部)                   | 24. アブラナ科 種子(SD003;3 上部)            |
| 25. キジムシロ属-ヘビイチゴ属-オランダイチゴ属 核(SD003;3 下部) |                                     |
| 26. スミレ属 種子(SD003;3 上部)                  | 27. メロン類(モモルディカメロン型) 種子(SD003;3 下部) |
| 28. アリノトウグサ 核(SD005;3 下部)                | 29. チドメグサ属 果実(SD003;3 下部)           |
| 30. セリ科 果実(SD005;3 上部)                   | 31. シソ属 果実(SD003;3 下部)              |
| 32. イヌコウジュ属 果実(SD003;3 下部)               | 33. タカサブロウ 果実(SD003;3 下部)           |
| 34. キク科 果実(SD003;3 上部)                   |                                     |

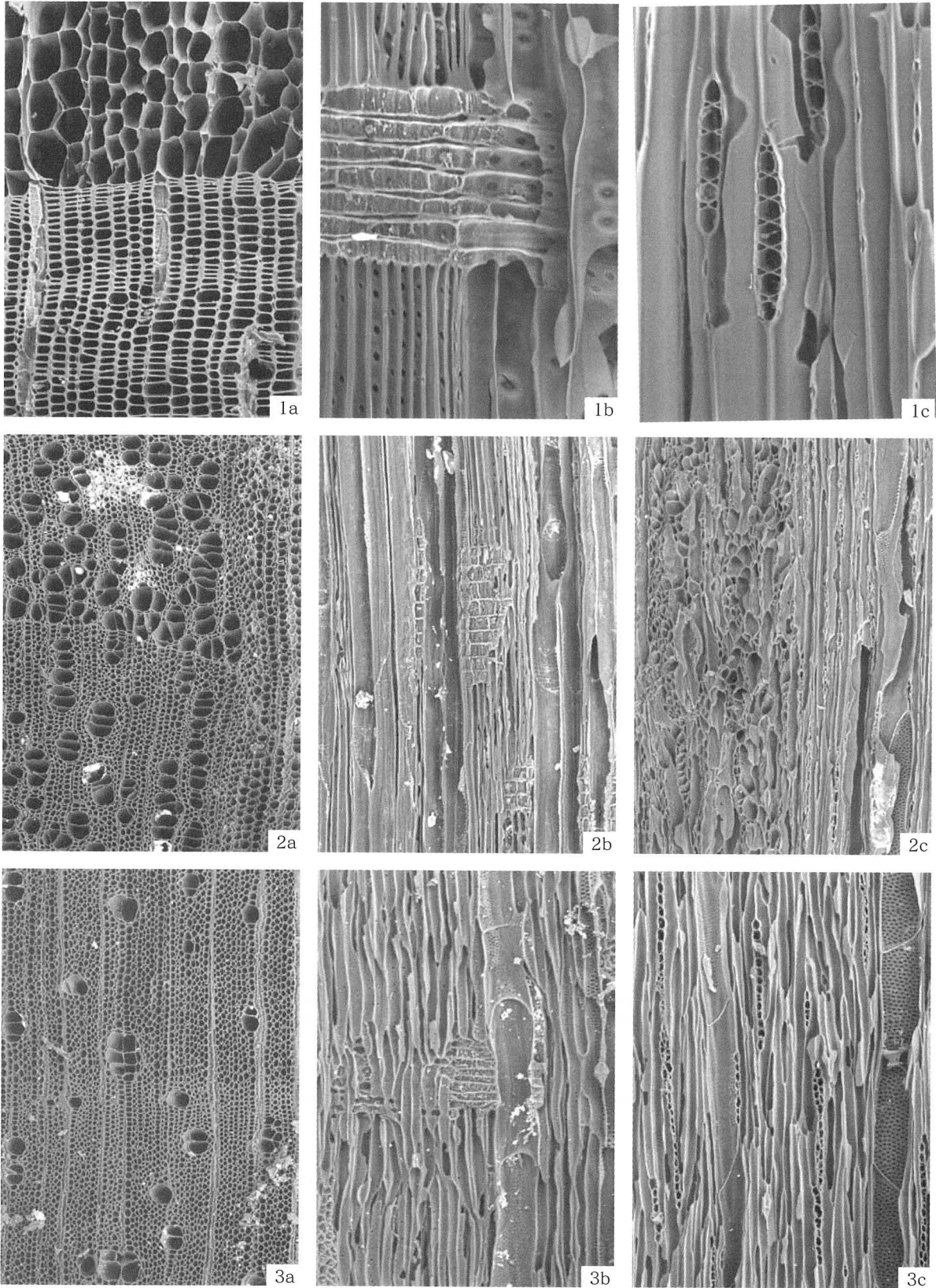
第17図 木材



- 1. マキ属 (試料番号2)
- 2. ケヤキ (試料番号1)
- 3. タカノツメ(試料番号3)
- a:木口,b:柾目,c:板目

300  $\mu$ m:2-3a  
 200  $\mu$ m:1a,2-3b,c  
 100  $\mu$ m:1b,c

第18図 炭化材



- 1. スギ(G4区;SK037)
  - 2. ハンノキ属ハンノキ亜属(H9区;SK027)
  - 3. カエデ属(K8区;SK049)
- a:木口,b:柁目,c:板目

200 μm:2-3a  
 200 μm:1a,2-3b,c  
 100 μm:1b,c

## 第5章 総括

今回の調査は住宅団地建設予定地の道路部分という限定された範囲ではあったが、古代・中世の多くの遺構・遺物を検出することができた。以下に今回の調査成果について簡単に総括しておく。

### (1) 遺構について

今回の調査で出土した最も古い時代の遺物は縄文時代の石器であるが、縄文時代の遺構は検出されていない。また弥生・古墳時代の遺物も微量が散見できる程度で、遺構も伴っていない。今回の調査で確実に遺構が確認できるのは古代以降である。とくに本調査地の北西側に位置する平成7・8年度調査地では、奈良・平安時代の大規模な掘立柱建物群がみつかり、地方官衙（郡衙）としての性格が付与されている。一方今回の調査では、前回調査地とは対照的に古代の時期に比定できる遺構はわずかしら認められない。井戸跡SE001・002がその典型であるが、これに伴う建物群は調査面積の制約もあり確認できていない。井戸の時期は平安時代前期に比定されるが、井戸枠の残存もなく、また祭祀的遺物の出土も認められない。このことから今回の調査地付近では古代の遺構がやや希薄になっている様相を明快に窺うことができる。一方前回調査とは異なり、今回の調査では中世の遺構・遺物が比較的多く検出されている。とくに第1調査区SD014やSD013、SD016、第2調査区SD005・007・015、第4調査区SD011など「L」字状や「コ」字状に屈曲する規模の大きな溝が多くみつかり、これらの溝群は出土遺物からも中世後期が中心となる時代が想定される。SD003については、放射性炭素年代測定でも中世後期との分析結果が出ている。屋敷地跡を方形ないし長方形に区画する溝の一部である可能性が指摘できる。ただし前述のように調査面積の制約から屋敷地の規模や単位を明確に把握するには至らなかったのは残念である。また溝群の規模からみても大規模な中世城館に伴う堀とは考えられず、あくまで中世の屋敷地を区画する溝群と捉えるべき性格のものであろう。同種の溝囲いの屋敷地跡は、道場Ⅰ遺跡や任海宮田遺跡などでも見つかり、時期的にも概ね整合し得るものと考えられる。このような中世遺構の検出は米田大覚遺跡では今回が初見であり、古代の官衙的建物群と並び今後の周辺部での調査の進展が大いに期待される。(資料6・9)

(森)

### (2) 出土遺物について

縄文石器と越中瀬戸や唐津など近世以降の陶磁器を除くと、出土遺物はほぼ古代・中世の2時期に限定される。

まず古代では土師器、須恵器が出土遺物の主体を占める。このなかでまず言及すべき遺物としては墨書土器があげられるものの、数点が散見できる程度で、前回調査地の200点にはとても数量では及ばない。一方破片ながら東海系灰釉陶器とともに近江系緑釉陶器の破片が出土している。とくに近江系緑釉陶器の富山県下での出土は少なく貴重な知見であるといえる。

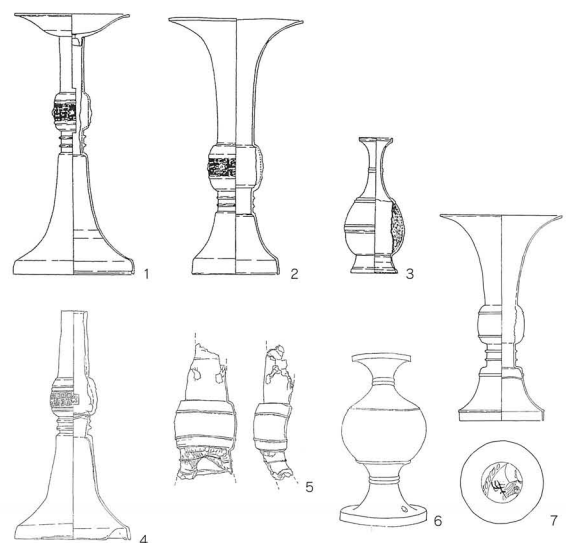
ついで中世の遺物としては中世土師器、珠洲の出土が多く、これに中国陶磁や瀬戸美濃の施釉陶器、瓦質土器、越前などの焼物が加わる。このうち中世土師器では14～15世紀代におさまる時期のものが多い。また珠洲では吉岡編年のⅢ～Ⅳ期、とくにⅣ期のものも多く、Ⅱ期以前に遡る時期のものは少ない。中国陶磁では蓮弁を有する龍泉窯系青磁Ⅱb類が散見されるほか、時期の降るⅣ類碗の底部破片なども出土している。ただし全体に陶磁器類はそう多くはなく、またその組成もそれほど豊かではない。

〈銅製花瓶〉陶磁器ではないがSK066から出土した銅製花瓶はとくに注目できる遺物である。この花瓶は胴部と腰部の境で二つに割れてしまっているが、それを除けば大きな変形もなくほぼ完存であると言える。そこでこの花瓶について以下に若干の検討を加え、出土遺物の項のまとめとしたい。

まずこの花瓶という器種であるが、本例が示すような銅製花瓶とは基本的に仏器の一器種であり、「三具足」の一つを構成するものである。仏の供養具の主なもの、花を挿して供える立花器である花瓶・香をたくための香炉・明かりをともしための燭台の三種類あり、これらをまとめて三具足と呼ぶ。仏前の前机に配置されることが多く、仏教諸宗派に共通してこの三具足が最も基本的な供養具とされている。また中央に香炉を置き、花瓶と燭台を左右一対に置いて五具足と呼ぶこともある。起源はインドの香水を入れる宝瓶であると言われる。『一字奇特仏頂経』（巻上）に「羯刺餘（瓶）を安じ、水を盛り、諸の種子及び葉を盛り」、『大日経疏』（第8）に「迦羅舎（瓶）は諸種の宝葉を容れ、その口に宝華を挿す」と宝瓶について記述があるが、宝瓶に華を挿して供養するとは書かれていない。したがって、本来は立花器ではなかったと考えられる。『大日経疏』（第8）の「その口に宝華を挿す」とは、宝瓶の水に香の粉末等を入れても時間とともに香りが抜けてしまい、それを少しでも防ぐために蓮華等を挿すことによって瓶の口を覆って栓をするという意味である。花瓶は、宝瓶が何時の間にか本来の目的を離れて花を挿すことに注目され、供花の器に転用されたものだと言われている。花瓶には時花として四季折々の生花か、常花として造花が挿される。花瓶は「垂字形花瓶」と「徳利形花瓶」の2種類が主流である。垂字形は口が広く、胴部が膨らみ、頸部と腰部が細く、ちょうど漢字の「垂」の形に似ているのでこの名で呼ばれる。徳利形は細長い頸部に胴部は下膨れで、つまり徳利の下に低い高台がついている形である。

今回の調査で見つかったものは觚形と呼ばれる形である。胴部は俵型で、頸部から口縁部がラッパ形に開く形態である。近隣での比較事例としては富山市内の中名I・V遺跡から、変形しているが垂字形と判断される銅製花瓶が出土している。

また任海宮田遺跡では花瓶ではないが同じ三具足のひとつである銅製の燭台が出土している。その形態は今回の調査で見つかった花瓶とよく似ている。この燭台が三具足として揃っていたならば、その花瓶は今回の調査で見つかった花瓶と同形の可能性がある。県外では石川県の白山橋遺跡では、墓地の隅から銅製の三具足が見つかった（第19図）。この遺跡では徳利形と觚形の二つが見つかった。觚形のもは今回の調査で見つかったものと同類である。また燭台は、任海宮田遺跡出土のものと同類である。この三具足は、見つかった場所から墓地で何らかの仏教儀式が行われ、それに使われたと考えられる。また同県加賀市の分校C遺跡からも觚形の銅製花瓶が見つかった。また新潟県でも上越市の木崎山遺跡から銅製の花瓶が見



第19図 銅製花瓶関連資料

1. 白山橋遺跡出土燭台
2. 白山橋遺跡出土觚形花瓶
3. 白山橋遺跡出土徳利形花瓶
4. 任海宮田遺跡出土燭台
5. 中名I・V遺跡出土垂字形花瓶
6. 垂字形花瓶図
7. 米田大覚遺跡出土花瓶

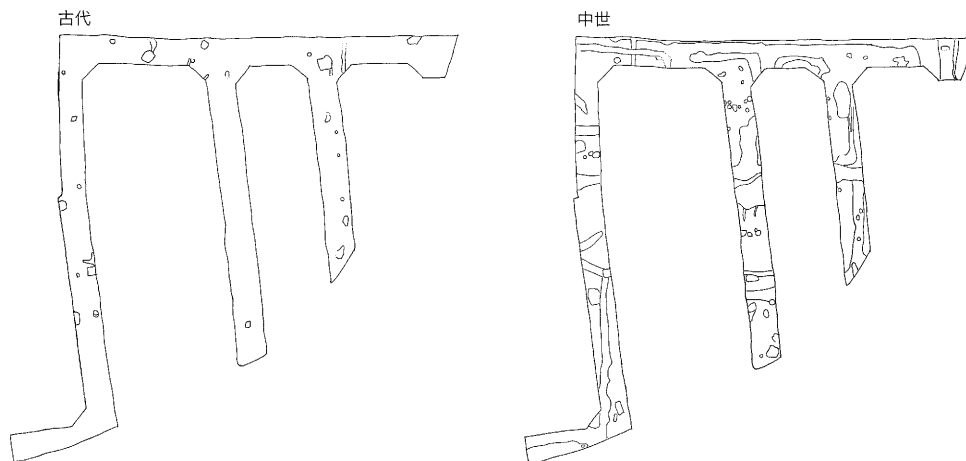
つかっている。

今回の米田大覚遺跡の調査では、この花瓶以外には仏教関連の遺物は板碑と五輪塔の一部が見つ  
かっている。ただ、花瓶と板碑・五輪塔の出土遺構は離れており、関連性があると断言することは  
できない。花瓶の胴部と脚部の仕切り板には、仏の形を線彫りした銅板を転用している。転用され  
る前は銅板自体が信仰の対象として用いられていた可能性も高いので、それを転用している花  
瓶は多少特別なものとして扱われたかもしれない。花瓶はSK066の中心部から出土している。こ  
の土坑からの出土遺物は花瓶のみである。二つに割れたからと破棄した可能性もあるが、花瓶と同  
時に破棄されたものが何も見つかっていないことから、何らかの作為があってこの土坑の中央に埋  
められたのではないかと考えたい。今回の調査では中世後期の屋敷地と考えられる遺構はみつ  
かっているものの、いまのところ中世寺院の存在を示す積極的な遺構には乏しい状況である。前述の中  
名Ⅰ・Ⅴ遺跡や任海宮田遺跡でも寺院跡は検出されていない。このことからやや乱暴ながら寺や墓  
など特別な場だけでなく、屋敷地を有するような階層の人々でも、このような銅製花瓶を日常的  
に使用し常に仏教と接する場があったことを想定しておきたい。(資料1・2・5・6・7・8・10・  
11・12・14) (田邊)

### (3) 遺跡について

遺構の項でも触れたように、今回の調査では平成7・8年度調査地で検出された官衙的建物群の  
中心からはややはずれた位置にあるものと推定される。ただし郡庁建物群は正庁や正倉といった中  
核的な建物以外にも御厨や郡司館その他多数の関連施設を擁しており、これらの建物群は広い地域  
に展開する場合も想定される。このことから本調査地での古代遺構の密度が低いからと言って、調  
査地より南側あるいは北側に古代の建物群がまったく分布しないとは言い切れない。(第20図) こ  
れらの地域での遺構の有無については、今後の調査で徐々に埋めていくしかないのが実情であろう。

中世後期の屋敷地跡については、これらの屋敷地の居住者を推定できる文献史料には乏しい。そ  
のなかでも唯一知られる荘園名は「米田保」である。大山喬平作成『富山県史通史編Ⅱ中世』(資料4)  
において南北朝時代に初見される荘園として本郷氏米田保が挙げられているほか、高森邦夫・伊藤  
克江作成の「越中の荘園地図」(資料3)でも同様の記載がみられる。時期的に見ても本調査地の  
屋敷地跡の時期と整合する面もみられることから、今後「米田保」との絡みで本調査地の屋敷地跡  
をどう評価していくかが大きな問題となろう。(森)



第20図 時期別遺構図

## 引用・参考資料

- 資料1 石田茂作 1976『新版佛教考古学講座 第5巻 仏具』
- 資料2 石田茂作 1977『佛教考古学論攷 五仏具編』思文閣出版
- 資料3 伊藤克江 高森邦男 2001「越中の荘園地図」『ふるさと富山歴史館』富山新聞社
- 資料4 大山喬平 1984「越中荘園の概観」『富山県史 通史編II 中世』
- 資料5 國學院大學研究開発推進機構学術資料館 2008『服部和彦氏寄贈資料図録II』
- 資料6 財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所 2008『任海宮田遺跡発掘調査報告Ⅲ』
- 資料7 財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所 2003『中名I・V遺跡発掘調査報告』
- 資料8 清水乞 1978『仏具辞典』東京堂出版
- 資料9 富山市教育委員会 2006『富山市米田大覚遺跡発掘調査報告書』
- 資料10 森 隆 「富山県の中世土器（資料編）」『紀要第6号』財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所
- 資料11 森 隆 「富山県の中世土器（資料編2）」『紀要第6号』財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所
- 資料12 森 隆 「富山県における古代末・中世の回転台土師器（資料編）」『紀要第9号』財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所
- 資料13 吉岡康暢 1994『中世須恵器の研究』吉川弘文館
- 資料14 山本信夫 1999「中世前期の貿易陶磁器」『原遺跡七郎丸I地区・口寺田遺跡』国東町教育委員会



米田大覚遺跡報告書掲載土器一覧

遺物番号	出土地点	図版番号	種別	器種	時代	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	高台径 (cm)	胎土	焼成	色調	残存率	備考
001	SE001	12	須恵器	蓋	古代	-	-	-	-	白色粒やや多く含	良	明灰色	1/10	煤付着
002	SE001	12	須恵器	蓋	古代	12.6	-	-	-	砂粒わずかに含	良	内・暗茶褐色 外・明黄白色	1/10	煤付着
003	SE001	12	須恵器	蓋	古代	13.0	-	-	-	白色粒、黒色粒少量含	良	内・暗灰色 外・暗青灰色	口縁部破片	
004	SE001	12	須恵器	杯B	古代	14.0	3.3	-	10.0	白色粒わずかに含	良	暗青灰色	1/4	内面うすく灰が被る
005	SE001	12	須恵器	杯B	古代	-	-	-	10.2	微白色粒少量含	良	明灰色	底部のみ	
006	SE001	12	須恵器	杯B	古代	12.2	5.1	-	8.2	白色粒やや多く含	良	明黄灰色	1/6	
007	SE001	12	須恵器	蓋	古代	-	-	-	-	砂粒少量含	良	明黄灰色	破片	
008	SE001	12	土師器	杯B	古代	-	-	-	6.2	白色粒わずかに含	良	明茶灰色	底部1/6	
009	SE001	12	須恵器	杯B	古代	-	-	-	6.4	微砂含	良	暗灰色	高台3/4～体部下位1/2	
010	SE001	12	須恵器	横瓶	古代	11.8	-	-	-	白色粒やや多く含	良	内・暗青灰色 外・暗青黒色	口縁部1/2	
011	SE001	12	須恵器	壺	古代	-	-	-	11.3	白色粒わずかに含	良	明灰色	高台のみ	
012	SE001	12	須恵器	壺	古代	-	-	-	9.8	白色粒少量含	良	内・明灰色 外・暗灰色	底部1/2	
013	SE001	12	須恵器	壺	古代	8.0	-	-	-	白色粒をわずかに含	良	明灰色	口縁部1/8	
014	SE001	12	土師器	杯A	古代	11.6	-	5.4	-	微砂含	良	黄灰色	2/3	回転糸切り
015	SE001	12	土師器	杯A	古代	12.0	4.1	5.1	-	微細～0.5mm砂粒含	良	黄褐色	2/3	回転糸切り、内面赤彩
016	SE001	12	須恵器	皿	古代	-	-	-	-	微砂含	良	灰色	底部破片	墨書
017	SE001	12	土師器	杯A	古代	-	-	5.2	-	微白色粒・雲母少量含	良	暗橙灰色	底部のみ	
018	SE001	12	土師器	杯A	古代	-	-	6.0	-	雲母わずかに含	良	暗褐色	底部のみ	内面煤付着
019	SE001	12	須恵器	杯A	古代	-	-	7.2	-	白色粒やや多く含	良	暗灰色	底部1/2	回転糸切り
020	SE001	12	土師器	甕	古代	13.4	-	-	-	白色粒わずかに含	良	内・暗褐色 外・暗茶灰色	口縁部1/8	外面煤付着
021	SE001	12	土師器	甕	古代	13.6	-	-	-	白色粒少量含	良	内・暗青灰色 外・明黄白色	口縁部1/7	外面煤付着
022	SE002	12	須恵器	杯A	古代	12.3	3.5	8.0	-	微細～1.0mm砂粒含	普通	灰白色	1/2	
023	SE002	12	須恵器	杯A	古代	13.0	3.7	-	-	微砂少量含	良	淡灰茶色	底部2/3～体部一部	
024	SE002	12	須恵器	杯	古代	13.6	-	-	-	微細～1.0mm砂粒含	不良	淡橙色	口縁部～体部下位1/5	
025	SE002	12	須恵器	杯	古代	16.8	-	-	-	白色粒やや多く含	良	内・暗青灰色 外・暗灰色	口縁部1/7	外面自然釉
026	SE002	12	須恵器	杯B	古代	-	-	-	7.0	微細～1.0mm砂粒含	良	暗灰褐色	高台1/2	
027	SE002	12	須恵器	杯B	古代	-	-	-	8.25	微砂少量含	普通	明茶灰色	高台部付近2/3	
028	SE002	12	須恵器	杯B	古代	11.5	3.6	-	7.2	微細～2.0mm砂粒含	不良	淡灰茶色	1/4	
029	SE002	12	須恵器	杯B	古代	-	-	-	8.4	微細～1.0mm砂粒含	良	暗灰色	高台～体部下位2/3	
030	SE002	12	土師器	杯B	古代	-	-	-	7.0	微砂少量含	良	明赤橙色	底部のみ	
031	SE002	12	土師器	杯B	古代	-	-	-	7.4	雲母やや多く含	良	内・暗茶灰色 外・暗褐色	底部のみ	
032	SE002	12	土師器	杯	古代	11.8	-	-	-	微砂含	良	橙黄色	口縁部～体部1/4	
033	SE002	12	土師器	杯	古代	11.6	-	-	-	5.0mm礫ごく少量含	良	茶褐色	口縁部～体部下位1/5	
034	SE002	12	土師器	杯	古代	12.8	-	-	-	微細～2.0mm砂粒含	良	内・橙色 外・黄橙色	口縁部～体部下位1/5	一部煤付着
035	SE002	12	土師器	杯	古代	14.2	-	-	-	微砂含	良	黒褐色 胎土・淡黄灰色	口縁部～体部下位1/8	
036	SE002	12	土師器	杯A	古代	13.4	4.1	5.0	-	砂粒やや多く含	良	明橙色	1/3	回転糸切り
037	SE002	12	土師器	杯A	古代	14.4	4.2	6.4	-	微細～2.0mm砂粒含	良	茶黄色	1/7	回転糸切り
038	SE002	12	土師器	杯A	古代	15.8	4.7	7.0	-	砂粒わずかに含	良	明橙白色	1/6	回転糸切り
039	SE002	12	土師器	杯A	古代	-	-	5.4	-	微砂少量含	不良	淡黄灰色～橙色	底部一部欠損～体部一部	
040	SE002	12	土師器	杯A	古代	-	-	5.6	-	微砂少量含	良	明橙色	底部1/3	回転糸切り
041	SE002	12	黒色土器	杯	古代	-	-	5.4	-	微砂少量、3.0mm礫含	不良	淡橙色	底部～体部下位1/4	回転糸切り
042	SE002	12	土師器	杯A	古代	-	-	5.5	-	微砂含	不良	明茶褐色	底部～体部中位1/2	回転糸切り
043	SE002	12	土師器	杯A	古代	-	-	4.8	-	微細～2.0mm砂粒含	不良	淡黄褐色	底部1/2～体部一部	回転糸切り
044	SE002	12	須恵器	杯A	古代	-	-	4.5	-	微砂含	良	にぶい黄橙色	底部1/2	回転糸切り
045	SE002	12	土師器	杯A	古代	-	-	5.2	-	微砂含	良	にぶい黄褐色	底部1/2	回転糸切り
046	SE002	12	土製品	土錘	古代	-	-	-	-	微細～1.0mm砂粒含	良	にぶい黄褐色	1/3	
047	SE002	12	土製品	土錘	古代	-	-	-	-	雲母わずかに含	良	明橙色	完形	72.0g
048	SE002	12	土製品	土錘	古代	-	-	-	-	微細～1.0mm砂粒含	良	にぶい黄灰色	1/4	
049	SE002	12	土師器	甕	古代	22.0	-	-	-	0.5～1.0mm砂粒含	良	にぶい黄褐色	口縁部付近1/8	
050	SX001	13	須恵器	蓋	古代	13.8	-	-	-	微細～1.5mm砂粒含	不良	淡灰茶色	口縁部～天井部1/6	
051	SX001	13	須恵器	蓋	古代	-	-	-	-	微細～1.5mm砂粒含	良	淡灰色	破片	
052	SX001	13	須恵器	蓋	古代	-	-	-	-	微砂少量含	良	灰色	破片	
053	SX001	13	須恵器	蓋	古代	19.8	-	-	-	微砂少量含	普通	淡黄灰色	1/4	
054	SX001	13	須恵器	蓋	古代	-	-	-	-	微砂少量含	良	暗灰色	つまみ2/3～天井部一部	
055	SX001	13	須恵器	杯	古代	-	-	7.3	-	微砂含	良	灰色	底部1/4	
056	SX001	13	須恵器	杯	古代	-	-	7.9	-	1.0mm黒色粒含	良	灰色	底部1/4	
057	SX001	13	須恵器	杯	古代	-	-	8.0	-	微砂少量含	不良	淡灰茶色	底部付近1/4	
058	SX001	13	土師器	甕	古代	-	-	-	-	0.5～1.0mm砂粒含	良	黄褐色	口縁部破片	
059	SX001	13	土師器	杯	古代	14.4	-	-	-	微砂含	不良	淡黄灰色	口縁部1/8	内外面赤彩
060	SX001	13	須恵器	不明	古代	-	-	-	-	微砂～2.0mm砂粒含	不良	暗灰茶色	破片	漆接合あり
061	SX001	13	弥生土器	高杯	弥生	-	-	-	-	0.5～1.0mm砂粒含	不良	内・淡黄褐色 外・橙色	口縁部破片	
062	SX001	13	土師器	甕	古代	-	-	-	-	0.5～1.0mm砂粒含	不良	淡黄褐色	口縁部破片	
063	SX001	13	瀬戸美濃	碗	中世	-	-	-	-	密	良	素地・黄褐色 釉・黒褐色	体部下位1/4	天目
064	SX001	13	瀬戸美濃	碗	中世	-	-	-	-	微細～1.0mm砂粒含	良	素地・白黄色 釉・黒褐色	口縁部破片	天目
065	SX001	13	越前	搦鉢	中世	29.0	-	-	-	微砂少量含	良	内・灰黄色 外・黄褐色	口縁部～体部上位1/8	
066	SX001	13	土師器	皿	中世	6.8	1.5	-	-	0.5～1.0mm赤色粒若干含	良	黄褐色	1/3	B1類
067	SX001	13	土師器	皿	中世	9.0	1.6	-	-	微砂少量含	普通	淡黄色	1/3	B1類
068	SX001	13	土師器	皿	中世	10.0	-	-	-	微細～0.5mm砂粒含	良	灰黄色	破片	C5類
069	SX001	13	土師器	杯	中世	9.2	-	-	-	微砂若干含	不良	淡黄色	破片	Z4類
070	SX001	13	土師器	皿	中世	10.0	-	-	-	微砂少量含	普通	灰黄色	破片	Z4類
071	SX001	13	土師器	皿	中世	9.4	1.8	-	-	微細～1.0mm砂粒少量含	普通	浅黄褐色	2/3	Z4類
072	SX001	13	瀬戸美濃	皿	中世	-	-	7.1	-	微砂含	良	素地・淡茶灰色 釉・淡灰緑色	1/5	灰釉
073	SX001	13	瀬戸美濃	皿	中世	-	-	6.0	-	微砂含	良	素地・浅黄灰色 釉・黄緑色	高台1/4	灰釉
074	SX001	13	青磁	碗	中世	-	-	-	4.9	微砂少量含	良	素地・灰白色 釉・灰緑色	高台1/2	二次加工品

遺物番号	出土地点	図版番号	種別	器種	時代	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	高台径(cm)	胎土	焼成	色調	残存率	備考
075	SX001	13	土師器	甕	古代	-	-	-	-	0.5~1.0mm砂粒含	不良	明黄褐色	口縁部破片	
076	SX001	13	珠洲	甕	中世	-	-	-	-	0.2~1.0mm砂粒含	良	暗灰色	体部上位1/8	
077	SX001	13	須恵器	壺	古代	-	-	-	-	微砂多く含	不良	暗灰色	口縁部~肩部1/6	
078	SX001	13	珠洲	播鉢	中世	-	-	11.9	-	微細~0.5mm砂粒含	普通	青灰色	底部付近1/4	
079	SX001	13	珠洲	播鉢	中世	-	-	11.0	-	微細~1.0mm砂粒含	良	青灰色	底部付近1/4	
080	SX001	13	珠洲	甕	中世	-	-	-	-	赤褐色粒少量含	良	暗灰色	破片	
081	SX001	13	珠洲	播鉢	中世	-	-	-	-	微細~1.0mm砂粒含	良	暗青灰色	破片	
082	SD013	13	珠洲	陶製加工 円盤	中世	-	-	-	-	微砂含	良	灰色	完形	18.8g
083	SK001	13	土師器	杯	古代	-	-	4.95	-	0.5~1.0mm砂粒多く含	不良	淡黄灰色	底部付近3/4	回転糸切り
084	SK002	13	土師器	皿	中世	7.2	1.8	-	-	微砂少量含	普通	浅黄褐色	1/2	B1類
085	SK002	13	土師器	皿	中世	9.5	2.2	-	-	微砂少量、5mm礫含	良	褐色	口縁部一部欠損	B1類
086	SK003	13	須恵器	杯B	古代	-	-	-	6.2	0.5~1.0mm砂粒含	不良	暗灰色	高台のみ1/3	
087	SK003	13	土師器	杯A	古代	-	-	5.0	-	0.5~1.0mm砂粒多く含	不良	褐色	底部付近完形	回転糸切り(摩耗)
088	SK003	13	施釉陶器	皿	中世	8.4	-	-	-	微砂含	良	素地・灰白色釉・ 淡灰白色	口縁部1/5	灰釉
089	SK004	13	須恵器	杯B	古代	-	-	-	6.1	0.5~1.0mm砂粒多く含	不良	褐色	高台付近1/4	
090	SK004	13	土師器	杯A	古代	-	-	5.4	-	微砂含	普通	淡灰色	底部のみ1/2	回転糸切り
091	SK004	13	土師器	甕	古代	-	-	6.8	-	1.0mm以下砂粒含	良	淡黄褐色	底部のみ	
092	SK004	13	土師器	杯	古代	13.8	-	-	-	0.5~2.0mm砂粒含	良	にぶい褐色	口縁部1/10	
093	SK004	13	土師器	甕	古代	-	-	5.2	-	微砂含	不良	淡褐色	底部1/2	外面煤付着
094	SK004	13	土師器	甕	古代	-	-	5.6	-	0.5~1.0mm砂粒含	良	淡黄灰色	底部1/4	外面煤付着
095	SK004	13	須恵器	壺	古代	18.9	-	-	-	微砂少量含	良	灰茶色	口縁部1/10	内面自然釉
096	SK004	13	土師器	甕	古代	-	-	-	-	微砂少量含	良	黄灰色	破片	
097	SK004	13	土師器	甕	古代	-	-	-	-	0.5~2.0mm砂粒含	良	淡橙白色	口縁部破片	
098	SK004	13	土師器	甕	古代	14.2	-	-	-	微砂少量含	良	淡黄灰色	口縁部付近1/8	
099	SK004	13	土師器	甕	古代	23.0	-	-	-	微砂含、白雲母少量含	良	明黄褐色	口縁部1/6	
100	SK004	13	土製品	土錘	古代	-	-	-	-	微細~2.0mm砂粒含	良	黄灰色	一部欠損	48g
101	SK004	13	青磁	碗	中世	14.4	-	-	-	微砂含	良	素地・淡茶灰色 釉・緑灰色	口縁部付近1/10	
102	SK004	13	珠洲	播鉢	中世	30.0	-	-	-	微砂少量含	良	暗青灰色	口縁部付近1/8	
103	SK005	13	須恵器	杯B	古代	-	-	-	8.8	微砂含	良	暗灰色	高台1/8~体部中位1/6	外面降灰自然釉
104	SD015	13	須恵器	蓋	古代	12.2	2.8	-	-	微砂~2.0mm砂粒含	良	灰色	1/7、つまみ完形	
105	SD015	13	須恵器	杯B	古代	-	-	-	7.2	0.5~1.0mm砂粒含	良	灰色	高台部1/4	
106	SD015	13	珠洲	播鉢	中世	-	-	12.2	-	0.2~1.0mm砂粒少量含	良	灰色	底部~体部下位1/2	
107	SD015	13	土師器	杯A	古代	-	-	4.7	-	微砂含	不良	淡灰褐色	底部2/3	回転糸切り
108	SD015	13	土師器	杯A	中世	-	-	4.2	-	微細~0.5mm砂粒含	普通	浅黄褐色	破片	
109	SK006	13	土師器	杯A	古代	7.55	2.85	10.0	-	微細~1.5mm砂粒含	良	淡灰白色~灰色	1/4	
110	SK006	13	須恵器	杯B	古代	11.6	4.25	-	6.25	微細~1.0mm砂粒含	良	暗灰茶色	1/3	
111	SK006	13	須恵器	壺	古代	17.4	-	-	-	0.5~1.0mm黒色粒多く含	良	暗灰色	口縁部1/10	
112	SK006	13	土師器	皿	中世	8.0	-	-	-	微砂少量含	普通	浅黄褐色	1/6	口縁部煤付着・B1類
113	SK006	13	土師器	皿	中世	9.0	-	-	-	微砂少量含	普通	浅黄褐色	3/4	口縁部煤付着・B1類
114	SK006	13	土師器	皿	中世	9.0	-	-	-	微砂少量含	良	黄褐色	1/6	B1類
115	SK006	13	土師器	皿	中世	9.8	2.0	-	-	微砂少量含	良	黄褐色	1/4	口縁部煤付着・B1類
116	SK007	13	須恵器	甕	古代	-	-	-	-	砂粒やや多く含	良	内・明灰色 外・暗灰色	口縁部破片	
117	SK007	13	須恵器	杯A	古代	12.5	3.6	8.0	-	砂粒やや多く含	良	明灰色	1/4	
118	SK007	13	須恵器	杯B	古代	11.4	3.2	-	7.6	微白色粒少量含	良	明灰色	1/3	
119	SK008	14	須恵器	蓋	古代	10.4	-	-	-	白色砂粒少量含	良	明青灰色	1/6	
120	SK008	14	土師器	皿	中世	7.2	1.8	4.4	-	微砂含	良	にぶい黄褐色	完形	回転糸切り・K類
121	SK009	14	土師器	杯B	古代	-	-	-	6.2	微砂含	良	明褐色	底部のみ	内面赤彩
122	SK010	14	須恵器	杯B	古代	-	-	-	7.4	0.5~1.0mm砂粒含	良	淡灰黄色	高台部1/3	
123	SK011	14	須恵器	杯A	古代	13.6	-	-	-	微砂少量含	不良	灰黄色	口縁部1/2欠損	重ね焼き痕あり
124	SK012	14	須恵器	蓋	古代	15.4	-	-	-	微細~1.0mm砂粒含	良	灰黄色	口縁部~天井部1/8	
125	SK012	14	須恵器	杯B	古代	-	-	-	7.4	1mm程白色砂粒やや多く含	良	明灰白色	底部のみ	
126	SK013	14	土師器	皿	中世	8.8	2.3	-	-	微砂少量含	良	黄褐色	1/2	B1類
127	SK014	14	土師器	甕	古代	-	-	-	-	0.5~1.0mm砂粒多く含	不良	明黄褐色	破片	
128	SK014	14	須恵器	杯B	古代	-	-	-	7.6	微砂多く含	不良	淡黄白色	高台付近1/4	
129	SK015	14	土師器	皿	中世	8.0	-	-	-	微砂少量含	普通	浅黄褐色	1/8	B1類
130	SK016	14	土師器	皿	中世	8.8	1.5	-	-	微砂少量含	良	明褐色	1/3	内面煤付着・B1類
131	SK016	14	土師器	皿	中世	7.5	-	-	-	赤褐色粒少量含	良	浅黄褐色	1/4	B1類
132	SK016	14	土師器	皿	中世	8.0	-	-	-	微砂少量含	普通	浅黄褐色	1/6	B1類
133	SK016	14	珠洲	播鉢	中世	-	-	16.0	-	3.0mmから15.0mm礫含	良	灰色	底部~体部下位1/2弱	
134	SK017	14	土師器	皿	中世	7.4	1.8	-	-	微砂含	普通	灰黄色	完形	煤付着・B1類
135	SK018	14	土師器	皿	中世	10.4	2.2	-	-	0.5~1.0mm砂粒含	1/4	浅黄褐色		Z5類
136	SK019	14	須恵器	蓋	古代	15.6	1.8	-	-	1.0~3.0mm砂粒少量含	良	灰色	1/6	
137	SK020	14	土師器	杯A	古代	-	-	5.2	-	微砂含	良	浅黄色	底部1/2弱	回転糸切り
138	SK020	14	土師器	皿	中世	9.6	1.8	-	-	微砂少量含	良	浅黄褐色	1/3	B1類
139	SK021	14	土師器	皿	中世	7.6	1.7	-	-	赤褐色粒少量含	良	褐色	1/6	B1類
140	SK022	14	土師器	皿	中世	9.5	2.2	-	-	赤褐色粒少量含	不良	褐色	口縁部一部欠損	口縁部煤付着・B1類
141	SK023	14	土師器	甕	古代	14.6	-	-	-	微細~1.0mm砂粒多く含	良	黄褐色	口縁部1/8	
142	SK024	14	珠洲	播鉢	中世	32.0	-	-	-	1.0~3.0mm白色粒含	普通	灰黄色	口縁部~体部上位1/8	
143	SK025	14	土師器	杯A	中世	-	-	4.0	-	1.0~5.0mm赤褐色粒少量含	普通	灰色	底部~体部下位1/2	回転糸切り
144	SK025	14	須恵器	杯B	古代	-	-	-	6.7	微砂少量含	良	灰色	高台付近1/2	
145	SK026	14	土師器	皿	中世	10.0	1.5	-	-	白色粒少量含	良	浅黄褐色	1/4	Z4類
146	SK027	14	土師器	皿	中世	8.0	2.0	-	-	精良	良	黄灰色	1/3	口縁部煤付着・B1類
147	SK027	14	土師器	皿	中世	7.6	-	-	-	精良	良	明赤褐色	1/6	Z8類
148	SK027	14	土師器	皿	中世	8.6	2.5	-	-	精良	良	乳白色	2/3	口縁部煤付着・B1類
149	SK027	14	陶器	碗	中世	12.2	-	-	-	精良	良	素地・黄灰色 釉・暗茶褐色	1/3	
150	SK028	14	土師器	皿	中世	8.0	-	-	-	精良	普通	明黄褐色	1/6	C6類
151	SK029	14	土師器	皿	中世	9.7	2.2	-	-	精良	良	明灰黄色	完形	口縁部煤付着・C5類
152	SK030	14	土師器	皿	中世	8.0	-	-	-	精良	普通	黄灰褐色	1/8	
153	SK030	14	土師器	皿	中世	9.6	-	-	-	精良	不良	灰黄褐色	1/6	
154	SK031	14	土製品	土錘	古代	-	-	-	-	微砂若干含	普通	明黄褐色	2/5	
155	SK032	14	土師器	皿	中世	15.2	-	-	-	精良	普通	浅黄灰色	1/8	Z4類
156	SK033	14	土製品	土錘	古代	-	-	-	-	微砂含	普通	明黄灰色	完形	116.3g
157	SK034	14	須恵器	蓋	古代	14.2	-	-	-	微砂少量含	良	灰褐色	1/6	

遺物番号	出土地点	図版番号	種別	器種	時代	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	高台径 (cm)	胎土	焼成	色調	残存率	備考
158	SK035	14	龍泉窯系青磁	碗	中世	-	-	-	-	精良	良	素地・淡茶灰色 釉・深緑色	口縁部破片	II b類
159	SK036	14	土師器	皿	中世	7.6	-	-	-	精良	良	明赤褐色	1/4	B1類
160	SK036	14	土師器	皿	中世	9.2	-	-	-	精良	良	乳白色	1/8	B1類
161	SK036	14	土師器	皿	中世	8.8	-	-	-	精良	普通	明赤褐色	1/8	口縁部煤付着・B1類
162	SK037	14	土師器	皿	中世	8.6	-	-	-	精良	良	明黄赤色	1/3	Z4類
163	SK037	14	土師器	杯A	古代	-	-	4.7	-	精良	普通	明赤褐色	1/4	回転系切り
164	SK037	14	土師器	甕	古代	18.0	-	-	-	微砂若干含	普通	明黄赤色	1/8	
165	SK038	14	土師器	皿	中世	9.8	-	-	-	精良	良	乳白色	1/8	B1類
166	SK038	14	土師器	皿	中世	10.2	-	-	-	精良	良	明黄褐色	1/6	内面煤付着・Z4類
167	SK038	14	土師器	皿	中世	9.6	-	-	-	精良	良	黄灰色	1/6	Z8類
168	SK038	14	土師器	皿	中世	11.6	-	-	-	精良	良	明黄赤色	1/4	
169	SK039	14	土師器	皿	中世	9.0	2.0	-	-	精良	普通	明黄褐色	完形	内面煤付着・B1類
170	SK039	14	土師器	皿	中世	9.0	-	-	-	精良	良	乳白色	1/3	B1類
171	SK040	14	須恵器	杯B	古代	-	-	-	7.7	微白色粒含	良	暗灰褐色	1/3	
172	SK040	14	土師器	皿	中世	7.6	2.1	-	-	精良	良	明黄褐色	1/6	B1類
173	SK041	14	珠洲	搦鉢	中世	-	-	9.9	-	0.5~1.0mm砂粒含	良	灰褐色	1/6	
174	SK042	14	須恵器	杯B	古代	-	-	8.8	-	微白色粒若干含	良	灰褐色	1/6	
175	SK042	14	土製品	不明	古代	-	-	-	-	精良	良	明黄褐色	-	
176	SK043	14	土師器	皿	中世	7.2	-	-	-	精良	良	明黄褐色	1/4	B1類
177	SK044	14	土師器	皿	中世	13.2	-	-	-	精良	普通	明黄褐色	1/8	Z4類
178	SK044	14	土師器	皿	中世	8.4	2.9	-	-	精良	良	黄灰褐色	1/6	C5類
179	SK044	14	土師器	皿	中世	8.2	-	-	-	精良	良	黄灰色	1/3	口縁部煤付着・C5類
180	SK045	14	須恵器	壺	古代	-	-	-	10.9	白色粒若干含	良	灰褐色	1/6	
181	SK046	14	須恵器	蓋	古代	11.6	-	-	-	0.5mm以下白色粒若干含	普通	明灰褐色	1/3	内面墨書
182	SK047	14	土製品	土錘	古代	-	-	-	-	微砂粒若干含	普通	明黄褐色	完形	107.6g
183	SK047	15	珠洲	搦鉢	中世	-	-	-	-	1.0~5.0mm砂粒含	良	灰褐色	口縁部1/8以下	
184	SK047	15	珠洲	甕	中世	-	-	14.4	-	1.0~5.0mm砂粒含	良	淡灰褐色	1/6	
185	SK048	15	土師器	皿	中世	7.6	1.7	-	-	精良	良	黄褐色	1/3	B1類
186	SK049	15	土師器	皿	中世	7.2	1.7	-	-	精良	普通	明赤褐色	完形	内面煤付着・B1類
187	SK049	15	土師器	皿	中世	7.4	-	-	-	精良	良	乳白色	1/6	C5類
188	SK049	15	土師器	皿	中世	7.6	1.7	-	-	精良	良	黄赤褐色	完形	C5類
189	SK049	15	土師器	皿	中世	7.8	-	-	-	精良	良	黄褐色	1/3	C5類
190	SK050	15	須恵器	杯A	古代	12.0	-	-	-	0.5~1.0mm白色粒若干含	良	明灰色	1/4	
191	SK050	15	珠洲	搦鉢	中世	-	-	14.5	-	0.5~2.0mm白色粒含	良	灰褐色	1/6	
192	SK050	15	青磁	碗	中世	-	-	-	5.8	微砂少量含	不良	素地・灰白色 釉・明緑灰色	高台部1/3	見込み文様
193	SK051	15	須恵器	杯B	古代	-	-	-	7.0	0.5~1.0mm白色粒若干含	良	灰褐色	1/3	
194	SK052	15	須恵器	杯A	古代	10.2	3.6	-	-	微白色粒若干含	良	灰褐色	1/4	
195	SK052	15	珠洲	鉢	中世	-	-	9.2	-	1.0mm砂粒若干含	良	灰褐色	1/4	
196	SK053	15	須恵器	蓋	古代	12.2	-	-	-	0.5~1.0mm白色粒含	良	黄灰色	1/6	
197	SK053	15	須恵器	壺	古代	-	-	-	-	精良	良	明緑灰色	口縁部破片	
198	SK053	15	龍泉窯系青磁	碗	中世	-	-	-	-	微砂少量含	良	素地・灰茶色 釉・緑灰色	体部下位1/5	
199	SK054	15	土師器	杯A	中世	15.2	-	-	-	精良	良	乳白色	1/6	Z4類
200	SK055	15	珠洲	搦鉢	中世	-	-	-	-	0.5~1.0mm白色粒含	良	灰褐色	1/8	
201	SK056	15	土師器	皿	中世	7.6	-	-	-	精良	良	乳白色	1/4	B1類
202	SK056	15	土師器	皿	中世	11.6	-	-	-	精良	良	明黄褐色	1/8	Z8類
203	SK057	15	珠洲	搦鉢	中世	-	-	-	-	精良	普通	明灰褐色	1/8	
204	SK058	15	土師器	皿	中世	6.4	-	-	-	精良	良	明赤褐色	1/4	C3類
205	SK058	15	土師器	皿	中世	8.0	1.0	-	-	精良	良	乳白色	1/8	B1類
206	SK059	15	土師器	皿	中世	8.0	-	-	-	精良	普通	明赤褐色	1/6	C3類
207	SK060	15	土師器	皿	中世	8.0	-	-	-	精良	良	明黄赤色	1/6	C6類
208	SK061	15	土製品	土錘	古代	-	-	-	-	精良	良	明黄赤色	完形	93.5g
209	SK061	15	土師器	皿	中世	8.0	1.7	-	-	精良	良	乳白色	1/2	口縁部煤付着・B1類
210	SK062	15	土師器	皿	中世	8.0	1.7	-	-	精良	良	乳白色	完形	口縁部煤付着・B3類
211	SK062	15	土師器	皿	古代	7.6	-	-	-	精良	良	明赤褐色	1/6	B1類
212	SK062	15	土師器	皿	中世	7.4	1.7	-	-	精良	良	明赤褐色	3/4	回転系切り・口縁部煤付着・S8類
213	SK062	15	土師器	皿	古代	16.0	-	-	-	精良	良	明赤褐色	1/6	煤付着・S9類
214	SK063	15	土師器	皿	中世	7.2	-	-	-	精良	普通	黄褐色	1/4	口縁部煤付着・B1類
215	SP001	15	土師器	皿	中世	10.6	2.1	-	-	微~2.0mm砂粒多く含	不良	浅黄褐色	1/4	Z9類
216	SP002	15	土師器	甕	古代	-	-	-	-	微砂多く含	良	淡黄灰色	破片	
217	SP003	15	須恵器	甕	古代	22.0	-	-	-	精良・密	良	内・明灰色 外・暗灰色	頸部1/8	
218	SP004	15	土師器	皿	中世	9.9	2.4	-	-	微砂少量含	普通	黄褐色	1/6	B1類
219	SD001	15	須恵器	蓋	古代	-	-	-	-	白色粒わずかに含	良	暗灰色	天井部1/4	
220	SD001	15	須恵器	蓋	古代	13.4	-	-	-	0.5~1.5mm砂粒含	良	明灰褐色	口縁部1/5	
221	SD001	15	須恵器	杯B	古代	-	-	8.8	-	白色粒少量含	良	明灰色	高台から体部1/7	
222	SD001	15	須恵器	杯	古代	16.6	-	-	-	白色粒わずかに含	良	暗灰色	口縁部~体部1/8	
223	SD001	15	須恵器	取っ手	古代	-	-	-	-	微細~2.0mm砂粒含	良	灰褐色	取っ手のみ	
224	SD001	15	須恵器	杯B	古代	-	-	6.2	-	0.5~2.0mm白色粒含	良	灰褐色	高台部1/4	
225	SD001	15	須恵器	杯B	古代	-	-	6.2	-	密、白色粒わずかに含	良	暗青灰色	底部1/6	
226	SD001	15	須恵器	杯B	古代	-	-	6.1	-	微砂含	良	灰褐色	高台部1/4	
227	SD001	15	土師器	杯A	古代	-	-	4.9	-	微砂、赤色粒少量含	不良	内・明橙白色 外・明橙色	底部のみ	
228	SD001	15	土師器	杯A	古代	-	-	6.2	-	雲母・赤褐色粒含	良	内・明橙白色 外・明橙色	底部1/6	
229	SD001	15	土師器	杯A	古代	-	-	5.6	-	0.5~2.0mm白色粒多く含	不良	茶褐色	底部付近のみ	
230	SD001	15	珠洲	搦鉢	中世	-	-	-	-	0.5~5.0mm砂粒少量含	普通	青灰色	口縁部破片	
231	SD001	15	珠洲	鉢	中世	24.0	-	-	-	微白・黒色粒多く含	良	灰色	口縁部~体部上位1/8	
232	SD001	15	唐津	鉢	中世	32.0	-	-	-	微細~0.5mm砂粒少量含	良	暗赤褐色	口縁部1/12	鉄粒
233	SD001	15	珠洲	搦鉢	中世	32.0	-	-	-	微細~1.0mm砂粒含	良	灰色	口縁部~体部上位1/8	
234	SD001	15	珠洲	搦鉢	中世	31.8	-	-	-	0.2~3.0mm白色粒含	良	暗青灰色	1/8	
235	SD001	16	土師器	皿	中世	7.5	1.1	-	-	精良	良	橙色	1/2	B1類
236	SD001	16	土師器	皿	中世	8.0	1.5	-	-	微砂若干含	不良	黄褐色	1/6	B1類
237	SD001	16	土師器	皿	中世	8.4	1.7	-	-	微砂少量含	良	黄褐色	完形	口縁部煤付着・B1類
238	SD001	16	土師器	皿	中世	10.2	2.5	-	-	微砂若干含	普通	浅黄褐色	1/4	口縁部煤付着・B1類
239	SD001	16	土師器	杯A	古代	9.2	2.4	5.6	-	1.0mm砂粒若干含	不良	明黄灰色	1/6	S8類

遺物番号	出土地点	図版番号	種別	器種	時代	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	高台径 (cm)	胎土	焼成	色調	残存率	備考
240	SD001	16	龍泉窯系青磁	碗	中世	-	-	-	6.4	精良	良	青緑色	1/8	
241	SD001	16	越中瀬戸	皿	中世	-	-	-	5.1	1.0mm砂粒少量含	良	素地・淡橙色釉・浅黄～茶褐色	高台付近1/2	底面黒書・灰釉
242	SD002	16	土師器	皿	中世	7.5	1.2	3.5	-	微砂少量含	普通	橙色 口縁部・褐灰色	1/8	Z8類
243	SD002	16	珠洲	播鉢	中世	-	-	-	-	微細～1.0mm砂粒含	良	灰褐色	体部下位破片	
244	SD002	16	珠洲	播鉢	中世	-	-	-	-	微砂含	良	青灰色	口縁部破片	煤付着
245	SD003	16	須恵器	蓋	古代	12.2	-	-	-	微砂少量含	良	暗灰色	1/7	
246	SD003	16	土師器	皿	中世	9.8	-	-	-	微砂少量含	良	淡茶灰色	1/4	煤付着・B1類
247	SD003	16	土師器	杯	中世	10.0	-	-	-	微細～1.0mm砂粒含	不良	浅黄褐色	破片	B1類
248	SD003	16	須恵器	杯	古代	11.6	-	-	-	微砂少量含	不良	明灰黄色	1/8	
249	SD003	16	須恵器	壺	古代	-	-	12.0	-	1.0mm程の白色粒多く含	良	内・明灰色 外・暗灰色	体部下位1/5	
250	SD003	16	土師器	杯A	中世	14.4	-	-	-	微砂含	良	灰黄色	1/4	Z4類
251	SD003	16	土製品	土錘	古代	-	-	-	-	微砂含	良	淡黄灰色	完形	105.8g
252	SD003	16	青磁	皿	中世	9.0	-	-	-	微砂含	良	素地・茶灰色 釉・暗緑灰色	口縁部付近1/12	
253	SD003	16	青磁	瓶	中世	-	-	4.5	-	微砂含	良	素地・淡灰茶色 釉・緑灰色	底部完形～体部下位	
254	SD003	16	越前	播鉢	中世	-	-	-	-	1.0mm砂粒多く含	良	明白橙色	口縁部破片	
255	SD003	16	越前	播鉢	中世	30.0	-	-	-	微細～0.5mm白色粒多く含	良	外・褐色 内・褐灰色	口縁部1/10	
256	SD004	16	土師器	杯A	中世	-	-	6.4	-	白色砂粒・雲母少量含	良	明黄灰色	底部1/5	回転糸切り
257	SD004	16	須恵器	杯B	古代	11.4	4.2	-	6.5	白色粒多く含	良	明黄灰色	1/3	
258	SD005	16	土師器	皿	中世	7.4	1.2	-	-	微砂若干含	不良	外・灰黄色 内・淡赤褐色	1/6	B1類
259	SD005	16	土師器	皿	中世	8.2	1.6	-	-	微砂少量含	普通	淡赤褐色	1/6	B1類
260	SD005	16	土師器	皿	中世	13.8	2.1	6.7	-	微砂若干含	普通	淡橙色	1/8	Z4類
261	SD005	16	青磁	碗	中世	14.8	-	-	-	微砂含	良	素地・灰白色 釉・緑灰色	1/6	
262	SD005	16	龍泉窯系青磁	碗	中世	-	-	-	5.6	微砂含	良	素地・赤褐色 釉・暗緑色	体部下位1/3	見込み文様・IIb類
263	SD005	16	珠洲	甕	中世	-	-	-	-	微砂含	良	暗灰色	口縁部破片	
264	SD006	16	土師器	皿	中世	13.8	2.5	9.4	-	微細～0.5mm砂粒少量含	良	にぶい黄褐色	1/3	内面煤付着・Z4類
265	SD006	16	越前	播鉢	中世	-	-	15.0	-	0.2～0.5mm砂粒含	不良	明茶褐色	底部付近1/4	
266	SD007	16	土師器	皿	中世	13.6	2.5	9.1	-	微細～0.5mm赤色粒少量含	良	にぶい黄褐色	1/3	内面煤付着・Z4類
267	SD007	16	須恵器	蓋	古代	11.6	-	-	-	0.5～1.0mm砂粒含	不良	灰黄色	口縁部付近1/4	内面自然釉
268	SD007	16	須恵器	蓋	古代	10.6	-	-	-	0.5～1.0mm砂粒含	良	灰黄色	1/5	内面自然釉
269	SD007	16	土師器	皿	中世	7.0	-	-	-	微砂若干含	良	浅黄褐色	1/8	Z3類
270	SD007	16	土師器	皿	中世	7.8	-	-	-	微砂若干含	普通	浅黄褐色	1/3	Z3類
271	SD007	16	土師器	皿	中世	7.6	1.2	4.5	-	微砂少量含	良	黄褐色	1/6	B4類
272	SD007	16	土師器	皿	中世	8.0	-	-	-	微砂若干含	良	淡褐色	1/8	B1類
273	SD007	16	土師器	皿	中世	8.4	-	-	-	微砂少量含	普通	橙色	4/5	内面口縁部煤付着・B1類
274	SD007	16	土師器	皿	中世	9.6	1.75	5.6	-	微砂少量含	不良	淡黄褐色	1/7	B1類
275	SD007	16	土師器	皿	中世	9.0	-	-	-	微砂少量含	普通	淡黄褐色	1/8	煤付着・B1類
276	SD007	16	須恵器	杯A	古代	-	-	7.8	-	密・白色砂粒少量含	良	明青灰色	底部1/2	
277	SD007	16	須恵器	杯A	古代	14.4	3.15	9.0	-	0.5～1.0mm砂粒含	不良	淡黄褐色	1/7	
278	SD007	16	土師器	皿	中世	10.9	1.5	-	-	微赤褐色粒含	普通	黄褐色	1/6	Z3類
279	SD007	16	土師器	皿	中世	11.5	-	-	-	微砂含	普通	浅黄褐色	1/8	内面口縁部煤付着・Z4類
280	SD007	16	土師器	皿	中世	14.2	-	-	-	微砂若干含	良	浅黄褐色	1/6	内面口縁部煤付着。Z4類
281	SD007	16	施釉陶器	皿	中世	13.3	-	-	-	密・砂粒わずかに含	良	素地・淡茶褐色	1/8	鉄釉
282	SD007	16	土師器	皿	中世	10.0	-	-	-	微砂少量含	普通	浅黄褐色	1/4	Z4類
283	SD007	16	土師器	皿	中世	11.8	2.5	7.5	-	微砂若干含	普通	浅黄褐色	1/8	A1類
284	SD007	16	須恵器	杯B	古代	-	-	-	6.2	微細～1.0mm白色粒多く含	良	淡灰黄色	底部1/3	
285	SD007	16	須恵器	杯B	古代	-	-	-	7.0	白色粒少量含	良	明灰白色	底部1/4	
286	SD007	16	須恵器	杯B	古代	11.6	4.0	7.5	-	白色粒わずかに含	良	明青灰色	1/3	
287	SD007	16	越中瀬戸	碗	近世	-	-	-	5.8	精良	良	素地・暗赤灰色 釉・明赤褐色	底部1/4	鉄釉
288	SD007	16	瓦質土器	風炉脚部	中世	-	-	-	-	微砂少量含	良	暗灰色	脚部のみ	
289	SD007	16	土師器	皿	中世	18.0	-	-	-	微砂少量含	不良	浅黄褐色	破片	Z4類
290	SD007	16	珠洲	甕	中世	-	-	10.0	-	微白色粒含	良	暗灰色	底部3/4～体部下位一部残	回転糸切り
291	SD007	16	土師器	高坏脚部	古代	-	-	-	-	0.5～2.0mm砂粒含	良	淡灰黄色	上部のみ	外面赤彩
292	SD007	16	土師器	高坏脚部	古代	-	-	-	-	微細～3.0mm砂粒含	不良	外・明黄灰色 内・灰黄色	上部のみ	
293	SD007	16	須恵器	横瓶	古代	15.0	-	-	-	精良	良	暗灰色	口縁部1/8	外面降灰自然釉
294	SD007	16	土師器	甕	古代	-	-	-	-	雲母・白色粒少量含	良	明白橙色	口縁部破片	
295	SD007	16	龍泉窯系青磁	不明	中世	-	-	-	-	微砂少量含	良	素地・灰白色 釉・明緑灰色	破片	
296	SD007	16	土製品	不明	中世	-	-	-	-	赤褐色粒少量含	良	浅黄褐色	破片	
297	SD007	17	珠洲	甕	中世	-	-	-	-	微白色粒含	良	褐灰色	体部下位1/3	
298	SD007	17	珠洲	播鉢	中世	-	-	16.0	-	0.5～1.5mm小礫含	普通	灰黄色	底部～体部中位1/6	
299	SD007	17	珠洲	甕	中世	56.0	-	-	-	微細～1.0mm砂粒多く含	普通	灰色	口縁部1/10	灰かぶり
300	SD007	17	珠洲	甕	中世	56.0	-	-	-	微砂～0.5mm砂粒含	良	暗灰色	口縁部～体部上位1/10	灰かぶり
301	SD008	17	須恵器	蓋	古代	16.0	-	-	-	微砂～2.0mm砂粒含	良	淡灰黄色	口縁部～天井部1/8	
302	SD008	17	須恵器	杯B	古代	-	-	-	6.4	微砂若干含	良	灰色	高台付近1/4	
303	SD008	17	須恵器	杯B	古代	-	-	-	10.6	微砂含	不良	淡灰黄色	高台付近1/4	
304	SD008	17	須恵器	杯A	古代	10.4	-	-	-	微砂少量含	良	灰白色	1/4	
305	SD008	17	土師器	皿	中世	-	-	3.2	-	0.5mm砂粒若干含	普通	淡褐色	底部付近1/4	回転糸切り
306	SD008	17	土師器	杯B	中世	-	-	-	5.6	微砂少量含	不良	浅黄褐色	高台1/3	外面赤彩
307	SD008	17	土師器	皿	古代	11.6	-	-	-	微細～2.0mm砂粒少量含	良	橙～淡黄灰色	口縁部～体部1/8	
308	SD008	17	土師器	皿	中世	12.0	-	-	-	0.5砂粒少量含	普通	浅黄褐色	1/6	Z4類
309	SD008	17	土師器	皿	中世	8.0	-	-	-	微砂少量含	良	淡黄灰色	口縁部～体部1/10	B1類
310	SD008	17	土師器	皿	中世	8.4	1.7	-	-	微砂若干含	不良	灰黄色	1/3	B1類
311	SD008	17	土師器	皿	中世	13.8	2.9	-	-	0.5mm砂粒含	不良	浅黄褐色	1/4	B3類
312	SD008	17	土師器	皿	中世	15.4	-	-	-	微細～0.5mm砂粒含	不良	浅黄色	1/8	煤付着・Z4類
313	SD009	17	須恵器	蓋	古代	12.6	-	-	-	白色粒わずかに含	良	暗黄黑色	1/7	
314	SD009	17	須恵器	杯A	古代	13.4	3.2	9.2	-	微細～0.5mm砂粒含	良	灰色	1/3	
315	SD009	17	須恵器	甕	古代	-	-	-	-	白色粒少量含	良	内・明灰色 外・暗灰色	口縁部破片	

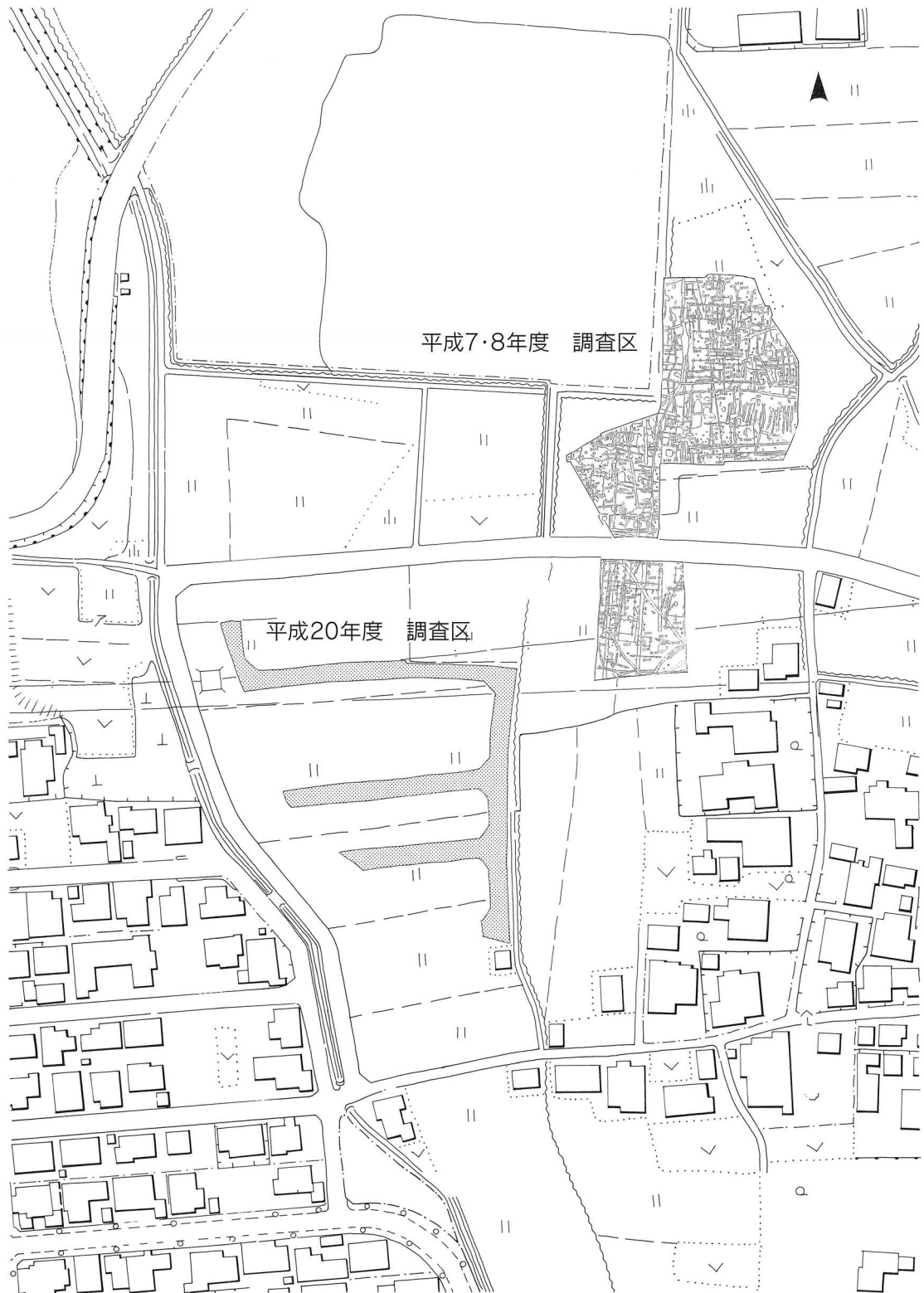
遺物番号	出土地点	図版番号	種別	器種	時代	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	高台径 (cm)	胎土	焼成	色調	残存率	備考
316	SD009	17	土師器	杯A	古代	11.8	4.2	5.0	-	雲母・白色粒少量含	良	内・暗橙色 外・明橙灰色	底部2/3～口縁部1/3	煤付着、回転糸切り
317	SD009	17	土師器	皿	中世	8.0	1.2	4.3	-	微砂若干含	不良	浅黄褐色	1/6	B1類
318	SD009	17	土師器	皿	中世	8.0	1.6	3.2	-	微細～0.5mm砂粒少量含	普通	浅黄褐色	1/4	B1類
319	SD009	17	土師器	皿	中世	9.0	-	-	-	微細～1.0mm赤色粒少量含	良	褐色	1/6	B1類
320	SD009	17	土師器	皿	中世	9.2	2.5	-	-	微細～0.5mm砂粒含	普通	浅黄褐色 端部褐色	1/2	内面口縁部煤付着 B2類
321	SD009	17	白磁	皿	中世	8.0	-	-	-	微砂含	良	素地・白灰色 釉・淡白灰色	口縁部～体部1/10	
322	SD009	17	龍泉窯系 青磁	碗	中世	-	-	-	5.8	微砂少量含	良	素地・灰白色 釉・明緑灰色	高台1/2	
323	SD009	17	土師器	皿	中世	11.8	-	-	-	微細～0.5mm砂粒少量含	良	浅黄褐色	1/6	灰付着・T2類
324	SD009	17	土師器	杯B	中世	-	-	-	7.2	微細～1.0mm赤色粒含	不良	浅黄褐色	底部のみ	回転糸切り
325	SD010	17	須恵器	杯B	古代	-	-	-	7.4	微細～1.0mm砂粒含	良	暗灰色	高台付近1/3	
326	SD010	17	土師器	皿	中世	7.0	1.1	-	-	微砂若干含	良	淡赤褐色	1/6	B1類
327	SD010	17	土師器	皿	中世	8.2	1.3	3.8	-	砂粒少量含	不良	淡黄色	1/6	B1類
328	SD010	17	土師器	皿	中世	6.8	1.8	-	-	0.5～1.0mm砂粒少量含	良	にぶい黄褐色	1/2	B1類
329	SD010	17	土師器	皿	中世	7.8	1.9	-	-	微砂少量含	普通	浅黄褐色	ほぼ完形	口縁部煤付着・B1類
330	SD010	17	須恵器	壺	古代	-	-	-	-	0.5～2.0mm砂粒含	良	灰黄色	口縁部破片	内面自然釉
331	SD010	17	土師器	皿	中世	7.6	1.3	3.6	-	微砂若干含	不良	にぶい黄褐色	1/4	B1類
332	SD010	17	土師器	皿	中世	7.8	-	-	-	0.5～2.0mm砂粒若干含	普通	にぶい黄褐色	1/6	B1類
333	SD010	17	土師器	皿	中世	9.0	1.9	-	-	0.5mm砂粒少量含	良	淡褐色	1/3	B1類
334	SD010	17	珠洲	甕	中世	-	-	13.4	-	0.5mm白色粒少量含	良	灰色	底部1/2～体部下位1/8	
335	SD010	17	珠洲	壺	中世	-	-	11.6	-	2.0mm白色粒多く含	良	明青灰色	体部下位～底部1/2	底部布目痕
336	SD011	17	珠洲	播鉢	中世	-	-	-	-	微細～0.5mm砂粒多く含	普通	暗青灰色	口縁部破片	
337	SD011	17	須恵器	壺	古代	-	-	-	-	白色粒やや多く含	良	内・明灰色 外・明黒色、明灰色	体部1/7	
338	SD012	18	土師器	甕	古代	-	-	-	-	微砂・雲母少量含	良	内・淡橙灰色 外・淡茶灰色	口縁部破片	
339	SD012	18	土師器	甕	古代	-	-	-	-	微細～1.0mm砂粒多く含	良	灰黄褐色	口縁部破片	
340	SD012	18	土師器	杯	古代	-	-	-	5.8	微砂含	不良	淡橙灰色	高台1/3	外面赤彩
341	SD012	18	珠洲	壺	中世	-	-	-	-	微細～0.5mm砂粒少量含	良	青灰色	底部破片	
342	SD012	18	土師器	皿	中世	7.4	1.6	-	-	微砂少量含	普通	淡黄褐色	1/6	B1類
343	SD012	18	土師器	杯	中世	9.0	-	-	-	微砂少量含	不良	浅黄褐色	1/5	Z8類
344	SD012	18	土師器	皿	中世	9.4	-	-	-	微砂少量含	普通	浅黄褐色	1/6	B1類
345	SD012	18	須恵器	甕	古代	-	-	12.5	-	0.5～3.0mm白色粒多く含	良	暗灰色	底部1/4	
346	SD012	18	瀬戸美濃	碗	中世	12.4	-	5.0	-	微細～1.0mm砂粒含	良	素地・明茶灰色 釉・茶褐色～黒褐色	体部1/4	鉄釉天目
347	SD013	18	須恵器	蓋	古代	10.4	-	-	-	0.5～3.0mm砂粒含	良	暗灰色	口縁部～天井部1/10	
348	SD013	18	須恵器	杯A	古代	11.2	3.0	7.5	-	微砂含	不良	にぶい黄褐色	1/4弱	
349	SD013	18	須恵器	杯B	古代	-	-	-	6.1	0.5～1.0mm砂粒含	良	暗茶褐色	高台～体部下位1/6	
350	SD013	18	須恵器	杯B	古代	-	-	-	7.5	0.5～2.0mm砂粒多く含	不良	灰色	底部1/2弱	
351	SD013	18	土師器	高坏脚部	古代	-	-	-	-	微砂少量含	不良	淡橙黄色	脚部一部	
352	SD013	18	土師器	甕	中世	13.0	-	-	-	微細～0.5mm砂粒含	不良	灰黄色	口縁部1/6	外面煤付着
353	SD013	18	土師器	皿	中世	8.0	-	-	-	微砂若干含	良	黄褐色	破片	口縁部煤付着・Z8類
354	SD013	18	土師器	皿	古代	8.0	1.9	-	-	微砂若干含	良	黄褐色	1/4	口縁部煤付着・B1類
355	SD013	18	青磁	碗	中世	11.0	-	-	-	微砂含	良	素地・淡茶灰色 釉・緑灰色	口縁部～体部1/6	
356	SD013	18	龍泉窯系 青磁	碗	中世	-	-	-	5.8	微砂含	良	素地・灰白色 釉・暗緑灰色	高台ほぼ完形	II b類
357	SD013	18	珠洲	播鉢	中世	-	-	-	-	0.5～1.0mm砂粒含	普通	暗褐色	体部破片	
358	SD014	18	須恵器	杯B	古代	-	-	-	7.0	微砂少量含	良	暗茶褐色	高台部1/3	
359	SD014	18	須恵器	杯B	古代	-	-	-	7.4	微細～1.0mm砂粒含	不良	灰褐色	高台付近1/3	
360	SD014	18	土師器	皿	古代	-	-	13.2	-	雲母少量含	普通	内・暗茶灰色 外・灰黄色	底部付近1/2	内面煤付着・外面赤彩
361	SD014	18	土師器	皿	古代	8.0	-	-	-	微砂少量含	普通	黄褐色	1/6	Z8類
362	SD014	18	珠洲	壺	中世	-	-	-	-	黒色粒含	良	暗灰色	口縁部破片	
363	SD014	18	土製品	土錘	古代	-	-	-	-	微細～1.0mm砂粒含	良	明赤褐色	ほぼ完形	83.0 g
364	SD014	18	珠洲	播鉢	中世	24.0	-	-	-	微細～1.0mm白色粒多く含	良	暗灰色	口縁部～体部1/8	
365	SD015	18	須恵器	杯B	古代	-	-	-	9.6	0.5～4.0mm砂粒含	良	灰白色	高台部1/4	
366	SD015	18	須恵器	杯B	古代	-	-	-	8.6	0.5～1.0mm砂粒含	良	灰色	底部1/3	
367	SD015	18	珠洲	播鉢	中世	-	-	-	13.9	0.2～1.0mm砂粒含	普通	黄褐色	底部～体部下位1/6	
368	SD015	18	土師器	甕	古代	-	-	-	-	微細～1.0mm砂粒少量含	良	褐色	口縁部破片	
369	SD016	18	土師器	皿	中世	6.6	-	-	-	微砂少量含	良	褐色	1/4	B1類
370	SD016	18	土師器	皿	中世	8.5	-	-	-	微砂少量含	普通	淡黄色	1/3	B1類
371	SD017	18	須恵器	杯B	古代	-	-	-	7.4	微細白色粒やや多く含	良	内・明灰色 外・暗青灰色	底部1/2	
372	SD017	18	須恵器	杯	古代	-	-	-	6.8	微細白色粒少量含	良	明青灰色	底部1/3	
373	SD017	18	須恵器	杯	古代	-	-	-	6.8	微細白色粒わずかに含	良	暗黄灰色	底部1/4	
374	SD017	18	須恵器	杯B	古代	-	-	-	6.4	微砂わずかに含	良	明灰白色	底部1/6	
375	SD017	18	須恵器	杯B	古代	11.3	4.4	-	6.4	微細白色粒わずかに含	良	明灰色	1/5	
376	SD017	18	須恵器	杯	古代	13.0	4.0	-	8.0	微細白色粒少量含	良	明灰色	1/5	
377	SD017	18	須恵器	杯B	古代	-	-	-	7.3	砂粒少量含	良	明青灰色	底部2/3	回転糸切り
378	SD017	18	須恵器	蓋	古代	-	-	-	-	微白色粒わずかに含	良	内・暗褐色 外・暗緑灰色	口縁部破片	
379	SD017	18	須恵器	杯A	古代	12.8	3.65	9.0	-	微砂、2～3mm石含	良	黄灰色	1/4	
380	SD017	18	土師器	杯A	古代	-	-	6.0	-	砂粒少量含	良	内・明赤褐色 外・暗橙灰色～暗 褐色	底部1/3	回転糸切り
381	SD017	18	土師器	杯A	古代	-	-	6.0	-	微砂わずかに含	良	暗茶褐色	底部1/3	回転糸切り
382	SD017	18	土師器	杯A	古代	-	-	4.5	-	微白色粒・雲母・赤褐色粒 わずかに含	良	明赤褐色	底部のみ	回転糸切り
383	SD017	18	土師器	甕	古代	-	-	7.4	-	砂粒少量含	良	明茶褐色	底部1/3	
384	SD017	18	近江系	皿	古代	-	-	-	-	精良	軟質	素地・乳白色 釉・緑色	1/6	緑釉
385	SD017	18	須恵器	杯	古代	-	-	-	-	白色粒少量含	良	明灰色	口縁部破片	
386	SD017	18	土製品	土錘	古代	-	-	-	-	砂粒多く含	良	明橙白色	1/2	
387	SD017	18	須恵器	甕	古代	-	-	-	-	白色粒少量含	良	暗灰色	口縁部破片	
388	SD017	18	土師器	甕	古代	-	-	-	-	微白色粒・雲母・赤褐色粒 わずかに含	良	明橙白色	口縁部破片	

遺物番号	出土地点	図版番号	種別	器種	時代	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	高台径 (cm)	胎土	焼成	色調	残存率	備考
389	SD017	18	土師器	甕	古代	-	-	7.0	-	砂粒やや多く含	良	内・明褐色 外・暗褐色～暗褐色	体部下位1/5	
390	SD017	18	須恵器	取っ手	古代	-	-	-	-	砂粒わずかに含	良	明灰白色	破片	
391	SD017	18	土師器	皿	中世	-	-	-	-	微白色粒・雲母少量含	良	明褐色	破片	煤付着・A1類
392	SD017	18	土師器	甕	古代	-	-	-	-	微白色粒・雲母多く含	良	内・暗灰茶色 外・暗褐色	口縁部破片	内面煤付着
393	SD017	18	須恵器	甕	古代	-	-	12.0	-	1mm白色砂粒多く含	良	内・明灰色 外・明青灰色	体部下位～底部1/4	外面煤付着
394	SD018	18	土製品	土錘	古代	-	-	-	-	0.5～1.0mm砂粒多く含	不良	明褐色	1/2	
395	SD018	18	須恵器	杯B	古代	-	-	-	8.6	0.5～2.0mm砂粒多く含	不良	暗灰褐色	高台1/4	
396	SD018	18	須恵器	杯B	古代	-	-	-	8.4	微細～1.0mm砂粒含	良	暗灰褐色	高台1/3	外面自然釉
397	SD019	18	須恵器	杯A	古代	12.4	3.15	7.4	-	微細～2.0mm砂粒含	良	灰色	1/4	
398	SD020	18	土師器	杯A	古代	-	-	-	4.6	微砂粒多く含	軟質	乳白色	2/3	回転糸切り
399	SD021	18	須恵器	壺	古代	-	-	-	-	白色粒若干含	普通	明灰褐色	1/6	灰かぶり
400	SD022	19	須恵器	蓋	古代	15.8	-	-	-	微細～1.0mm砂粒含	不良	灰茶色	口縁部～天井部1/8	
401	SD022	19	須恵器	蓋	古代	10.8	-	-	-	微細～1.0mm砂粒含	良	暗灰色	口縁部～天井部1/8	
402	SD022	19	須恵器	杯B	古代	-	-	-	7.6	微砂少量含	良	淡灰色	高台1/4	
403	SD022	19	須恵器	杯A	古代	-	-	-	6.0	微砂含	普通	橙褐色	底部1/2	
404	SD022	19	土製品	土錘	古代	-	-	-	-	1.0～2.0mm褐色粒含	良	明褐色	4/5	
405	SD022	19	土師器	皿	中世	7.8	2.0	-	-	微赤褐色粒少量含	普通	黄褐色	1/4	Z4類
406	SD022	19	珠洲	擂鉢	中世	-	-	-	-	微白色粒多く含	良	灰色	口縁部付近破片	
407	SD022	19	龍泉窯系 青磁	碗	中世	-	-	-	-	微砂含	良	素地・灰茶色 釉・緑灰色	口縁部付近破片	
408	SD022	19	珠洲	擂鉢	中世	-	-	14.0	-	0.5～1.5mm砂粒含	良	灰色	底部1/4	
409	SD022	19	珠洲	擂鉢	中世	-	-	15.0	-	微砂少量含	良	灰色	底部1/8以下	
410	SD022	19	須恵器	壺	古代	-	-	12.4	-	微細～1.0mm砂粒含	不良	灰茶色	底部1/5	
411	SD023	19	龍泉窯系 青磁	碗	中世	16.6	-	-	-	微砂含	良	素地・灰白色 釉・緑灰色	口縁部付近1/8	I b類
412	SD023	19	須恵器	壺	古代	-	-	-	12.8	0.5～2.0mm白色粒多く含	普通	灰白色	1/4	
413	SD023	19	須恵器	壺	古代	-	-	10.8	-	1.0mm白色粒若干含	良	明灰褐色	1/6	
414	SD024	19	土師器	杯	中世	7.6	-	-	-	精良	良	明黄褐色	1/8	Z9類
415	SD025	19	瀬戸美濃	卸皿	中世	-	-	7.4	-	精良	良	明赤灰色	底部のみ	回転糸切り
416	SD026	19	土師器	皿	中世	6.6	-	-	-	精良	普通	黄褐色	1/4	Z9類
417	SD026	19	土師器	皿	中世	7.6	-	-	-	精良	良	明黄赤色	1/6	Z9類
418	SD026	19	土師器	皿	中世	8.0	-	-	-	精良	良	明黄褐色	1/8	煤付着・Z9類
419	SD026	19	土師器	皿	中世	7.4	-	-	-	精良	良	明黄茶色	1/4	口縁部煤付着・C3類
420	SD026	19	土師器	皿	中世	9.6	-	-	-	精良	良	明赤褐色	1/6	口縁部煤付着・B1類
421	SD026	19	土師器	皿	中世	-	-	5.4	-	精良	普通	明黄赤色	1/4	
422	SD026	19	須恵器	杯B	古代	-	-	-	7.4	精良	良	灰褐色	1/4	
423	SD026	19	土製品	土錘	古代	-	-	-	-	微砂若干含	不良	明黄褐色	ほぼ完形	120g
424	SD027	19	土師器	皿	中世	7.0	2.2	-	-	精良	良	明黄褐色	1/4	C2類
425	SD028	19	須恵器	壺	古代	-	-	-	11.2	0.5mm白色粒若干含	良	明緑灰色	高台1/4	
426	SD028	19	瀬戸美濃	碗	中世	11.4	-	-	-	精良	良	素地・黄褐色 釉・黒茶色	1/6	鉄釉天目
427	SD028	19	土師器	杯	中世	8.8	2.7	-	-	精良	普通	明赤褐色	1/3	C2類
428	SD028	19	土師器	杯	中世	13.8	-	-	-	精良	普通	明赤褐色	1/8	Z10類
429	SD029	19	須恵器	杯B	古代	-	-	-	8.5	白色粒少量含	不良	明灰色	2/3	
430	第1調査区	19	須恵器	蓋	古代	-	-	-	-	0.5以下微砂若干含	良	灰褐色	つまみ完形～天井部1/4	
431	第1調査区	19	須恵器	蓋	古代	-	-	-	-	1.0mm白色粒わずかに含	良	灰色	つまみ完形～天井部1/8	
432	第1調査区	19	須恵器	杯A	古代	12.0	-	-	-	精良	良	明緑灰色	1/8	
433	第1調査区	19	須恵器	杯B	古代	-	-	-	7.8	精良	良	灰褐色	底部付近1/3	
434	第1調査区	19	須恵器	杯B	古代	-	-	-	8.2	微白色粒わずかに含	良	明黄灰色	底部1/4	
435	第1調査区	19	須恵器	杯B	古代	12.2	3.7	-	8.4	微砂粒若干含	良	明灰白色	1/6	
436	第1調査区	19	須恵器	壺	古代	-	-	-	-	0.5以下白色粒含	普通	淡灰褐色	1/6以下	
437	第1調査区	19	須恵器	蓋	古代	18.1	-	-	-	微白色粒わずかに含	良	明灰色	1/6	
438	第1調査区	19	須恵器	蓋	古代	15.6	-	-	-	0.5～1.0mm白色粒若干含	良	灰褐色	1/6	
439	第1調査区	19	土師器	杯	古代	-	-	-	6.2	微赤褐色粒少量含	普通	淡赤褐色	底部1/2～体部下位1/6	回転糸切り・底部穿孔あり
440	第1調査区	19	黒色土器	杯	古代	-	-	-	6.2	微砂粒含	普通	内・黒色 外・明黄灰色	1/4	
441	第1調査区	19	灰釉	皿	古代	12.6	-	-	-	0.2～1.0mm黒色粒含	良	灰白色	口縁部～体部中位1/8	
442	第1調査区	19	灰釉	皿	中世	11.8	-	-	-	微砂含	良	胎土・灰茶色 釉・灰茶色	口縁部1/9	
443	第1調査区	19	陶器	皿	中世	11.6	-	-	-	微砂含	良	胎土・淡灰茶色 釉・淡緑灰色	口縁部1/10	
444	第1調査区	19	土師器	皿	中世	8.5	-	-	-	微砂少量含	良	浅黄褐色	1/3	B1類
445	第1調査区	19	土師器	皿	中世	8.6	-	-	-	赤褐色粒少量含	良	橙色	口縁部～体部1/3	口縁部煤付着・C3類
446	第1調査区	19	珠洲	擂鉢	中世	-	-	-	-	0.5～2.0mm白色粒若干含	良	明灰褐色	口縁部破片	
447	第1調査区	19	珠洲	陶製加工 円盤	中世	-	-	-	-	微砂含	良	青灰色	完形	19.4 g
448	第1調査区	19	珠洲	陶製加工 円盤	中世	-	-	-	-	黒色粒少量含	良	青灰色	完形	19.2 g
449	第1調査区	19	珠洲	陶製加工 円盤	中世	-	-	-	-	黒色粒少量含	良	青灰色	完形	17.2 g
450	第2調査区	19	須恵器	蓋	古代	15.6	-	-	-	白色粒わずかに含	良	明灰色	1/6	
451	第2調査区	19	須恵器	杯B	古代	-	-	-	10.8	白色粒やや多く含	良	明灰白色	底部1/8	
452	第2調査区	19	須恵器	杯B	古代	-	-	-	8.6	白色粒わずかに含	良	内・暗黄灰色 外・暗灰色	底部1/4	
453	第2調査区	19	須恵器	杯B	古代	-	-	-	7.0	0.5mm白色粒若干含	良	灰褐色	底部1/2	
454	第2調査区	19	黒色土器	杯	古代	12.0	-	-	-	0.5mm砂粒含	良	内・淡黒色 外・明黄褐色	1/6	
455	第2調査区	19	黒色土器	杯	古代	-	-	-	7.8	0.5～2.0mm砂粒含	良	内・黒褐色 外・淡黄褐色	底部～体部下位1/3	
456	第2調査区	19	須恵器	杯A	古代	12.4	3.4	-	-	0.5mm砂粒若干	普通	明灰褐色	1/2	
457	第2調査区	19	須恵器	杯	古代	17.2	-	-	-	0.5mm白色粒若干含	良	灰褐色	1/6	
458	第2調査区	20	土師器	甕	古代	-	-	-	5.6	微砂含	良	明赤黄色	底部のみ	
459	第2調査区	20	土師器	杯A	古代	-	-	-	5.2	微砂少量含	不良	内・暗灰色 外・暗橙白色	底部のみ	回転糸切り
460	第2調査区	20	土師器	甕	古代	12.4	-	-	-	精良	良	黄褐色	口縁部1/6	
461	第2調査区	20	土師器	皿	中世	16.2	-	-	-	微砂若干含	良	明黄褐色	1/8	
462	第2調査区	20	土師器	皿	中世	7.8	1.5	-	-	精良	良	明赤黄色	1/4	Z4類

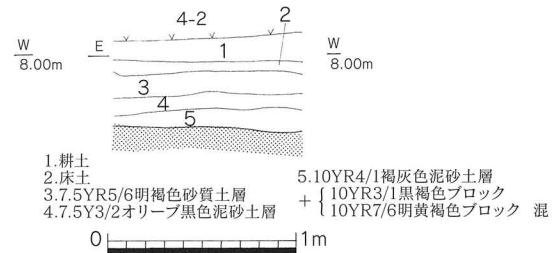
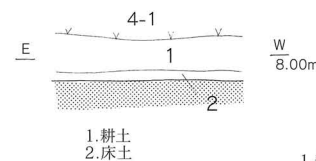
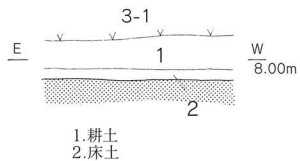
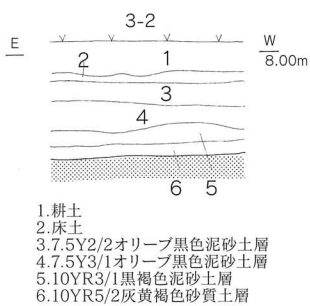
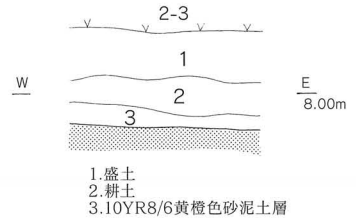
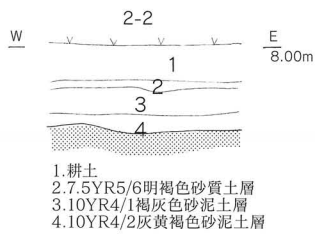
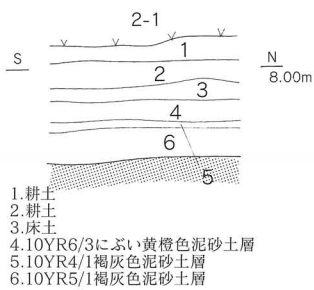
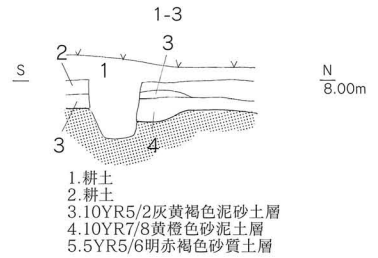
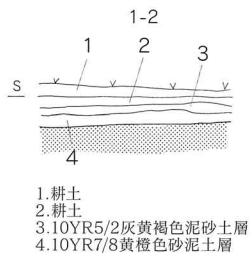
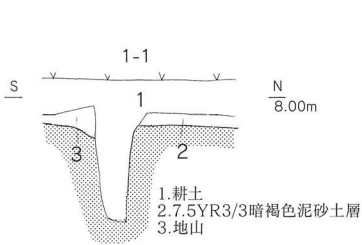
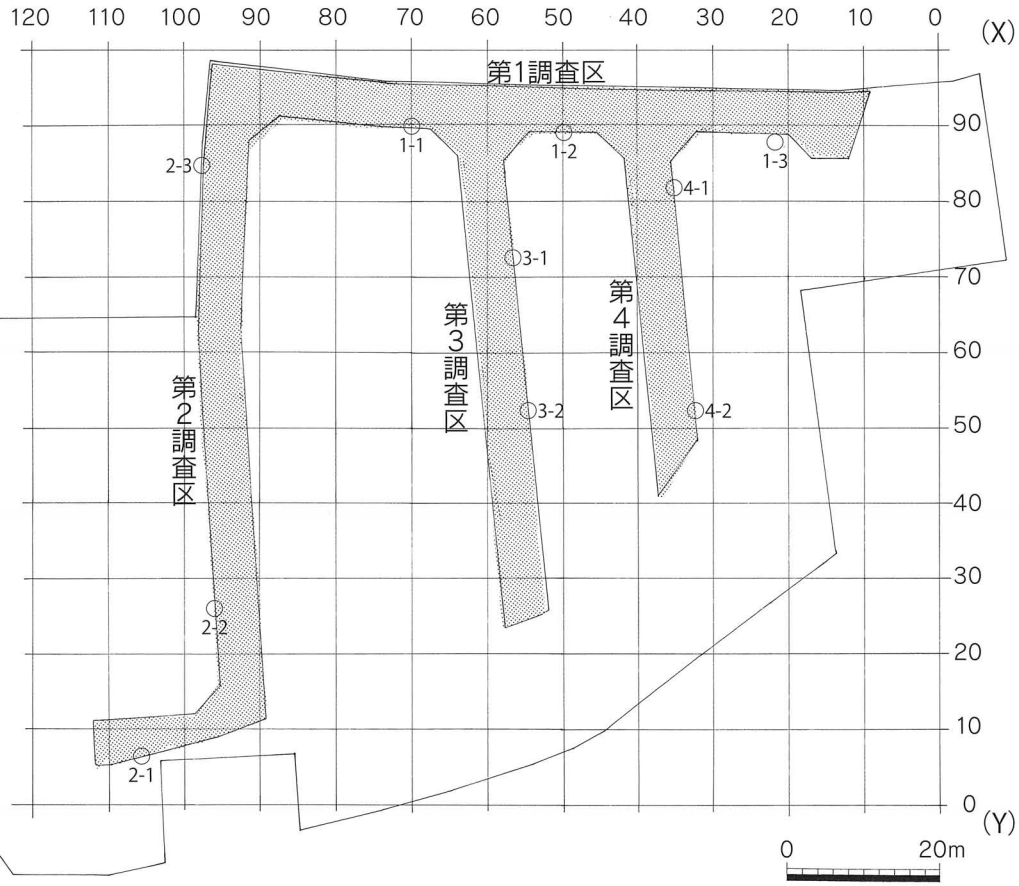
遺物番号	出土地点	図版番号	種別	器種	時代	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	高台径(cm)	胎土	焼成	色調	残存率	備考
463	第2調査区	20	土師器	皿	中世	9.4	-	-	-	精良	良	乳白色	1/3	内面煤付着・Z4類
464	第2調査区	20	土師器	皿	中世	8.4	-	-	-	精良	良	黄灰色	1/4	C3類
465	第2調査区	20	土師器	皿	中世	9.0	2.2	-	-	赤褐色粒わずかに含	良	明黄褐色	1/3	C3類
466	第2調査区	20	土師器	皿	中世	10.2	-	-	-	精良	良	黄褐色	1/8	口縁部煤付着・B1類
467	第2調査区	20	土師器	皿	中世	9.4	-	-	-	精良	良	乳白色	1/2	口縁部煤付着・C5類
468	第2調査区	20	青磁	火入れ	中世	-	-	-	4.6	微砂少量含	良	素地・白灰色 釉・緑灰色	高台3/4～底部一部	
469	第2調査区	20	瀬戸美濃	皿	中世	-	-	-	5.7	精良	良	素地・白灰色 釉・緑黄色	高台1/2	灰釉
470	第2調査区	20	瀬戸美濃	皿	中世	-	-	-	6.2	精良	良	素地・明灰黄色 釉・明緑色	底部1/3	灰釉
471	第2調査区	20	須恵器	甕	古代	-	-	-	-	微細～2.0mm砂粒多く含	良	暗灰色	口縁部破片	
472	第2調査区	20	土製品	あげ玉	中世	-	-	-	-	精良	良	黄白色	完形	中心穿孔あり
473	第2調査区	20	珠洲	播鉢	中世	-	-	-	-	精良	良	灰褐色	口縁部破片	
474	第2調査区	20	珠洲	播鉢	中世	-	-	14.5	-	1.0mm白色砂粒含	良	暗灰褐色	底部1/3	
475	第3調査区	20	須恵器	蓋	古代	14.0	-	-	-	精良	良	灰褐色	1/8	
476	第3調査区	20	須恵器	蓋	古代	12.6	-	-	-	微砂若干含	良	明灰褐色	1/4	
477	第3調査区	20	須恵器	杯B	古代	-	-	-	7.2	精良	良	灰緑色	底部1/4	
478	第3調査区	20	須恵器	杯A	古代	11.8	-	-	-	精良	良	明灰緑色	1/8	
479	第3調査区	20	須恵器	杯B	古代	11.9	4.6	-	8.8	0.5～1.0mm砂粒含	良	暗灰褐色	1/3	
480	第3調査区	20	土師器	皿	中世	6.4	1.8	-	-	精良	良	乳白色	1/6	C5類
481	第3調査区	20	土師器	皿	中世	7.6	-	-	-	精良	良	明黄褐色	1/3	C5類
482	第3調査区	20	土師器	皿	中世	7.8	2.2	-	-	精良	良	黄赤褐色	1/3	C5類
483	第3調査区	20	土師器	皿	中世	8.6	2.1	-	-	精良	良	乳白色	1/2	C5類
484	第3調査区	20	土師器	皿	中世	8.6	-	-	-	精良	良	明赤褐色	1/6	C5類
485	第3調査区	20	土師器	皿	中世	8.0	-	-	-	精良	良	明黄灰色	1/6	C5類
486	第3調査区	20	土師器	皿	中世	8.4	-	-	-	精良	良	明黄褐色	1/6	C5類
487	第3調査区	20	土師器	皿	中世	11.0	-	-	-	精良	良	黄灰色	1/3	外面煤付着・C5類
488	第3調査区	20	土師器	皿	中世	8.6	-	-	-	精良	良	乳白色	1/6	Z9類
489	第3調査区	20	土師器	皿	中世	8.6	-	-	-	精良	良	明黄褐色	1/4	口縁部煤付着・Z6類
490	第3調査区	20	土師器	皿	中世	10.0	2.2	-	-	精良	良	明黄灰色	1/6	Z6類
491	第3調査区	20	土師器	皿	中世	9.2	-	-	-	精良	良	乳白色	1/6	C3類
492	第3調査区	20	須恵器	壺	古代	26.0	-	-	-	0.5～1.0mm砂粒含	良	緑灰色	口縁部1/8	
493	第3調査区	20	土師器	鉢	古代	19.8	-	-	-	微砂粒含	良	明黄褐色	口縁部1/8	
494	第3調査区	20	土師器	皿	中世	7.0	1.9	-	-	微砂若干含	良	明黄灰色	1/4	口縁部煤付着・S8類
495	第3調査区	20	土師器	皿	中世	12.6	-	-	-	精良	良	乳白色	1/8	Z6類
496	第3調査区	20	土師器	杯	中世	14.0	-	-	-	精良	良	乳白色	1/4	C6類
497	第3調査区	20	瀬戸美濃	碗	古代	-	-	-	-	精良	良	素地・黄灰色 釉・暗茶色	体部1/6	鉄釉天目
498	第3調査区	20	越中瀬戸	碗	中世	10.8	-	-	-	精良	良	素地・明黄灰色 釉・黒茶色	口縁部1/6	鉄釉天目
499	第3調査区	20	白磁	碗	中世	8.8	-	-	-	微砂少量含	良	素地・釉・淡黄灰色	口縁付近1/8	
500	第3調査区	20	越中瀬戸	皿	中世	10.4	2.3	-	-	精良	良	素地・赤褐色 釉・鉄茶色	1/4	鉄釉
501	第3調査区	20	珠洲	播鉢	中世	19.2	-	-	-	精良	良	灰褐色	口縁部1/8	
502	第4調査区	20	須恵器	蓋	古代	10.8	-	-	-	0.5mm砂粒多く含	良	灰褐色	1/4	
503	第4調査区	20	施釉陶器	鉢	中世	-	-	7.4	-	微砂多く含	良	胎土・明灰黄色 釉・明茶褐色～黒褐色	底部1/2	鉄釉
504	第4調査区	20	須恵器	杯B	古代	13.4	-	-	-	0.5mm以下白色粒若干含	良	青灰色	口縁部付近1/6	
505	第4調査区	20	土師器	皿	中世	9.0	-	-	-	精良	良	乳白色	口縁部付近1/4	D1類
506	第4調査区	20	越中瀬戸	皿	中世	7.0	1.7	4.7	-	精良	良	素地・黄褐色 釉・黒茶褐色	1/3	回転糸切り・鉄釉
507	第4調査区	20	土製品	土錘	古代	-	-	-	-	精良	良	明黄灰色	1/3	
508	第4調査区	20	青磁	碗	中世	-	-	-	-	微砂含	良	素地・淡茶灰色 釉・緑灰色	口縁部破片	
509	第4調査区	20	越中瀬戸	香炉	中世	-	-	-	9.7	微砂含、1.0mm礫含	良	胎土・浅黄褐色 釉・黒褐色	底部1/4	
510	第4調査区	20	珠洲	鉢	中世	-	-	16.1	-	1.0～3.0mm砂粒含	良	灰褐色	底部1/8～体部下位1/4	
511	排土・側溝・攪乱	20	黒色土器	杯	古代	18.0	-	-	-	微砂若干含	良	内・深黒色 外・明黄褐色	口縁部付近1/8	
512	排土・側溝・攪乱	20	須恵器	杯B	古代	-	-	-	6.6	0.5mm白色粒若干含	良	灰褐色	底部1/3	
513	排土・側溝・攪乱	20	黒色土器	杯A	古代	-	-	4.0	-	微砂含	不良	淡灰色	底部のみ	
514	排土・側溝・攪乱	20	土師器	甕	古代	-	-	5.2	-	微砂若干含	不良	明灰褐色	底部3/4	
515	排土・側溝・攪乱	20	弥生土器	甕	弥生	5.2	-	-	-	1.0mm砂粒若干含	不良	明灰黄色	底部完形～体部下位一部	
516	排土・側溝・攪乱	20	土製品	土錘	古代	-	-	-	-	微砂含	不良	灰褐色	ほぼ完形	81.6g
517	排土・側溝・攪乱	20	土製品	土錘	古代	-	-	-	-	微砂含	普通	明赤褐色	ほぼ完形	80.2g
518	排土・側溝・攪乱	20	土製品	土錘	古代	-	-	-	-	微砂含	普通	明赤褐色	ほぼ完形	88.0g
519	排土・側溝・攪乱	20	土製品	土錘	古代	-	-	-	-	精良	普通	乳白色	ほぼ完形	113.2g
520	排土・側溝・攪乱	21	土師器	皿	中世	5.6	1.1	-	-	精良	普通	明赤褐色	1/3	口縁部煤付着・B1類
521	排土・側溝・攪乱	21	土師器	皿	中世	7.8	1.4	-	-	精良	普通	白灰色	1/6	口縁部煤付着・B1類
522	排土・側溝・攪乱	21	土師器	皿	中世	8.0	-	-	-	精良	良	明黄灰色	1/4	口縁部煤付着・B1類
523	排土・側溝・攪乱	21	土師器	皿	中世	8.0	-	-	-	精良	良	乳白色	1/3	口縁部煤付着・B1類
524	排土・側溝・攪乱	21	土師器	皿	中世	7.5	1.9	-	-	精良	普通	乳白色	完形	口縁部煤付着・B1類
525	排土・側溝・攪乱	21	土師器	皿	中世	8.4	-	-	-	精良	良	乳白色	1/4	口縁部煤付着・Z9類
526	排土・側溝・攪乱	21	土師器	皿	中世	8.4	-	-	-	精良	良	黄褐色	1/4	Z9類
527	排土・側溝・攪乱	21	土師器	皿	中世	9.0	2.1	-	-	精良	普通	黒褐色	1/3	Z9類

遺物番号	出土地点	図版番号	種別	器種	時代	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	高台径(cm)	胎土	焼成	色調	残存率	備考
528	排土・側溝・攪乱	21	土師器	皿	中世	8.6	-	-	-	精良	良	黄褐色	1/6	C5類
529	排土・側溝・攪乱	21	土師器	皿	中世	10.4	-	-	-	精良	良	乳白色	1/6	C5類
530	排土・側溝・攪乱	21	土師器	皿	中世	9.6	2.0	-	-	精良	良	黄灰褐色	1/3	口縁部煤付着・Z4類
531	排土・側溝・攪乱	21	土師器	皿	中世	11.6	-	-	-	精良	良	乳白色	口縁部付近1/8	Z4類
532	排土・側溝・攪乱	21	土師器	皿	中世	12.6	-	-	-	精良	普通	乳白色	口縁部～体部1/8	Z6類
533	排土・側溝・攪乱	21	土師器	皿	中世	13.0	-	-	-	精良	良	乳白色	1/4	Z4類
534	排土・側溝・攪乱	21	瀬戸美濃	皿	中世	11.2	2.6	-	-	精良	良	明緑灰色	1/3	灰釉
535	排土・側溝・攪乱	21	瀬戸美濃	碗	中世	12.0	-	-	-	精良	良	素地・明黄褐色釉・明緑色	口縁部～体部1/4	天目
536	排土・側溝・攪乱	21	瀬戸美濃	碗	中世	-	-	-	-	精良	良	素地・黄灰褐色釉・暗茶褐色	体部1/6	天目
537	排土・側溝・攪乱	21	瀬戸美濃	碗	中世	11.0	-	-	-	1.0mm白色粒含	良	素地・黄灰褐色釉・黒茶色	口縁部～体部1/4	天目
538	排土・側溝・攪乱	21	瀬戸美濃	筒香炉	中世	-	-	-	-	精良	良	素地・明灰黄色釉・暗茶褐色	体部1/8	鉄釉
539	排土・側溝・攪乱	21	珠洲	鉢	中世	-	-	-	-	1.0～2.0mm砂粒含	良	灰褐色	口縁部破片	
540	排土・側溝・攪乱	21	珠洲	鉢	中世	-	-	-	-	0.5～1.0mm白色粒含	普通	灰褐色	口縁部破片	
541	排土・側溝・攪乱	21	白磁	壺	中世	6.6	-	-	-	微砂含	良	素地・灰白色釉・淡青白色	口縁部付近1/6	
542	排土・側溝・攪乱	21	珠洲	甕	中世	-	-	-	-	微白色粒含	良	灰褐色	口縁部破片	
543	排土・側溝・攪乱	21	灰釉陶器	擂鉢	中世	28.0	-	-	-	微砂含	良	胎土・淡茶灰色釉・緑灰色	口縁部1/8	
544	排土・側溝・攪乱	21	青磁	碗	中世	-	-	-	-	微砂含	良	素地・白灰色釉・緑灰色	口縁付近破片	
545	排土・側溝・攪乱	21	珠洲	甕	中世	-	-	-	-	0.5mm白色粒含	良	灰褐色	口縁部破片	
546	排土・側溝・攪乱	21	珠洲	鉢	中世	-	-	14.2	-	0.5mm白色粒若干含	普通	灰褐色	底部1/3	
547	排土・側溝・攪乱	21	珠洲	鉢	中世	-	-	11.8	-	精良	良	灰褐色	底部1/6	
548	排土・側溝・攪乱	21	珠洲	鉢	中世	-	-	12.2	-	1.0～2.0mm微砂含	普通	灰褐色	底部～体部下位1/6	
549	SK027	21	土製品	るつぼ?	不明	-	-	-	-	砂粒多く含	良	明灰紫色～暗灰色	完形	木片残る
550	SD006	16	瀬戸美濃	碗	中世	-	-	-	4.7	精良	良	素地・明黄灰色釉・黒色	底部1/3	鉄釉天目
551	SK064	15	須恵器	杯B	古代	-	-	-	8.2	0.5～2.0mm砂粒含	不良	灰茶色	高台～体部1/4	
552	SK065	15	土師器	杯A	古代	-	-	5.3	-	微砂若干含	良	乳白色	底部1/2	回転糸切り・内面赤彩
553	SD017	18	白磁	碗	中世	-	-	-	6.4	黒色粒やや多く含	良	素地・明灰白色釉・淡黄灰色	底部のみ	

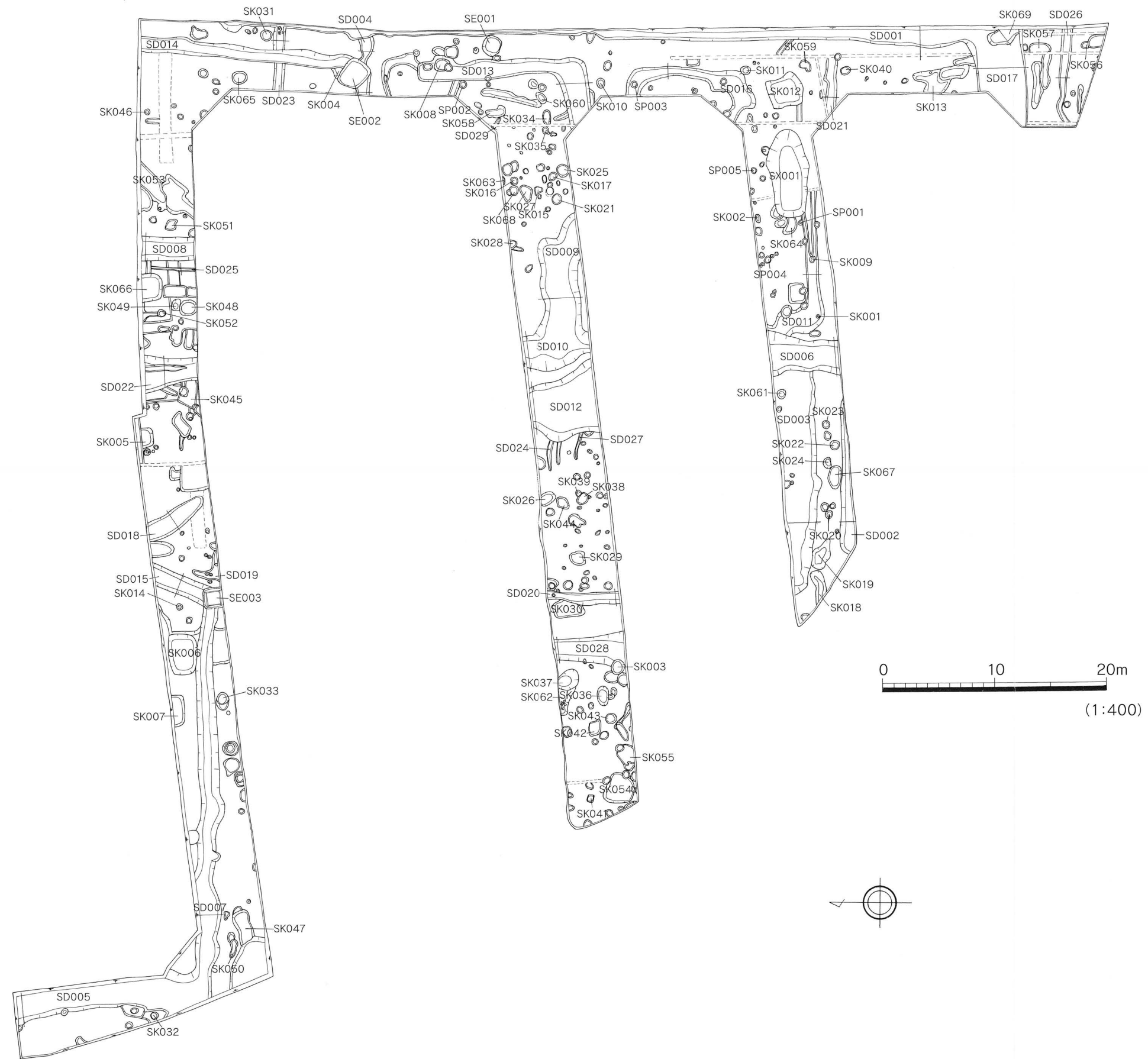




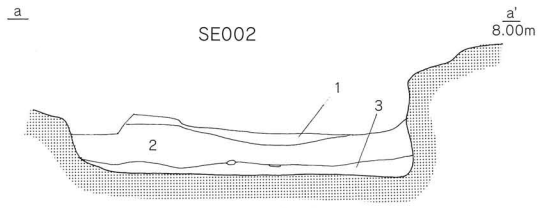
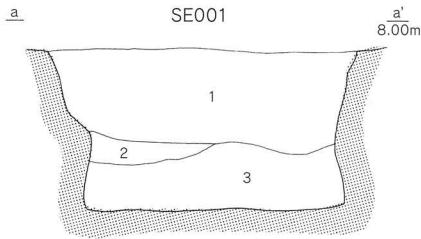
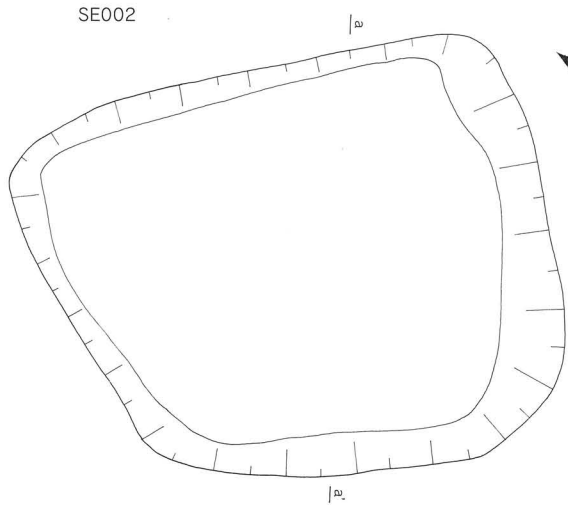
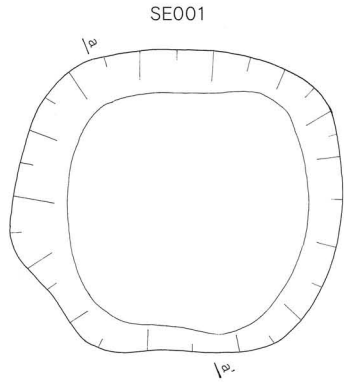
調査地区位置図



調査区配置図 各調査区土層模式図

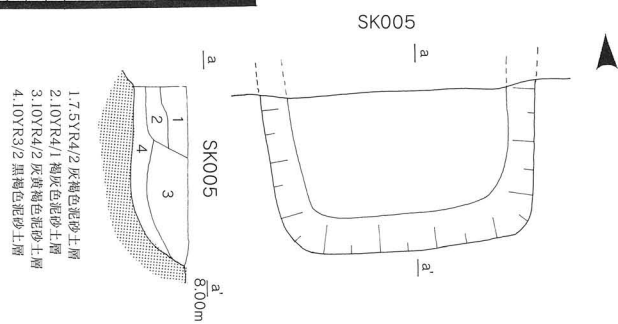
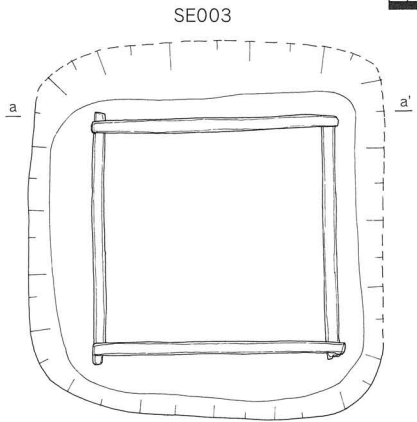
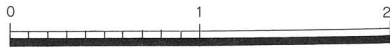


米田大覚遺跡 調査地全体図

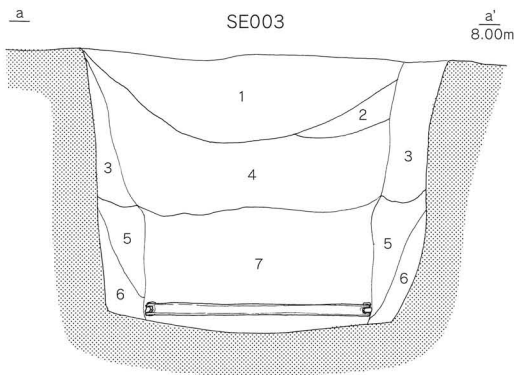


- 1.10YR1.7/1 黒色泥砂土層
- 2.10YR5/2 灰黄褐色細砂土層
- 3.10YR1.7/1 黒色泥土層

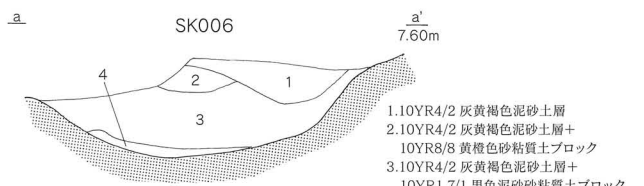
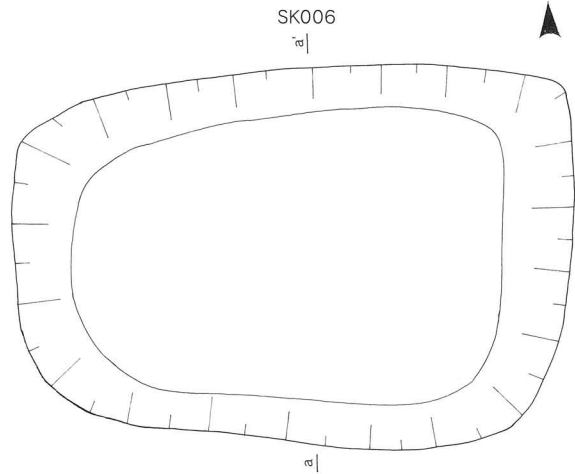
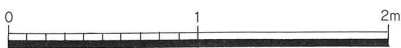
- 1.10YR3/1 黒褐色砂混泥土層
- 2.10YR1.7/1 黒色泥土層わずかに砂質土層混
- 3.10YR1.7/1 黒色泥土粘質土層



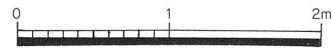
- 1.7.5YR4/2 灰褐色泥砂土層
- 2.10YR4/1 粗灰色泥砂土層
- 3.10YR4/2 灰黄褐色泥砂土層
- 4.10YR3/2 黒褐色泥砂土層



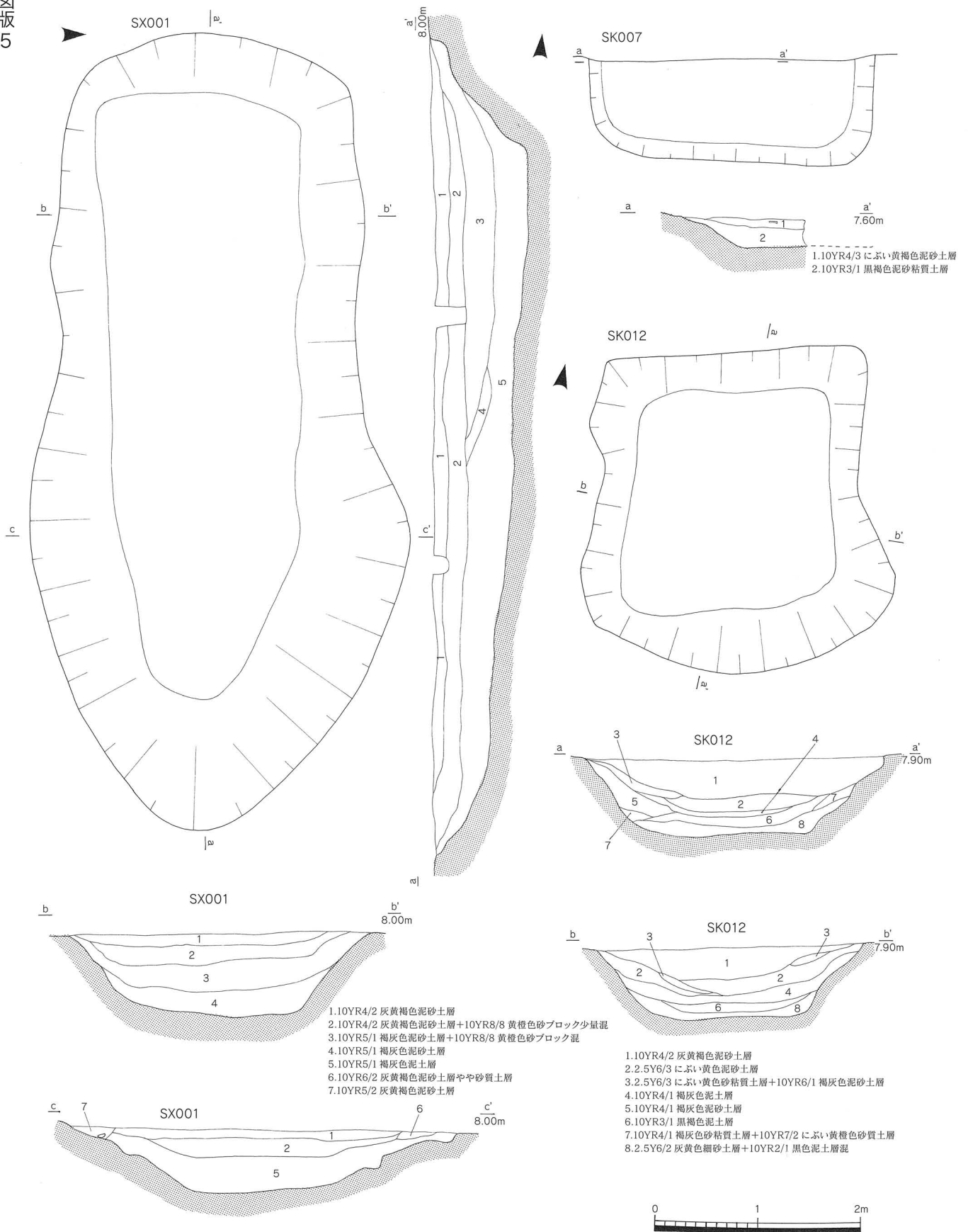
- 1.10YR4/2 灰黄褐色泥砂土層
- 2.10YR4/2 灰黄褐色泥砂土層+7.5YR6/6 橙色砂ブロック混
- 3.10YR8/8 黄褐色粘質土層+10YR3/1 黒褐色泥砂少量混
- 4.10YR8/8 黄褐色粘質土層・N8/0 灰白色粘質土層+2.5Y8/4 淡黄色粘質土ブロック
- 5.10BG7/1 明青灰色細砂土層
- 6.10BG7/1 明青灰色粘土層
- 7.5Y3/1 オリーブ黒色泥土層+N7/0 灰白色砂泥土層



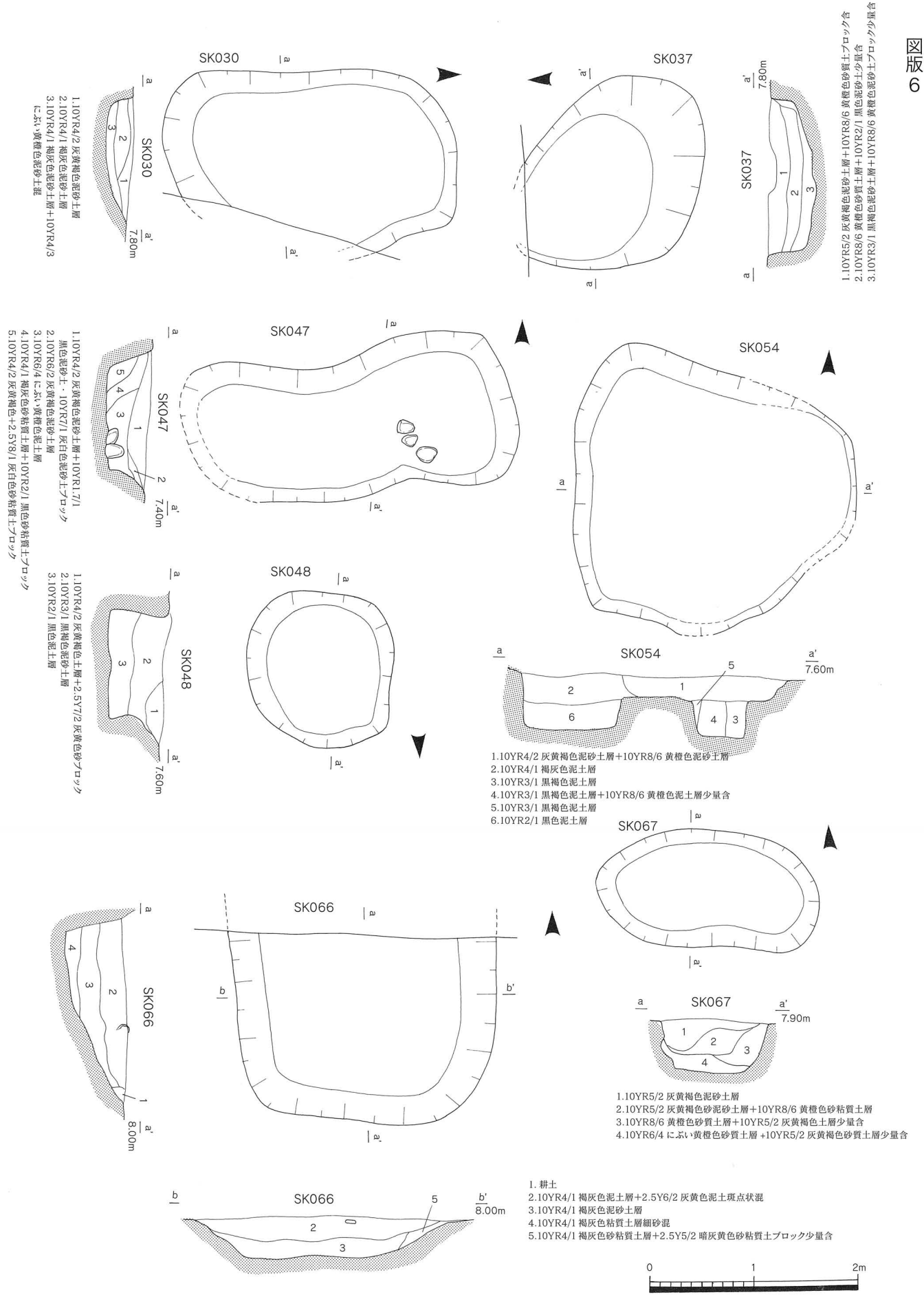
- 1.10YR4/2 灰黄褐色泥砂土層
- 2.10YR4/2 灰黄褐色泥砂土層+10YR8/8 黄褐色砂粘質土ブロック
- 3.10YR4/2 灰黄褐色泥砂土層+10YR1.7/1 黒色泥砂粘質土ブロック
- 4.2.5Y5/1 黄灰色泥土層



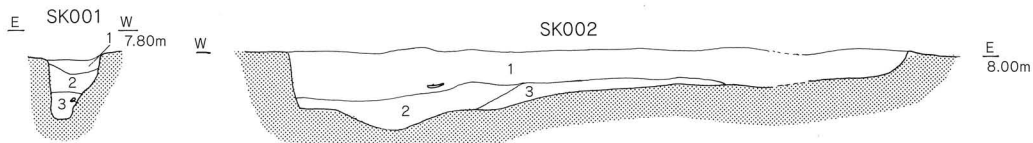
井戸・土坑遺構平面図，土層図



土坑平面図，土層図



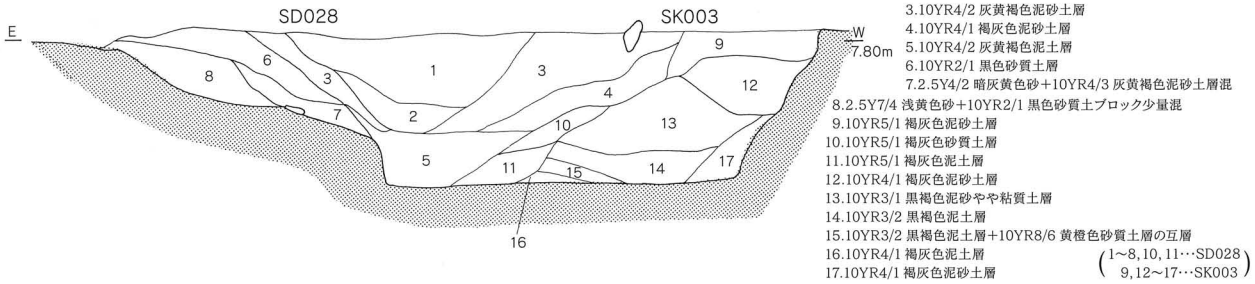
土坑平面図，土層図



- 1.10YR5/1 褐灰色泥砂土層
- 2.10YR6/3 にふい黄橙色泥砂土層
- 3.10YR6/3 にふい黄橙色やや粘質泥砂土層

- 1.10YR3/1 黒褐色泥砂土層
- 2.10YR4/1 褐灰色泥砂土層
- 3.10YR3/1 黒褐色泥砂土層

- 1.10YR4/1 褐灰色砂質土層 + {2.5Y7/3 浅黄色泥砂大ブロック } 混
- 2.10YR4/1 褐灰色砂質土層
- 3.10YR4/2 灰黄褐色泥砂土層
- 4.10YR4/1 褐灰色泥砂土層
- 5.10YR4/2 灰黄褐色泥砂土層
- 6.10YR2/1 黒色砂質土層
- 7.2.5Y4/2 暗灰黄色砂 + 10YR4/3 灰黄褐色泥砂土層混
- 8.2.5Y7/4 浅黄色砂 + 10YR2/1 黒色砂質土ブロック少量混
- 9.10YR5/1 褐灰色泥砂土層
- 10.10YR5/1 褐灰色砂質土層
- 11.10YR5/2 灰黄褐色泥砂土層
- 12.10YR4/1 褐灰色泥砂土層
- 13.10YR3/1 黒褐色泥砂やや粘質土層
- 14.10YR3/2 黒褐色泥砂土層
- 15.10YR3/2 黒褐色泥砂土層 + 10YR8/6 黄橙色砂質土層の互層
- 16.10YR4/1 褐灰色泥砂土層 (1~8, 10, 11...SD028)
- 17.10YR4/1 褐灰色泥砂土層 (9, 12~17...SK003)



- 1.10YR4/2 灰黄褐色泥砂土層 + 10YR1.7/1 黒色泥砂土ブロック混 (SK004)
- 1.10YR5/1 褐灰色泥砂土層 (SD014)

- 1.10YR4/1 褐灰色泥砂土層
- 2.10YR3/1 黒褐色泥砂土層 + 10YR8/8 黄橙色砂質土層
- 3.10YR5/2 灰黄褐色泥砂土層
- 4.10YR3/1 黒褐色泥砂土層
- 1.10YR4/1 褐灰色泥砂土層
- 2.10YR4/1 褐灰色泥砂土層
- 3.10YR3/1 黒褐色泥砂土層

- 1.10YR3/1 黒褐色泥砂土層
- 2.10YR1.7/1 黒色泥砂土層
- 1.10YR4/1 褐灰色泥砂土層
- 2.10YR7/2 にふい黄褐色砂質土層
- 3.10YR1.7/1 黒色泥砂土層
- 4.10YR1.7/1 黒色泥砂土層 + 10YR7/2 にふい黄褐色砂質土層

- 1.10YR3/1 黒褐色泥砂土層 + 10YR8/6 黄橙色泥砂土ブロック
- 2.10YR5/1 褐灰色泥砂土層
- 3.10YR1.7/1 黒色泥砂土層

- 10YR3/1 黒褐色泥砂土層

- 1.10YR4/1 褐灰色砂質泥砂土層
- 2.10YR4/1 褐灰色砂質土層 + 10YR7/2 にふい黄褐色砂質土層
- 3.10YR7/2 にふい黄褐色砂質土層 + 10YR4/1 褐灰色泥砂土層

- 1.10YR4/1 褐灰色砂粘質土層
- 2.10YR8/6 黄褐色砂粘質土層 + 10YR7/8 黄褐色砂粘質土ブロック少量混

- 1.10YR4/1 褐灰色泥砂土層 + 炭少量含
- 2.10YR5/1 褐灰色泥砂土層
- 3.10YR3/1 黒褐色泥砂土層

- 1.10YR3/1 黒褐色泥砂土層 + 10YR7/2 にふい黄褐色砂少量含
- 2.10YR3/1 黒褐色砂粘質土層

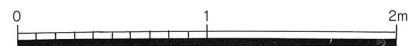
- 1.10YR5/1 褐灰色泥砂土層
- 2.10YR4/1 褐灰色泥砂土層 + 10YR1.7/1 黒色泥砂 } ブロック少量含
- 10YR8/8 黄褐色砂
- 3.10YR4/1 褐灰色砂粘質土層 + 10YR8/8 黄褐色砂粘質土ブロック
- 4.10YR1.7/1 黒色泥砂土層 + 10YR8/8 黄褐色泥砂土ブロック

- 1.10YR5/2 灰黄褐色泥砂土層 + 10YR6/2 灰黄褐色砂質土層
- 2.10YR3/1 黒褐色泥砂土層

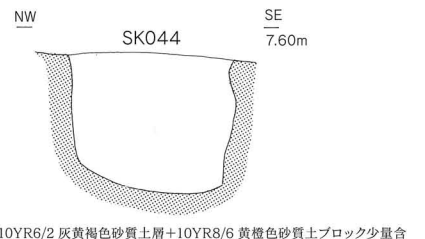
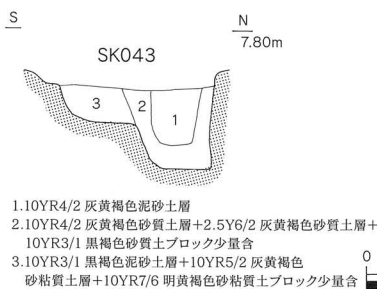
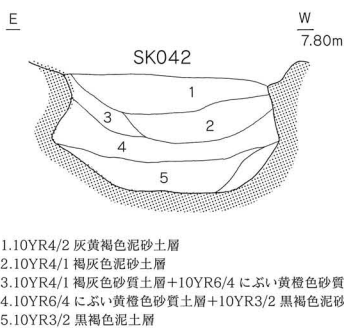
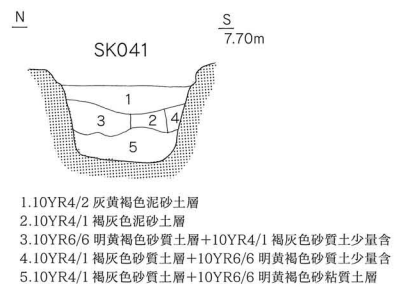
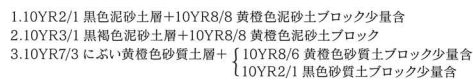
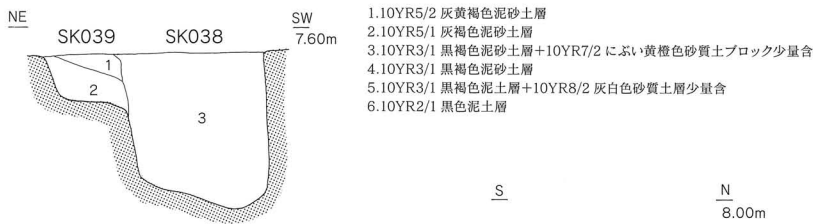
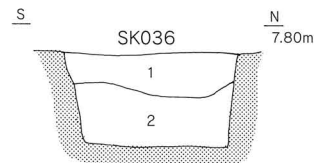
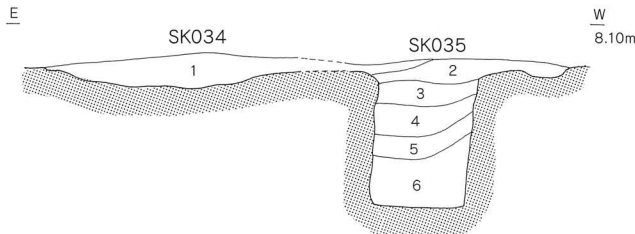
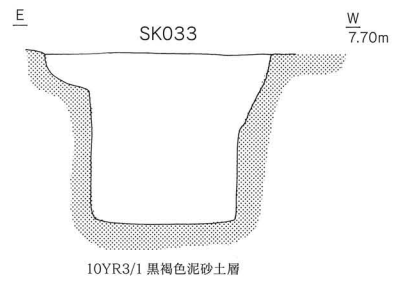
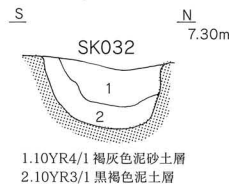
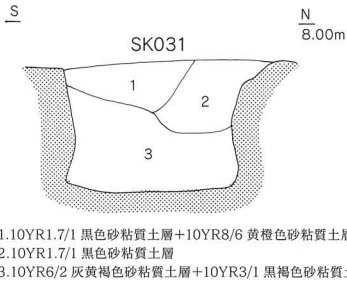
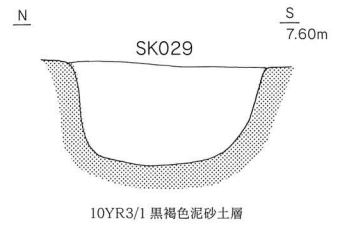
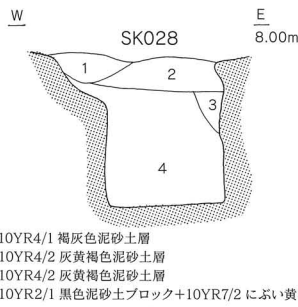
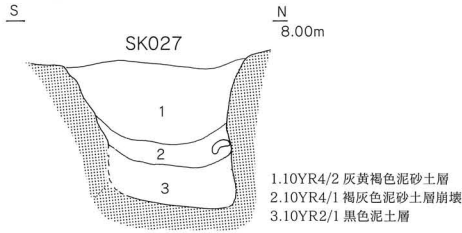
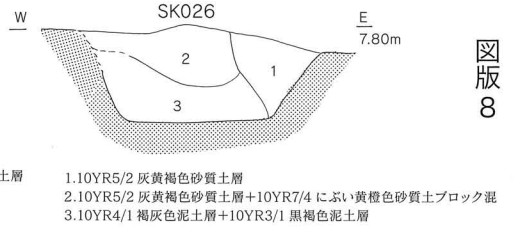
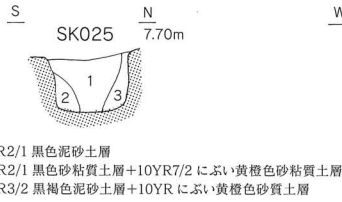
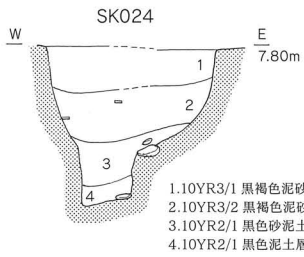
- 10YR6/1 褐灰色砂粘質土層

- 1.10YR3/1 黒褐色泥砂土層
- 2.10YR8/6 黄褐色砂質土層 + 10YR4/1 褐灰色砂質土層帯状に入る

- 1.10YR3/1 黒褐色泥砂土層
- 2.10YR2/1 黒色泥砂土層

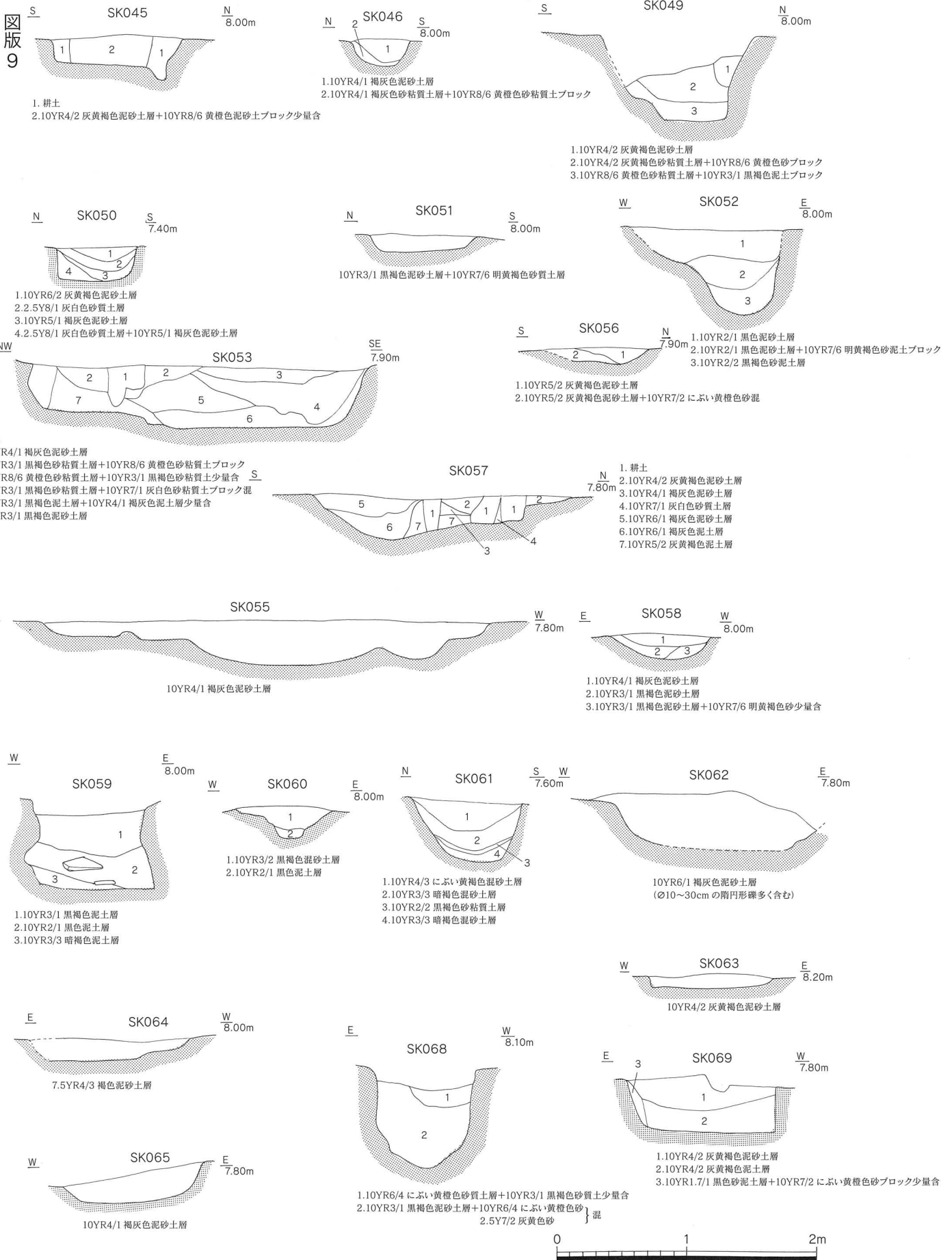


土坑土層図

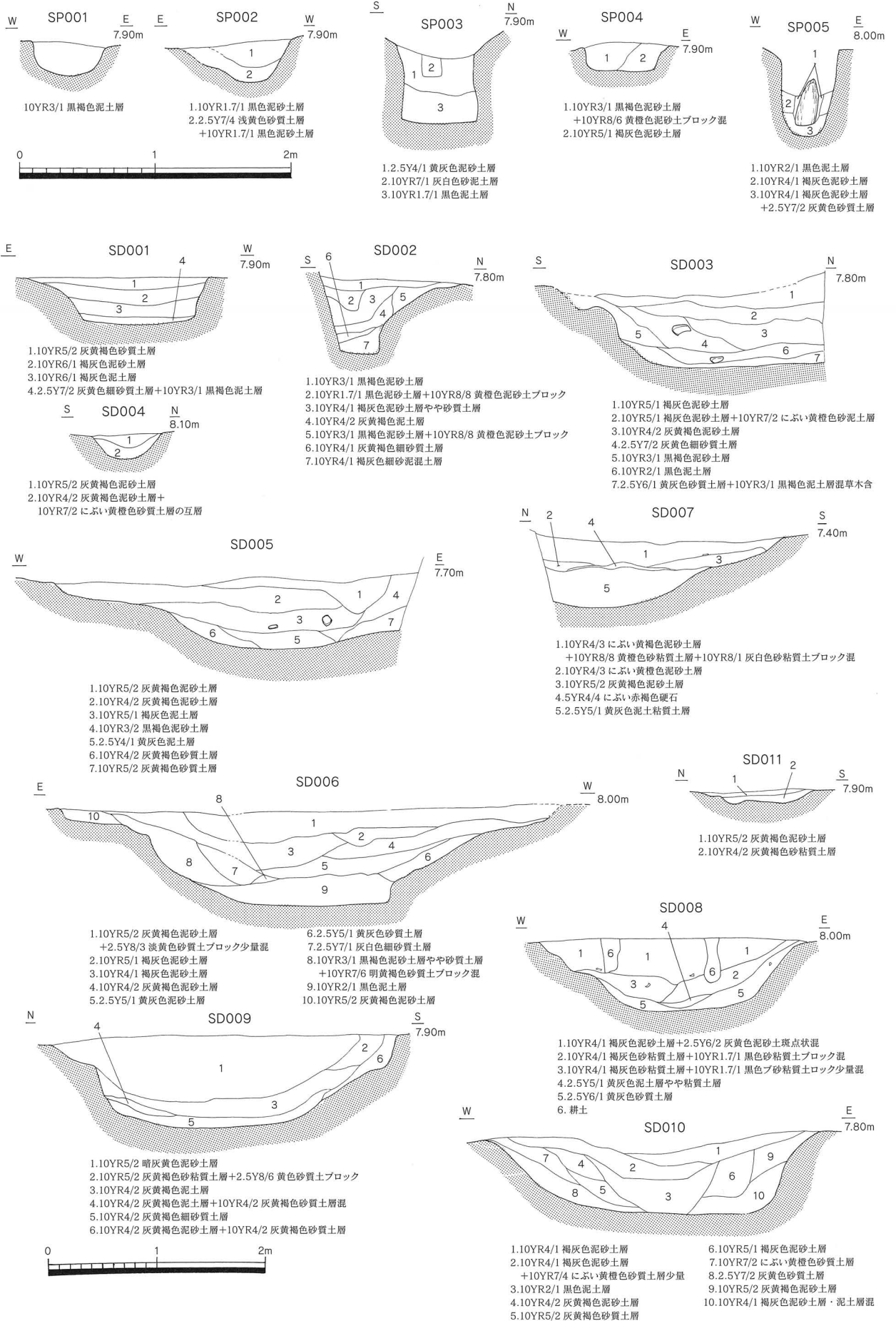


土坑土層図

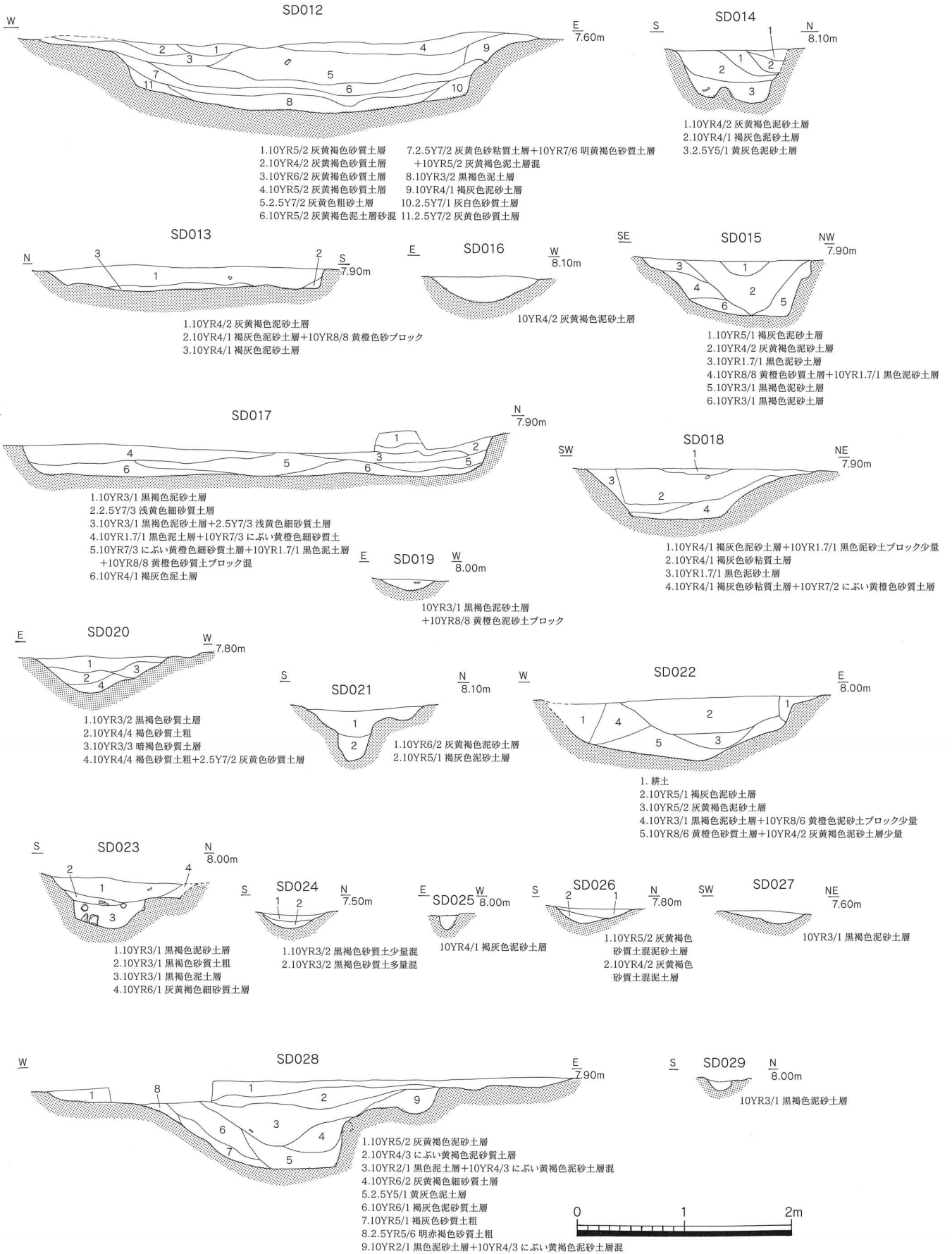




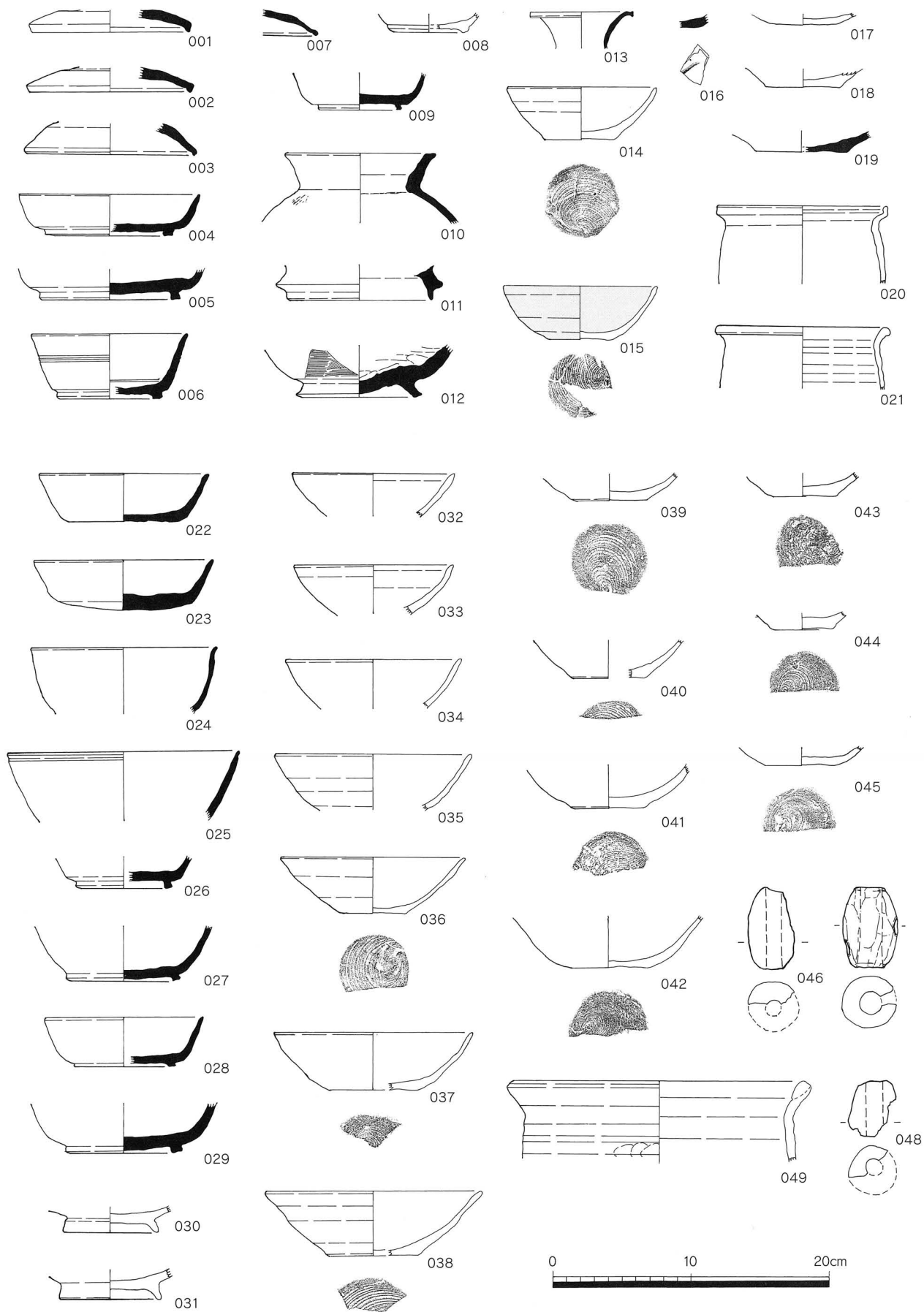
土坑土層図



柱穴・溝土層図

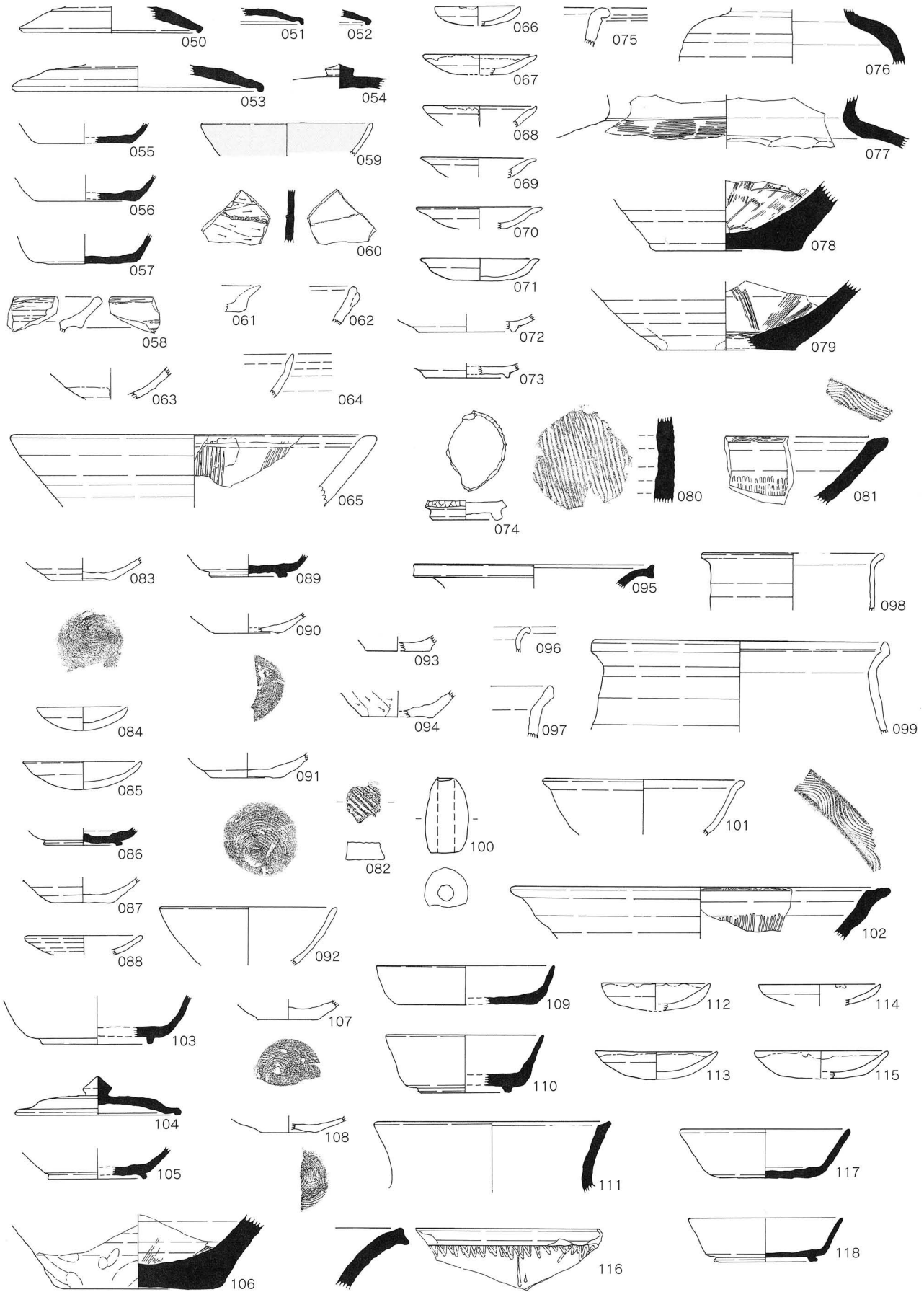


溝土層図



遺物実測図

SE001:001~021  
SE002:022~049



遺物実測図

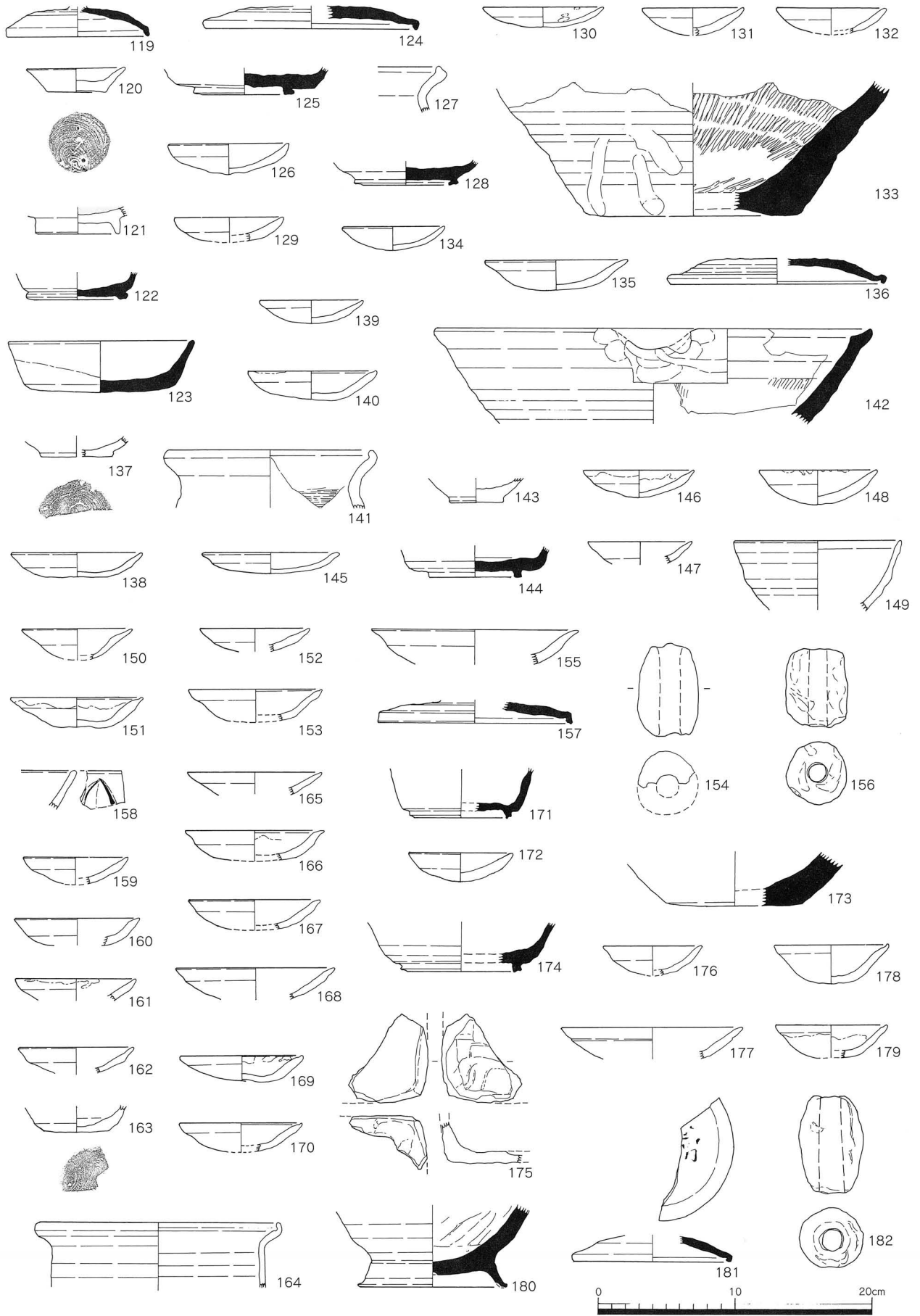
SX001:050~081  
SD013:082  
SK001:083  
SK005:103

SD015:104~108  
SK002:084~085  
SK006:109~115

SK003:086~088  
SK007:116~118

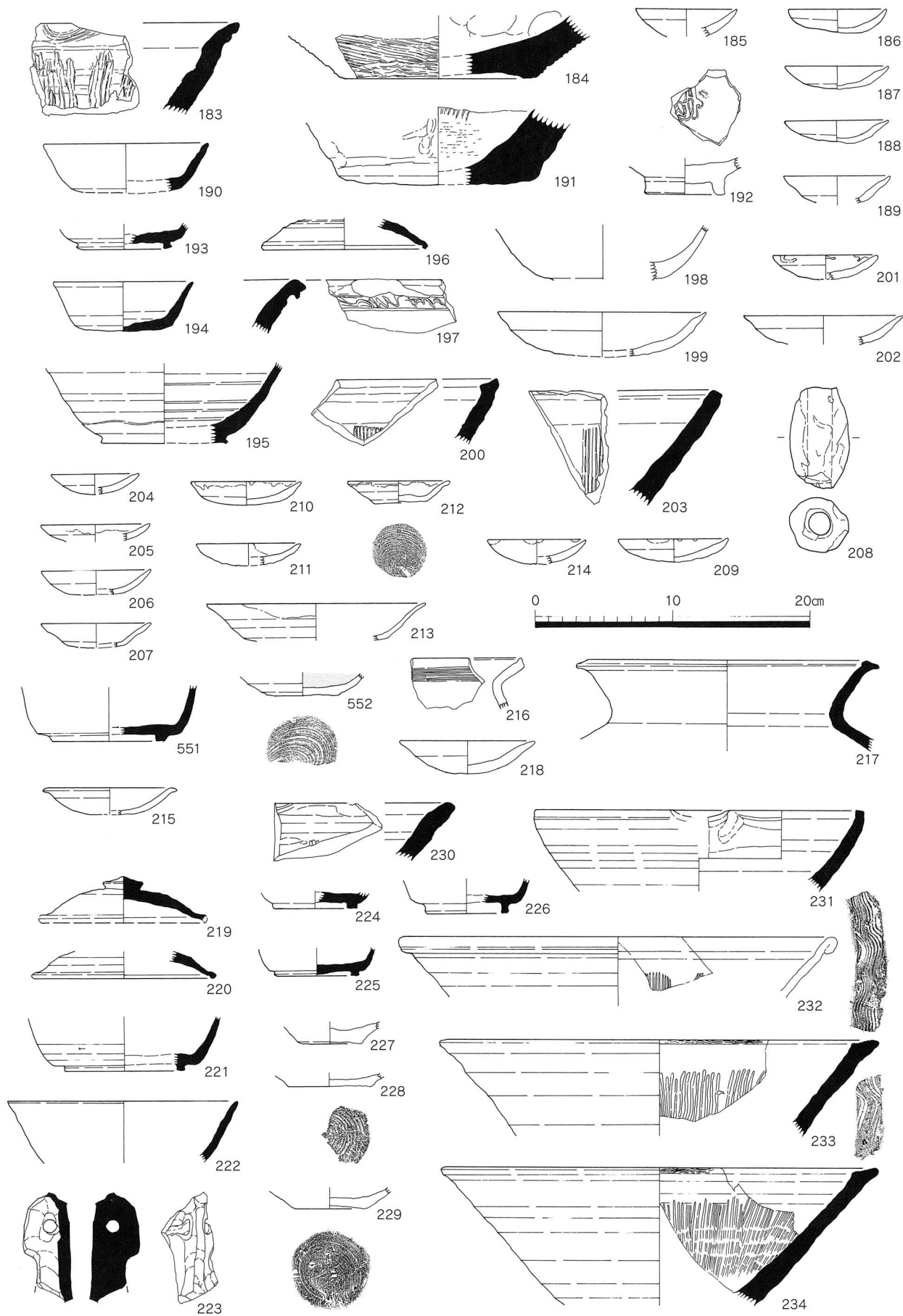
SK004:089~102





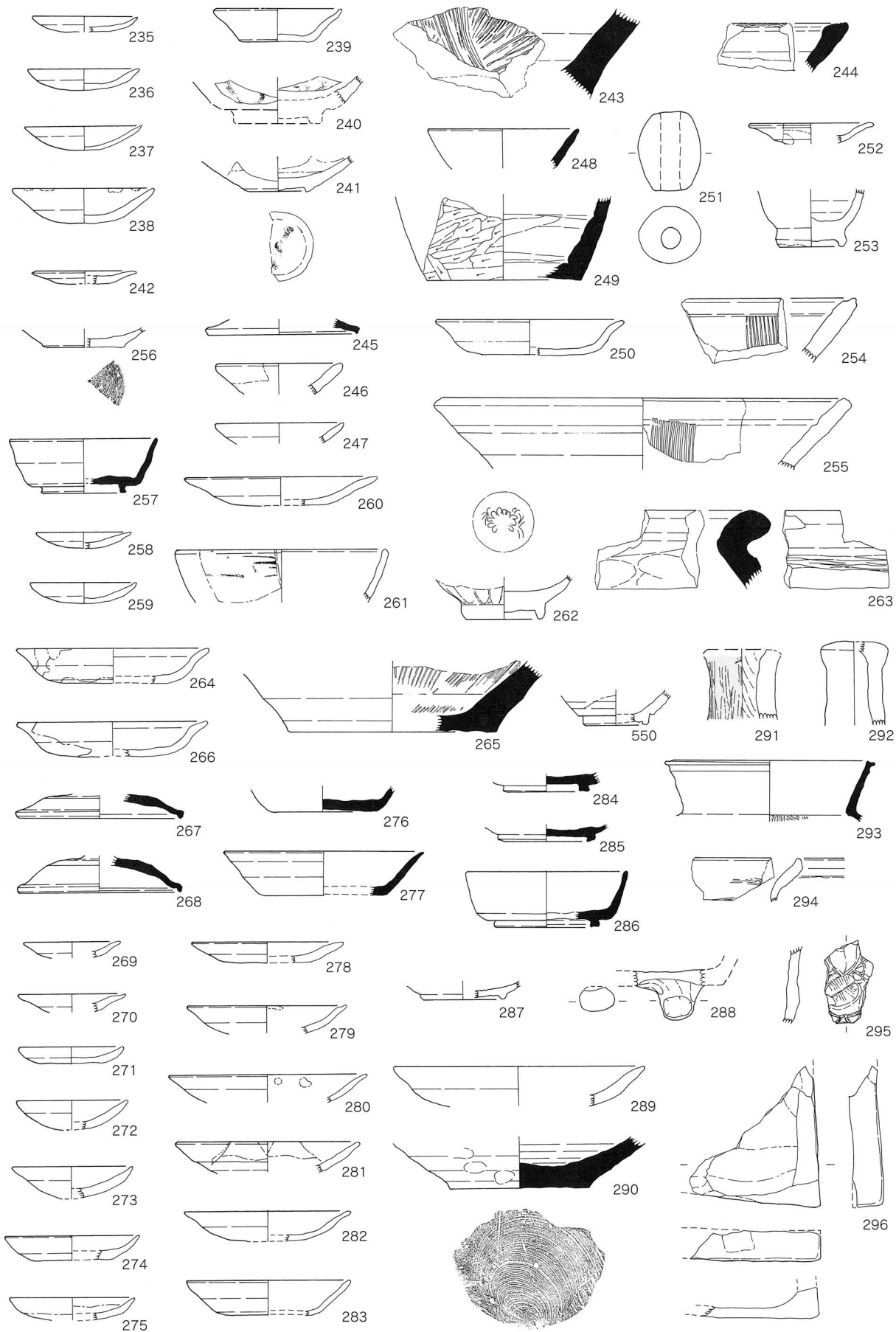
遺物実測図

- |               |               |               |               |               |               |               |               |
|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|
| SK008:119-120 | SK009:121     | SK010:122     | SK011:123     | SK012:124-125 | SK013:126     | SK014:127-128 | SK015:129     |
| SK016:130~133 | SK017:134     | SK018:135     | SK019:136     | SK020:137-138 | SK021:139     | SK022:140     | SK023:141     |
| SK024:142     | SK025:143-144 | SK026:145     | SK027:146~149 | SK028:150     | SK029:151     | SK030:152-153 | SK031:154     |
| SK032:155     | SK033:156     | SK034:157     | SK035:158     | SK036:159~161 | SK037:162~164 | SK038:165~168 | SK039:169-170 |
| SK040:171-172 | SK041:173     | SK042:174-175 | SK043:176     | SK044:177~179 | SK045:180     | SK047:181     | SK047:182     |



遺物実測図

SK047:183.184 SK048:185 SK049:186~189 SK050:190~192 SK051:193 SK052:194.195 SK053:196~198 SK054:199 SK055:200  
 SK056:201.202 SK057:203 SK058:204.205 SK059:206 SK060:207 SK061:208.209 SK062:210~213 SK063:214 SK064:551 SK065:552  
 SP001:215 SP002:216 SP003:217 SP004:218 SD001:219~234



遺物実測図

SD001:235~241

SD004:256・257

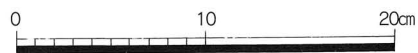
SD007:266~296

SD002:242~244

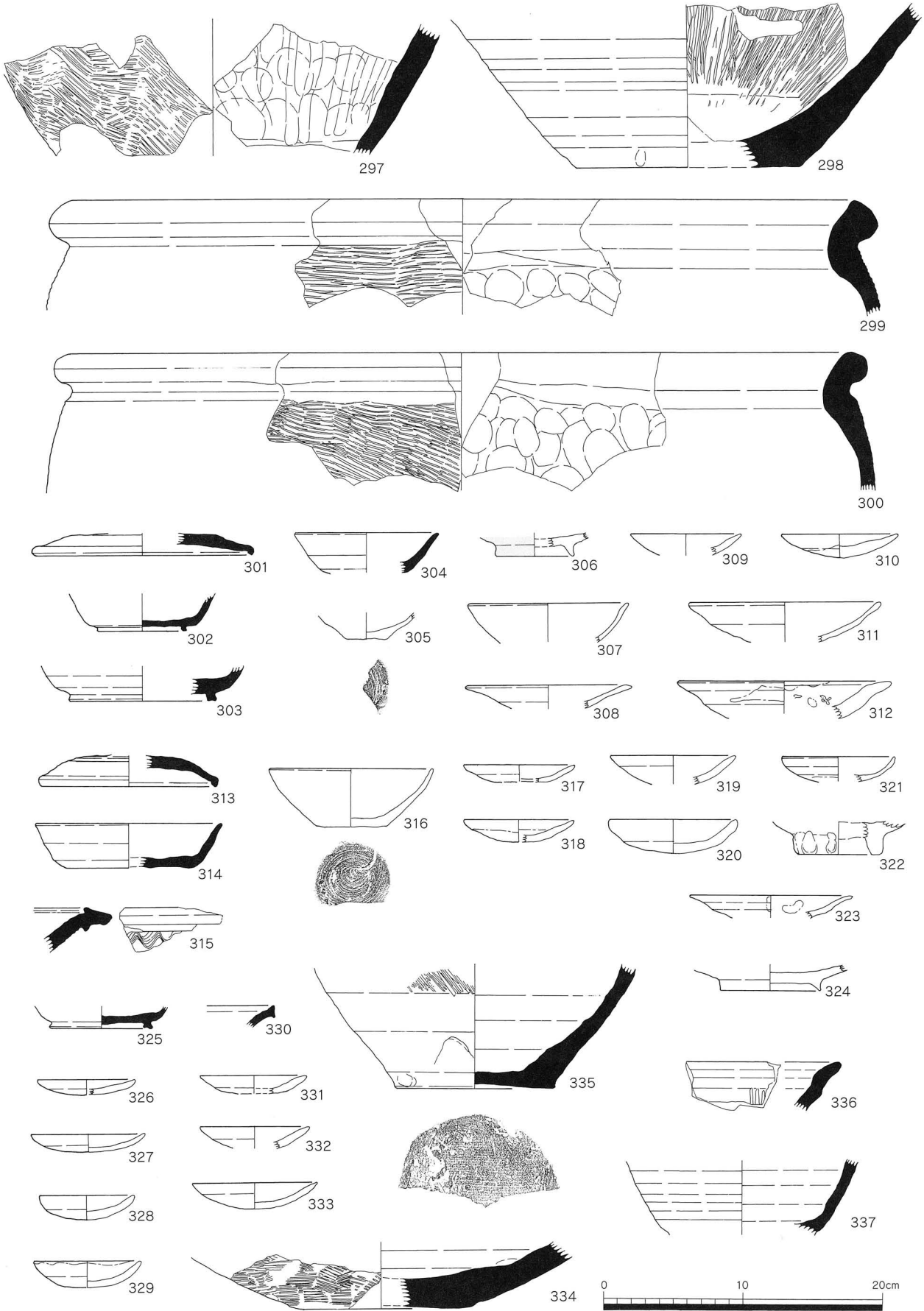
SD005:258~263

SD003:245~255

SD006:264・265・550







遺物実測図

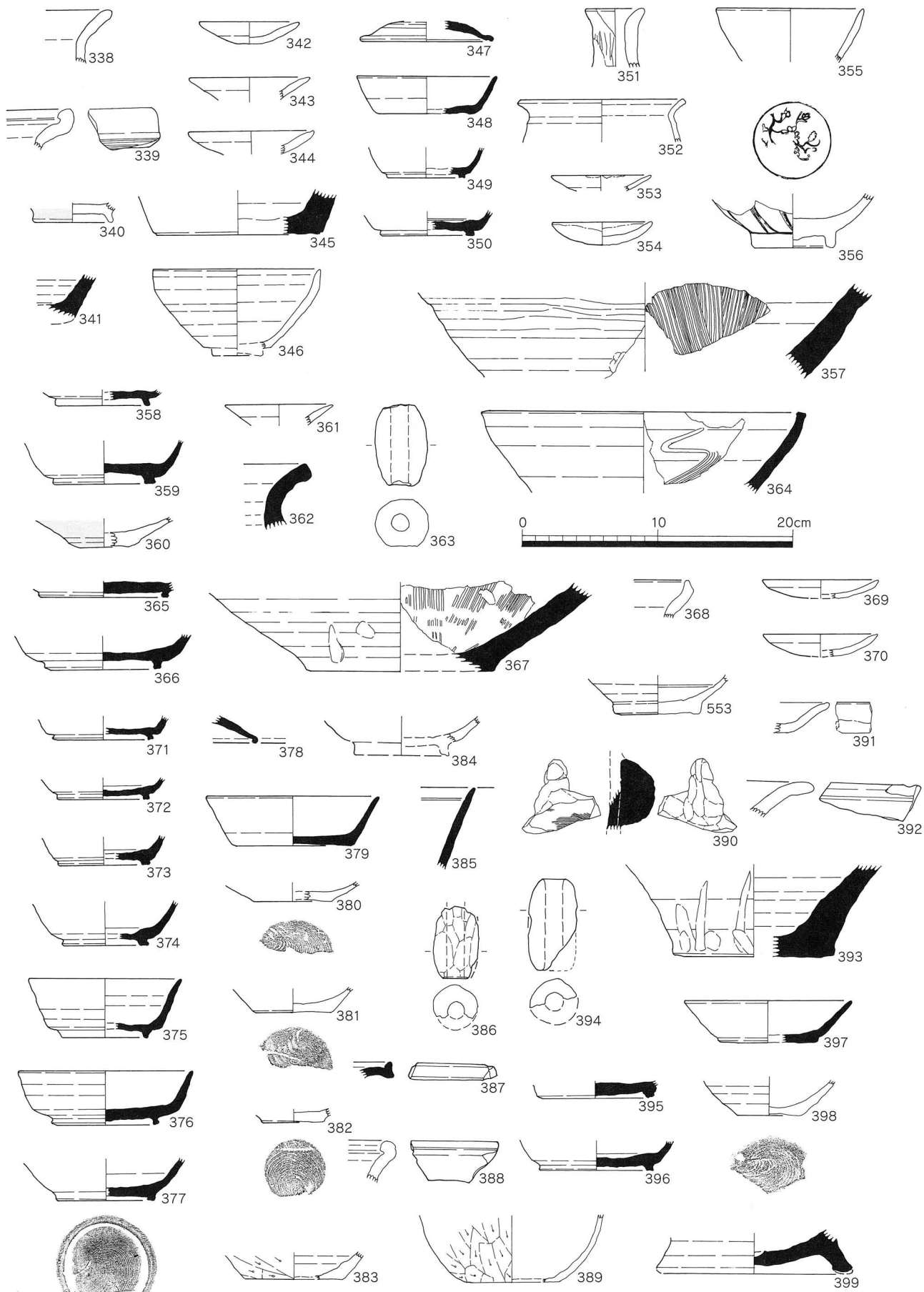
SD007:297~300

SD008:301~312

SD009:313~324

SD010:325~335

SD011:336~337



遺物実測図

SD012:338~346  
SD018:394~396

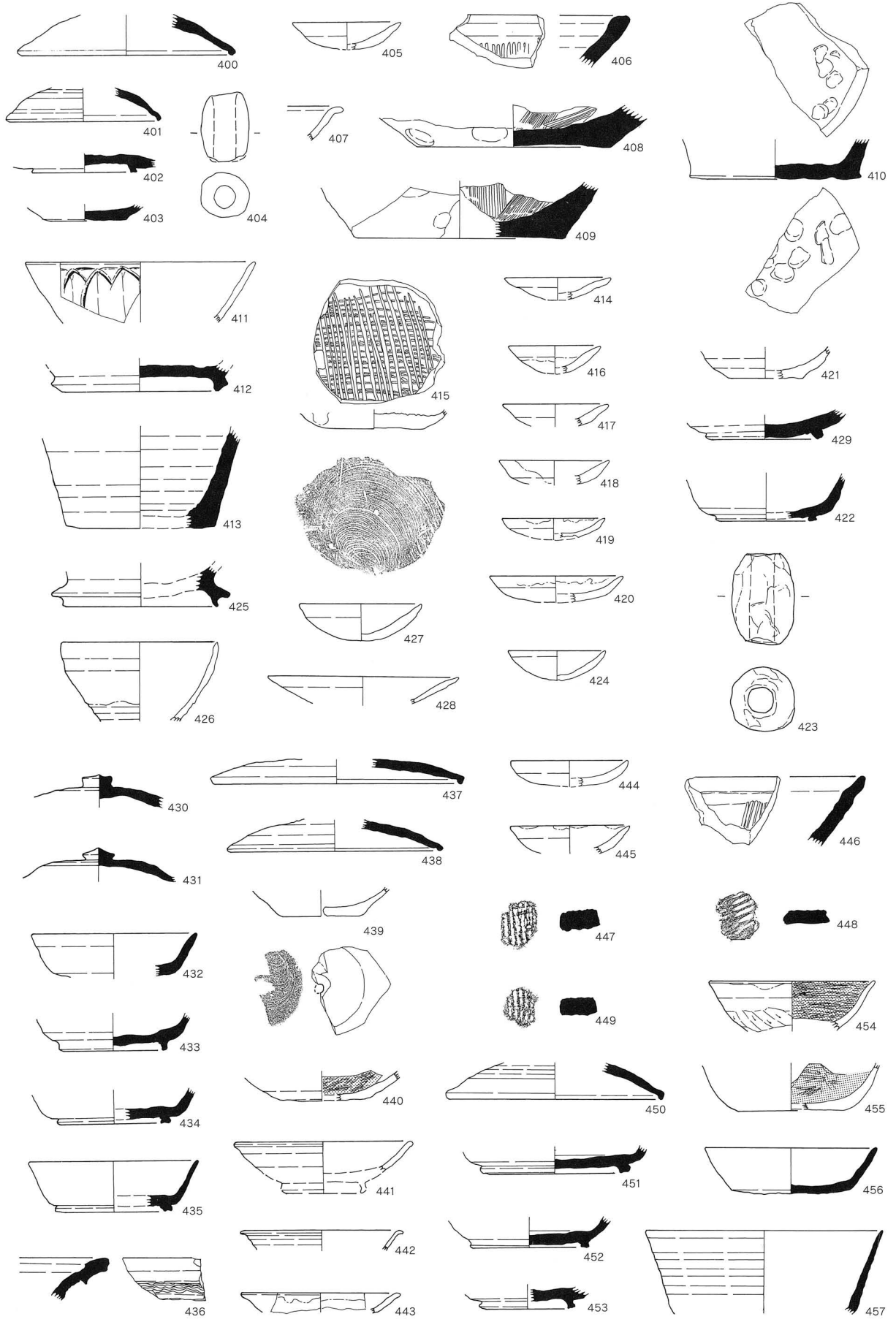
SD013:347~357  
SD019:397

SD014:358~364  
SD020:398

SD015:365~368  
SD021:399

SD016:369~370

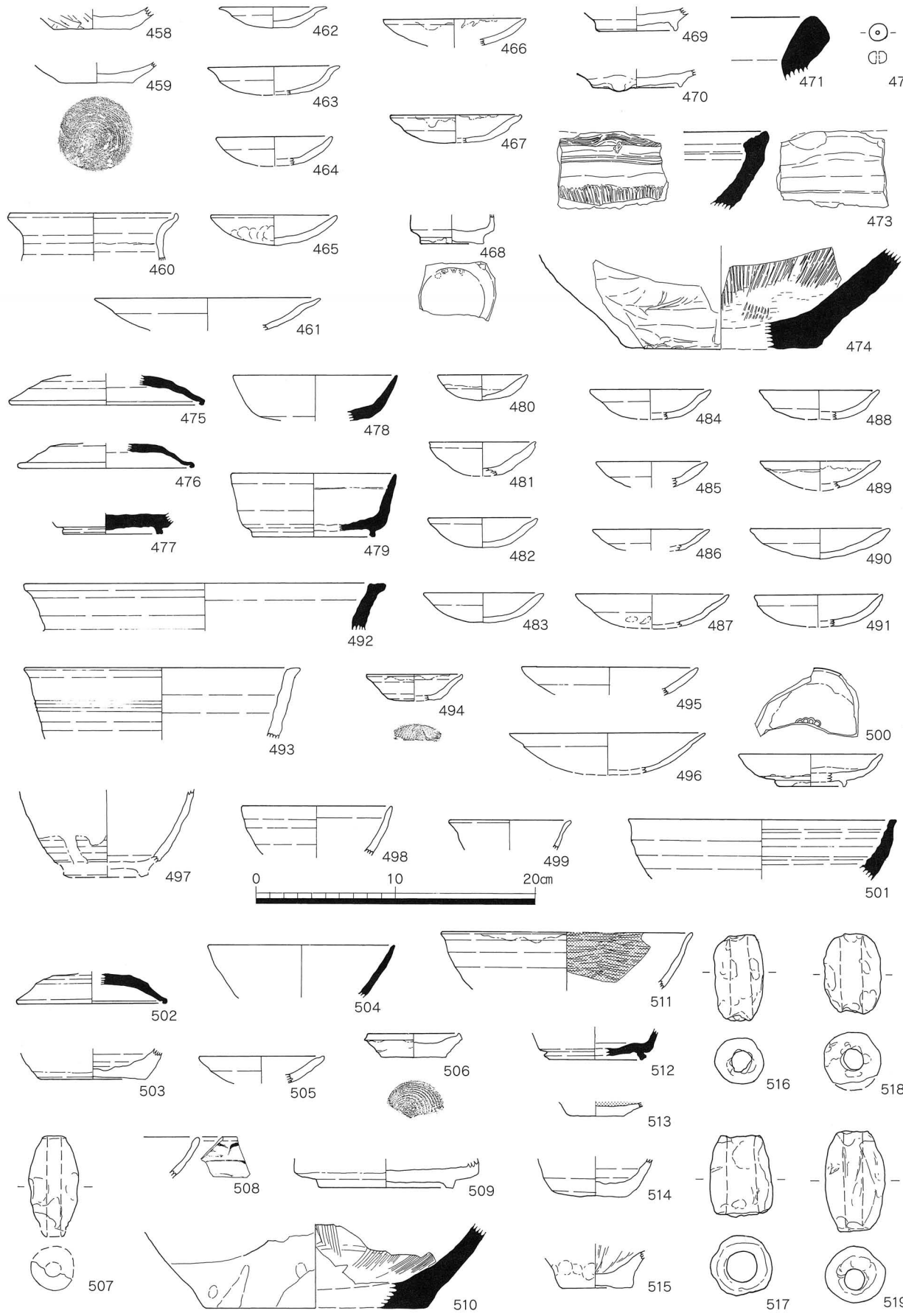
SD017:371~393·553



遺物実測図

SD022:400~410 SD023:411~413 SD024:414 SD025:415 SD026:416~423  
 SD027:424 SD028:425~428 SD029:429  
 第1調査区包含層：430~449 第2調査区包含層：450~457





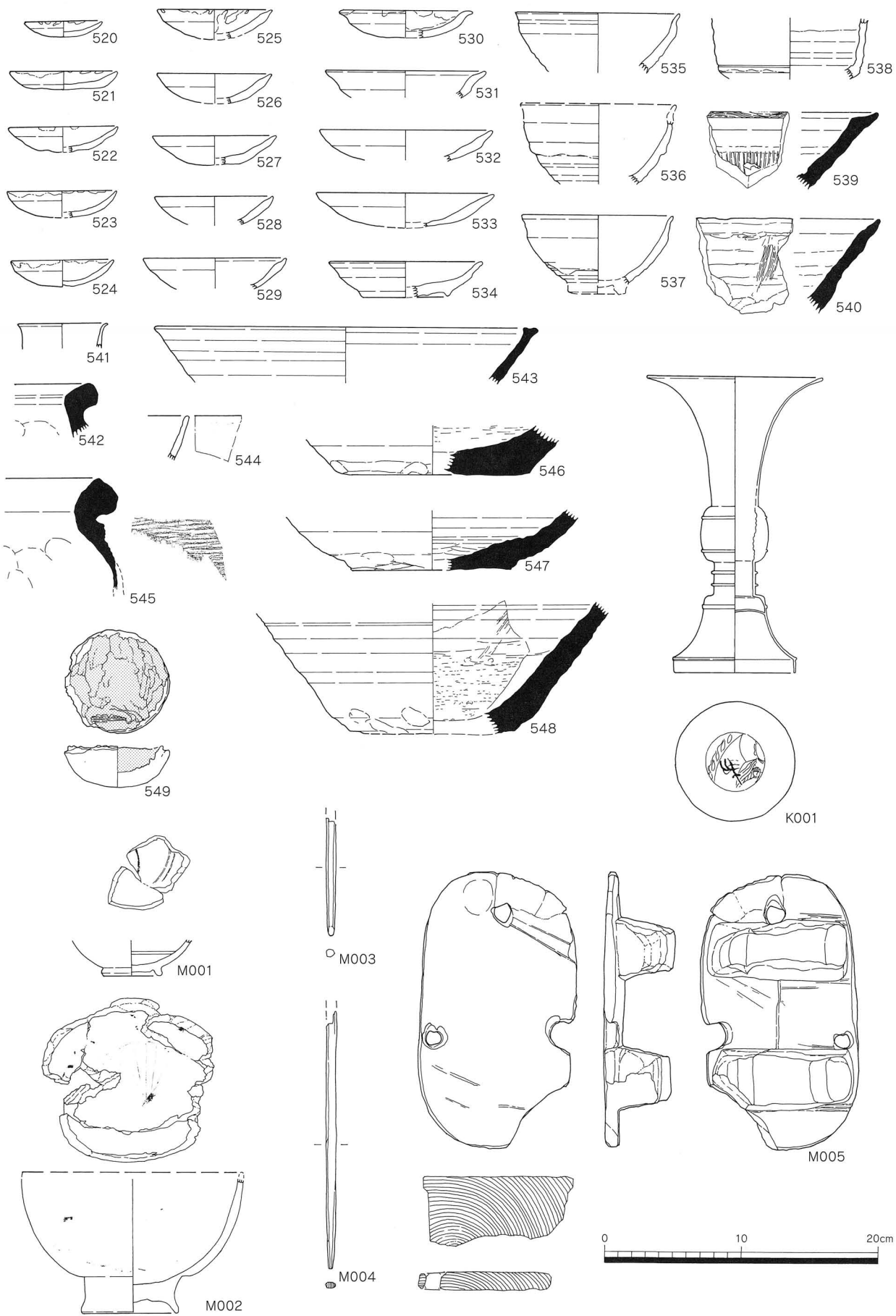
遺物実測図

第2調査区包含層:458~474

第3調査区包含層:475~501

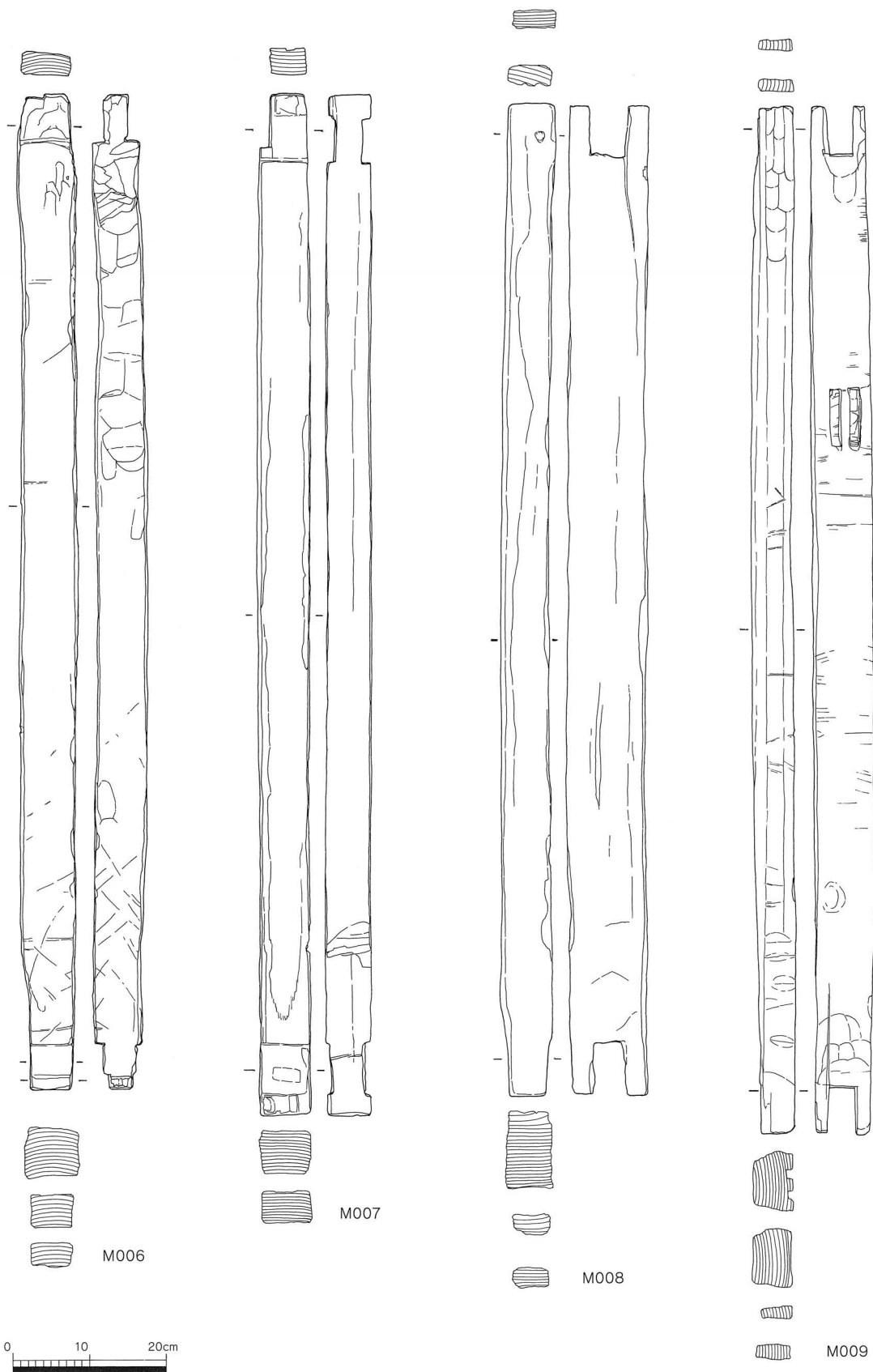
第4調査区包含層:502~510

排土・側溝・攪乱等:511~519

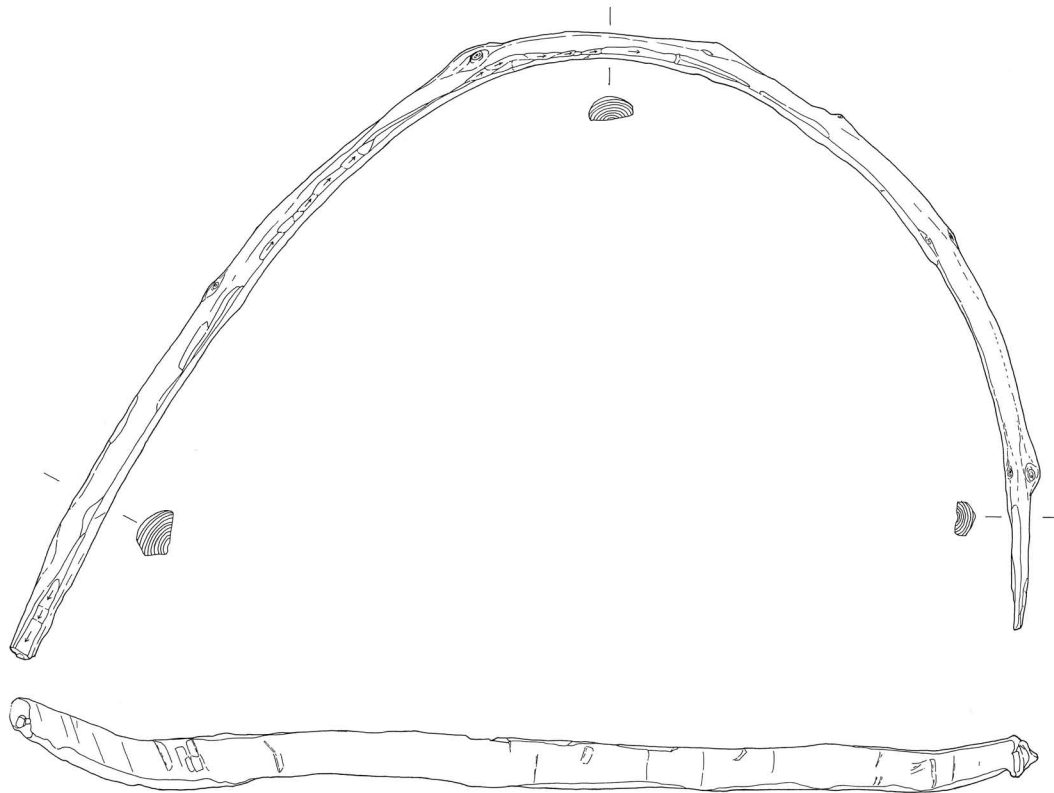
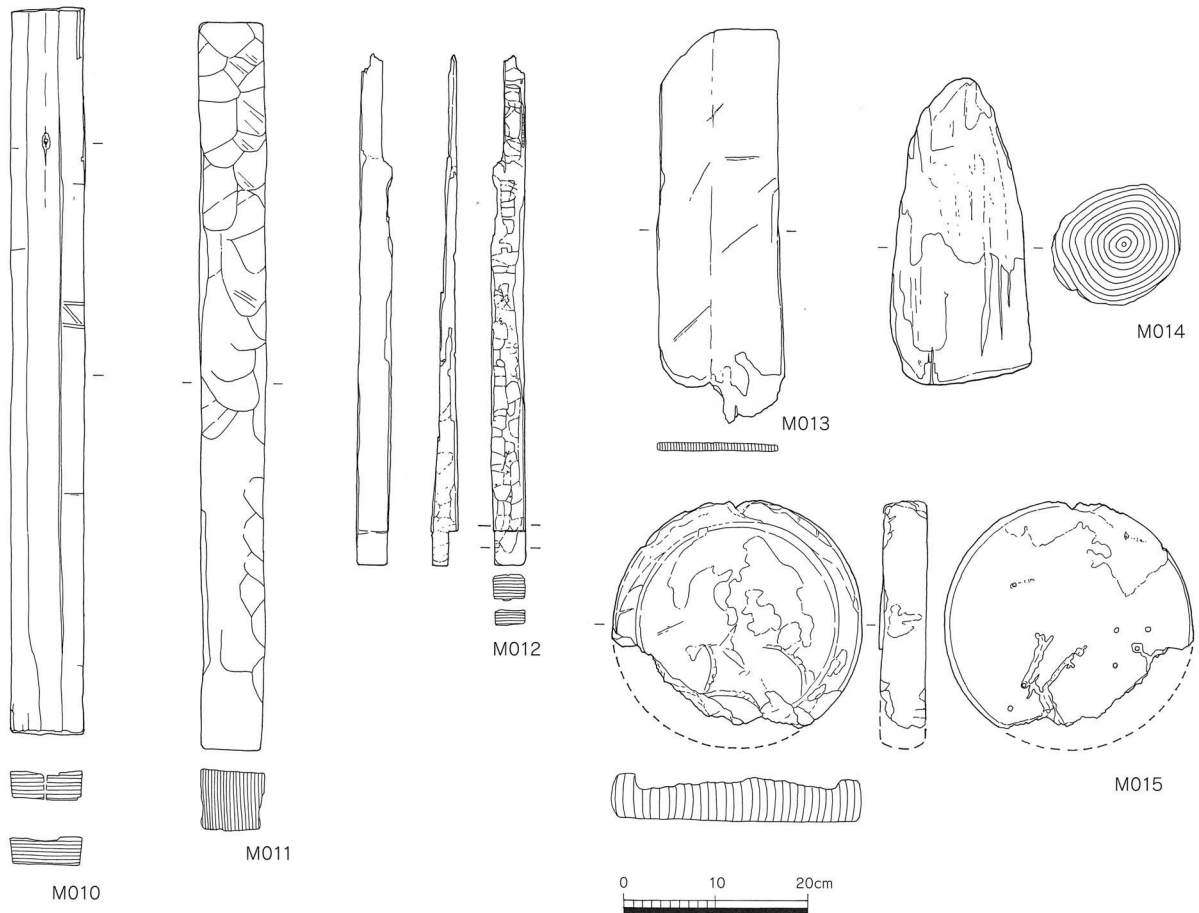


遺物実測図

排土・側溝・攪乱等: 520~548 SK027: 549 SK066: K001 SD031: M001 SK012: M002  
SK049: M003 SD012: M004 SX001: M005



遺物実測図  
SE003:M006~M009



遺物実測図

SE003:M010~M012

SK012:M016

SP003:M013 SP005:M014

SD007:M015



遺物実測図

SE002:S007      SK050:S004      SK067:S001      SK068:S013      SK065:S005  
 SD005:S008~S012      SD012:S003      SD013:S002      SD017:S006      SD026:S014

0      20      40cm





1. 調査地遠景（東から）  
2. 調査地遠景（北から）

写真2



1. 第1調査区 (北から)
2. 第1調査区 (南から)



1. 第1調査区北溝 (西北から)  
2. 第2調査区 (西から)

写真4

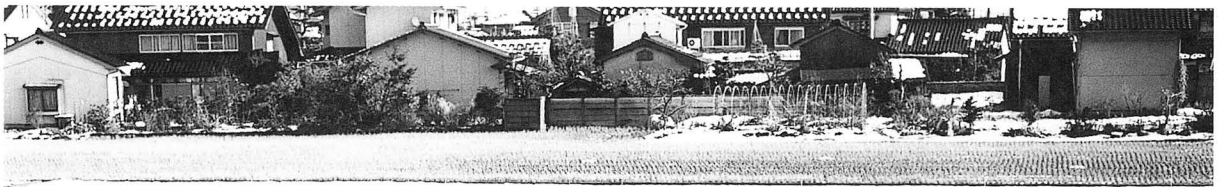


1. 第2調査区 (東から)
2. 第2調査区 (南から)



1. 第3調査区 (西から)  
2. 第3調査区 (東から)

写真6



1. 第4調査区 (西から)  
2. 第4調査区 (東から)